

# 地質標本館の来場者 アンケート分析 (2016年度)



デスモスチルス  
(歌登第1標本)



学名: *Desmostylus hesperus*  
原標本登録番号: GSJ F07743  
時代: 新生代第三紀中新世中期の中葉 (14 Ma ころ)  
産地: 北海道歌登町 (現枝幸町)



---

# 地質標本館の来場者 アンケート分析 (2016年度)

2017年10月

国立研究開発法人 産業技術総合研究所  
地質調査総合センター 地質情報基盤センター

---



## 要旨

地質標本館におけるアウトリーチ活動の PDCA サイクル（特に CA）を推進するため、2016 年度に地質標本館で集積した特別展ごとの展示に関する来館者の無記名アンケートの分析を行った。この分析を通して、地質標本館に対するユーザーのニーズを把握し、その結果をもとに、今後のアウトリーチ戦略を策定していくことになる。

分析項目は年度途中で変更したため、7 月の臨時展示「県の石」以前と夏の特別展示（夏展）以降とで共通するもの、共通しないものがある。特に夏展以降のアンケート項目は大まかには、来館者自身に関わる情報（年齢、居住地など）、館内展示に関する情報（展示内容、展示設備など）、館内環境に関する情報（空調、照明など）、解説サービスに関する情報（見学案内、QR コードなど）、および全体的な感想などからなる。

展示や館内環境に対する満足度は概ね高い評価を得ている。展示の要望（臨時展示「県の石」以前）および興味を持った展示（夏展以降）はほぼ同じような傾向を示し、鉱物・化石、地震・活断層、地質学一般、鉱業・資源工学などが多い。改善要望としては、展示設備の修理・改善、館内環境の改善が比較的高い。前者は、展示物の故障などによるものが主であるが大規模改修計画との兼ね合いであまり手をつけられないものが対象となっている。後者は、室温や室内の明るさなど、個人による感じ方の違いのあるものが多い。ともに改善がすぐにできないか、個別の感じ方により簡単には解決できない問題が挙げられている。

これらの要望と今後の対応策に関する情報は、引き続き地質調査総合センターのアウトリーチ拠点としての地質標本館の運営・施設改修へつなげるための一次データとして利用する。

## 1. はじめに

本報告は、地質標本館に来館される方にアンケートを取らせていただき、2016年度分についてとりまとめたものである。これまで、地質調査総合センター(GSJ)技術資料集5『地質標本館来場者アンケート分析(2007年度-2015年度夏展まで)』([https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ\\_ComRep\\_05\\_2016.pdf](https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_05_2016.pdf))、同6『地質標本館来場者アンケート分析(2015年度後半:秋~冬の特別展)』([https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ\\_ComRep\\_06\\_2016.pdf](https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_06_2016.pdf))として2015年度分までの来館者アンケートデータをとりまとめ報告している。一方、一般向けにはGSJ地質ニュースにとりまとめたものを報告している(森尻ほか,2015,2016)。技術資料集での取りまとめの目的は、前報告書に記したとおり、地質標本館におけるアウトリーチ活動のPDCAサイクルの実施(特にCA部分)である。

既報告書でも指摘したように、回収されたアンケートに書かれたコメントは必ずしも全来館者の平均的な感想とは言えないことを前提として分析する必要がある。しかしながら、アンケートに記されているコメントは、ユーザーのニーズを知るための貴重な一次情報であり、それらの点を認識した上で本報告をまとめた。今後、この分析結果を、「地質標本館のニーズ分析」、「展示企画立案」、「標本館グッズ開発」等へ活用し、そしてアウトリーチ活動に関わるGSJの各研究部門の研究者にフィードバックすることで、研究成果普及活動の後押しとなることを期待する。さらには、今後のGSJのアウトリーチ戦略の策定に活用していただければ幸いである。

第1表 2016年度の特別展示・臨時展示一覧

展示時期	特別展タイトル
3月29日-4月17日	(常設展示のみ)
4月19日-5月22日	春展 第7回「惑星地球フォトコンテスト」入選作展示会 『地球写真の世界』
5月24日-7月3日	(常設展示のみ)
7月5日-7月18日	臨時展示 県の石
7月20日-10月2日	夏展 あこの山この山どんな山 -「山の日」制定記念 日本の山の地質-
10月4日-11月6日	日本ジオパーク認定記念臨時展示 「筑波山地域ジオパークを学ぼう！」
11月8日-1月15日	「首都をささえる大地のしくみ」-地質情報展2016とうきょう- 再展示
1月17日-2月26日	新春特別展 ふるさとの新たな主役「県の石」
2月28日-3月26日	GSJのピカイチ研究 -2016年のプレスリリース, 主な研究成果より-
3月28日-4月3日	(常設展示のみ)

## 2. アンケートの取りまとめ

2016年度の地質標本館での特別展示・臨時展示（第1表）は、研究戦略部研究企画室国内連携グループが主導して企画された。2016年度は7つの特別展示・臨時展示が開催されている。一方、この際に配布したアンケートは、7月18日まではこれまで使用していたフォームであったが、地質情報基盤センター地質標本館室運営グループが内容を見直して、7月20日の夏の特別展示（夏展）の開催に合わせてアンケート内容を変更した。

7月18日までのアンケート項目は以下（第2表）の通りであるが、常設展示および臨時展示に対するアンケートでは4.および5.の項目はない。

第2表 2016年度アンケートの内容1（7月18日まで）

1. あなたの年齢・性別は？（個別記入）
2. どこから来ましたか？（つくば市内／茨城県内つくば市外／茨城県外）
3. 地質標本館に来た目的は？（常設展／特別展／その他）
4. （特別展の期間には）特別展を何で知りましたか？ （地質標本館ホームページ／掲示ポスター／その他）
5. 特別展をご覧になってどのように思いましたか？ （おもしろかった／おもしろくなかった）
6. 今後、どのような内容の展示を見たいですか？（自由記入）
7. ご意見・ご要望を自由にお書き下さい。（自由記入）

一方、夏展以降のアンケート内容は以下（第3表）の通りである（表現を簡素に改めている）。

第3表 2016年度アンケートの内容2（7月20日以降）

<p>1. 本日で見学頂きました地質標本館は、いかがでしたか？ ①満足／②やや満足／③やや不満足／④不満足</p>
<p>2. またご来館いただけるでしょうか？ ①ぜひ来たい／②できれば来たい／③来るかもしれない／④もう来ない</p>
<p>3. お客様ご自身について 「性別」①男／②女 「年齢」①18歳以下／②19～29歳／③30歳代／ ④40歳代／⑤50歳代／⑥60歳代以上 「お住まい」①つくば市内／②茨城県内（つくば市以外）／③茨城県外</p>
<p>4. 今回のご来館のきっかけとなるもの（複数可） ①地質標本館公式ウェブサイト／②インターネット（ブログ、SNS等）／ ③掲示ポスター・チラシ／④新聞・雑誌・テレビ／⑤知人の紹介／⑥その他</p>
<p>5. ご興味を持った展示テーマ（複数可） ①鉱物／②化石／③岩石／④地震／⑤火山、温泉／⑥資源、環境／ ⑦地質学一般／⑧その他</p>
<p>6. 展示物について (1) 展示の仕方や表示方法（パネル、ラベル等の説明）はわかりやすかったですか。 (2) 展示機器の使い勝手はいかがでしたか。 ①満足／②やや満足／③やや不満足／④不満足</p>
<p>7. 建物やサービスについて (1) 受付の対応はいかがでしたか。 (2) 案内表示（順路、トイレやエレベーター等）はわかりやすかったですか。 (3) 館内の明るさはいかがでしたか。 (4) 館内の空調の温度設定はいかがでしたか。 (5) 展示物、展示室、トイレ、洗面所及び通路の清掃は行き届いていましたか。 ①満足／②やや満足／③やや不満足／④不満足</p>
<p>8. 利用した解説サービスについて (1) 説明員の解説 (2) QRコード (3) 標本館クイズ ①満足／②やや満足／③やや不満足／④不満足</p>
<p>9. 当館へのご希望、ご意見があればお聞かせください。（自由記入） （例）特別展についての感想・ご要望、ミュージアムグッズ、イベントの内容等</p>

取りまとめの方針は、前報告書と同様、それぞれの項目の集計を行うことで、「一般の人から地質標本館に求められているもの（ニーズ）」、「展示企画立案」、「標本館グッズ開発」等に関する情報を抜き出し整理した。それらを図示し、前報告書と視覚的に対比できるよう心掛けた。

また、地質調査総合センターの第4期中長期計画では、以下の4つの研究戦略が挙げられており、アンケート結果の分析にはこれらの戦略課題との対応も考慮した。ただし、「戦略課題4」は全戦略課題の出口戦略に当たるものであり、この報告がまさにその「戦略課題4」の一部（成果報告）をなすものでもあるため、前回同様、あえて図表の中では示していない。

研究戦略1：地質情報の整備

研究戦略2：レジリエントな社会基盤の構築に資する地質の評価

研究戦略3：地圏の資源と環境に関する評価と技術の開発

研究戦略4：地質情報の管理と社会利用促進

### 3. アンケート内容の分析結果と個別対応案

アンケートの回収数は、分析対象期間を2つに分けると、2016/3/29～7/18の"前半"期間が602件、2016/7/20～2017/4/3の"後半"期間が3,892件であり、期間内の総計は4,494件である。2016年度の来館者数が41,613人であるので、約9%の回収率になる。なお、この間の団体入場者は11,513人で全来館者数の約28%を占めており、団体客や学校単位での来館においては、基本的に引率者のみがアンケートに答えているため、アンケート回収率にも影響している。

第2章に記したアンケート項目のうち、年齢、どこから来たかについては、2016/3/29-2017/4/3全期間を通しての集計した円グラフを第1、2図として示した。"前半"期間の3.と5.、"後半"期間の1.、2.、6.、7.、8.についてはそれぞれ当該期間のみの質問であるので、当該期間分のみの集計を表示した（第3～5, 8, 20図。）。"前半"期間の4.は"後半"期間の4.に、"前半"期間の6.は"後半"期間の5.に関連するが、回答の選択肢や質問の意図などが異なるため、"前半"と"後半"期間の両方の集計グラフを並べて見られるよう表示した（第6, 7図および第9, 10図）。

最後のご意見・ご要望は"前半"期間、"後半期間"ともに自由記述でお願いしたが、"後半"期間については、7.および8.に付属の自由意見の内容も加えている。この項目は自由意見のためその記述内容は多岐にわたるが、前述のように要望全体を俯瞰し改善の検討材料とするために、これまでの報告書に従って個々の要望内容を包含できるようにキーワードで整理した。自由意見の中には好意的なものが多数であるが、その一方で様々な改善要望も記されている。この改善要望は必ずしも適切なものばかりではないが、今後の地質標本館の運営を改善するための重要なカギとなるものも多く含まれている。このため、前報告書と同様、

どのような要望が多いのかを整理し、2016/3/29-2018/4/3 全期間を通しての総数を円グラフとして第 21 図に示した。

さらに、アンケートとは異なるが、地質標本館受付で記録している年間の入館者に関わる集計を参考として第 22～27 図で示す。また、特別展示および常設展示のみの期間ごとの集計グラフを第 28～51 図に示す。

以下、"後半"期間を軸に、"前半"期間の項目を織り交ぜて集計結果を見ていく。

### 3.1 回答者の年齢層

回答者の概要を考える参考として、年齢層をまず見てみる。

回答者の年齢層（第 1 図）の傾向を見ると、18 歳以下が最も多く全体の 4 分の 1 ほどである。これは最近の回答者の傾向（地質情報基盤センター, 2016a, b）からすると異例であるが、18 歳以下の世代が多いのは、2011 年の冬の特別展示期間以来のことである（地質情報基盤センター, 2016a 参照）。続いて多いのは 40 歳代の回答者で、これは学校単位の団体では引率教員の年齢層がそのくらいの年齢層であることや、個人来館者も小中学生の子供とその親が多く、主にその親がアンケートに回答しているためではないかと考えられる（地質情報基盤センター, 2016a, b）。

### 3.2 どこから来たか

居住地に関連する情報（どこから来たか）を見ると、これまで（地質情報基盤センター, 2016a, b）と同様、茨城県外が多数を占める（第 2 図）。これはつくば観光の中の一観光スポットとして訪れる人が多いことを意味していると思われる。2017 年 3 月の特別展「GSJ のピカイチ研究」以降、県外からの来館者の割合がさらに大きくなっているが（第 31 図）、これは同年 2 月 26 日に圏央道（首都圏中央連絡自動車道）の茨城県内全開通の時期と符合しており、車での来館がより便利になったことに起因するものと考えられる。

### 3.3 全般的な満足度

来館された方々が館内で感じたことについて見てみる。"後半"期間のアンケート（第 3 表）では、来館者に協力をしていただきやすいように、これまでとは質問の仕方を変えて、全体的な印象から答えていただくこととした。

まずは館内での見学全般を通してどう感じていただいたかという質問である。回答を見ると、大半が満足とあり、やや満足を含めると回答を記入していただいた方の 99%が満足していただいている（第 3 図）。不満足、やや不満足と回答した方については、もともと興味のない方、たまたま空調設定があっっていなかった方、機器の調整時期に重なった方などのようである。

### 3.4 またご来館いただけるか

また機会があればご来館いただけるかどうかの質問に対して、回答を記入いただいた方の80%以上が「ぜひ来たい」、「できれば来たい」の積極的な回答、20%弱の方が「来るかもしれない」で、「もう来ない」は1%ほどである(第4図)。「もう来ない」と回答された方を見ると、遠方から来館された方が多く、距離的な理由からこのような回答になったのではないかと考えている。

### 3.5 地質標本館に来た目的

この質問は、「前半」期間のみの特別展示と臨時展示の期間の質問であるが、回答に記入いただいた方の80%以上が来館の目的を常設展示と回答している(第5図)。特別展示と回答したのは6%にとどまっているが、これは自由見学の団体の方など、あらかじめ旅行計画を立ててこられた方が多かったことによるのではないかと考えられる。

### 3.6 特別展示を何で知ったか(「前半」期間)、および来館のきっかけ(「後半」期間)

特別展示の案内は地質標本館のウェブサイトや産総研の公式ツイッターなどで行っている。また、つくばエキスポセンターなど産総研近隣の機関に掲示を依頼しているとともに、つくば市内近隣の学校などにもチラシを配布している。

「前半」期間は特別展示の期間のみの質問であるが、地質標本館のウェブサイトと掲示ポスターともに多いようである(第6図)。「後半」期間は、質問の区分けが細くなかったが、地質標本館ウェブサイトやポスター・チラシの割合が減って、ブログやSNSなどインターネットによる情報や知人からの紹介という回答が多くなっている(第7図)。これは質問事項の変更による影響もあるかもしれないが、むしろ地質標本館イベントのPR手段として産総研公式ツイッターの活用を高めた成果と捉えるのが妥当かもしれない。

### 3.7 特別展示を見て面白かったか(「前半」期間のみ)

これは「前半」期間のみの質問である。特別展示を見たことの感想を聞くことが意図されているが、実際には常設展示を含めての回答も多く含まれている。単純に面白かったか、面白くなかったかの回答を選択していただいたが、概ね面白かったという回答であった(第8図)。ただし、これまでと同様、無回答が4分の1ほどもある。

### 3.8 今後の展示内容への要望(「前半」期間)、興味を持った展示(「後半」期間)

「前半」期間では「今後どのような展示を見たいか」という質問に自由形式で回答をいただいた(第9図)。これに対して「後半」期間は「興味を持った展示」を、その他を含めて8つのキーワードでの選択式とした。ともに複数回答可としたが、「後半」期間では回答者数の多いことに加え、選択項目が多かったこともあり、

回答が 8,291 件となった（第 10 図）。なお集計においては、「前半」期間では自由記述の中から 2015 年度の報告で選定され戦略課題と関連付けたキーワード（地質情報基盤センター, 2016a, b）に結びつけて拾い出し、「後半」期間では、あらかじめ表示した 7 つのキーワードの選択に加え、その他に設けられた自由記述欄から関連のキーワードを拾い出している。このため、後半期間ではあらかじめ決められたキーワードにひきずられて回答したようで、選択欄にないキーワードは極端に少なくなっているが、傾向を見る限り「前半」期間と「後半」期間の大まかな回答パターンは似ているように思える。ただし、成果普及に関わる項目のキーワードの割合は選択項目にないためかなり減少している（第 10 図）。「前半」期間と「後半」期間で問い方が変わってしまったが、大局的に見れば、GSJ の戦略課題と来館者の興味との関係を見るには、今後もこの形式（第 10 図）で集計していくことで問題なさそうである。

### 3.9 展示物について

夏展以降の「後半」期間で、展示物や建物、サービスについての質問が加わった。これらは「前半」期間では、ご意見ご要望欄に自由形式で記述をお願いしていただいていた事柄でもあるが、選択式で回答いただくこととした。

展示物については、①満足、②やや満足、③やや不満足、④不満足の 4 段階で回答をすることになっている。集計結果は第 11, 12 図にあるように概ね満足のようなものである。

### 3.10 建物やサービス

建物やサービスについては、受付の対応、案内表示、室内の明るさ、空調の温度設定、館内各所の清掃状況について、①満足、②やや満足、③やや不満足、④不満足の 4 段階で回答をすることになっている。この 5 つの質問に対する回答の集計結果は第 13～17 図で示しており、概ね満足となっている。上記の「3.7 展示物について」も含めて、それぞれの項目に自由意見欄があるが、ここでの記述があれば集計・分析においては後述の「3.12 ご意見、ご要望」で取りまとめることとしている。

### 3.11 利用した解説サービス

地質標本館として提供している解説サービスには、(1) 館スタッフによる予約団体への説明解説、(2) スマートフォンやタブレット利用による QR コード解説システム、(3) 紙資料による館内クイズの 3 種類がある。これも①満足、②やや満足、③やや不満足、④不満足の 4 段階での回答となっており、また合わせて 3 つのサービスまとめた自由意見欄もあるが、集計・分析は後述の「3.12 ご意見、ご要望」と合わせてとりまとめる。

集計結果を第 18～20 図に示す。回答総数は 3,892 件で、このうち解説サービ

ス利用は 2,133 件となっている。2005 年以来使用してきた音声解説システム「アイミュレット」は、導入当初は評価も高かったが、経年劣化と更新の不便さから次第に使用不能なものが増えてきたため利用者からの不満も出るようになってきており、2016 年度からは来館者には勧めないこととした。代わりに、QR コード解説システムで日英の音声解説も可能な状況のため、利用された方からは良い感触を得ている（第 19 図）。

### 3.12 ご意見、ご要望

最後に自由記述で、全体のご意見、ご要望をうかがっている。ここでの記述は、地質標本館に課せられた役割と照らし合わせながら今後の参考とするものである。

自由意見として寄せられた内容を、2015 年度までの報告書（地質情報基盤センター, 2016a, b）に従って以下の 12 のキーワードに整理してみた（第 21 図）。

- ①展示物の更新・入れ替え
- ②解説内容の充実・修正
- ③わかりやすい解説・子供向け解説
- ④質問対応・解説案内者の充実
- ⑤展示設備の修理・改善
- ⑥体験型展示
- ⑦動線の改善
- ⑧館内の環境改善
- ⑨PR 強化
- ⑩ミュージアムショップの設置
- ⑪他機関との連携
- ⑫その他（地質標本館外の要因）

それぞれのキーワードとその中で整理された意見で目についた事例を第 4 表に示す。これらの自由意見の要望については、既に対応済みのものも多数あるが、現在地質標本館の大規模改修計画に沿って進めている今後の改修の検討内容に寄与できる事項が含まれている。

#### ①展示物の更新・入れ替え

「展示物の更新・入れ替え」については、すでに展示しているものに気付いていない場合も見受けられるが、受付に問い合わせただけであれば案内している。社会情勢に応じて、あるいは最新の研究成果が創出されるたびに、これを広報するような展示内容を企画するコーナーを作る要望があるが、これについては 2016 年度中にトピックコーナーを新設した。今後、このコーナーで、産総研からプレス発表された最新研究成果をできる限り旬な時期に入れ替えていくことが

第4表 自由意見の中の改善要望

①	展示物の更新・入れ替え	どこかに最新の研究成果(進行中のものも含めて)を紹介するコーナーがあれば有難いと思います。 地元コーナーが欲しいかな？ 恐竜の化石の種類が増えると子供が喜ぶと思います。
②	解説内容の充実・修正	名札の字が小さい。 専門用語の意味の解説がほしい。特に分類の仕方や名称。 鉱石の見方等あればよいのでは。 鉱物、岩石の説明が多いように感じられるので、できれば構造地質関係など地球物理的説明を加えていただければよいのではないのでしょうか。 各展示室の紹介パンフレットがあると後で頭を整理するのに役立つ。 中国語の解説書をほしい！／英語の説明をふやしてほしい。 もう少し解説を増やして頂きたいです。 映像がもう少しあるといい。 サンゴ化石等がどの部分が化石なのかわかりにくい、一部欧文のみのラベルがあり和文が欲しい。 鉱石の使用、用途が知りたい
③	わかりやすい解説・子供向け解説	子どもが興味をもてるような工夫をお願いします。 子供が体験できる展示を増してほしい。 クイズコーナーもっと小学生でもできそうな問題にしてほしい。むずかしすぎました。 説明に専門用語が多く、外国語の表記(産地など)有り。良く分からない所が多い。 基礎知識のない小学校低学年生が興味や好奇心をもてる導入の展示があるといいと思います。 もう少し初歩的な説明があると分かりやすいです。
④	質問対応・解説案内者の充実	自分のひろった石を専門知識のある方に説明していただけたら、拡大して見られるような設置があると、次につながるように思いました。 説明員の先生の顔写真などが表示してあるとお話しを伺いやすいと思いました。 ボランティア説明員さんとかいればなお良い。／質問に答えてくれる人が場内にいると良いかも。
⑤	展示設備修理・改善	QRコードの説明にアクセスできなかった。 特にありませんが音声による説明がもう幾つかのあってもよいと感じました。 故障中のものが増えて残念 ボタンを押して何が何秒くらい行われるのかの表示が欲しい 年寄りにわかりやすいよう文字を大きくしてはいかがでしょう。 ルーペで見る所に照明が欲しい。 ボタンがすぐに消えて次に進んでほしい。ストップボタンがあるとうれしい。 展示物を詰めすぎ。 子供の手に届かない、見えない部分もあった。 プレートの模型はプレートの動きがあるといいと思いました
⑥	体験型展示	化石ほり体験会をひらいてほしい。 何か体験できる物があればよかった。 クイズ問題(パネル)を増やしてほしい。 エレベータと順路の関係が分かり易くなるとよい。 分かりづらいところがある 順序が不明 トイレが一不明だった。 飲料水の自販機があるとよい。 館内が暗いので、老眼だと説明の字が読みづらい。 明るすぎる所あり 少しひえすぎ／少しあついです。 トイレ狭いです
⑦	動線の改善	授乳室が欲しい。 小学生がいてうるさかった 少し音楽が流れているといいかな…。さびしい感じがしたので。 このような施設を眠らせてはいけない。広く告知し、沢山のの方々に見てもらうべきと考えます。 最寄りの「並木二丁目」のバス停に(地質標本館前)とでもいれてもらえれば少しは知名度があがるのでは？ 圏央道も開通したので多くの小中学校と話し合っって見学を促進したらいいと思います。立派なしせつなので 原石の販売をしてほしい。 ミュージアムグッズもう少し種類があれば楽しくいいなと思います 飲食するコーナーやお店があるとよい。 化石チョコを受付でかえるように プラタモリとの連携希望 旅行、観光企画と提携し、もっと見学者を増やすと良い。 大人向けの地学教室などつくばジオパークとの共同イベント
⑧	館内の環境改善	一家に1枚ポスターが頂きたかった。毎年こちらで頂いたのでガッカリ…。 受付の記入が分かりづらかった。
⑨	PR強化	「地質ニュース」のバックナンバー配布をこれまで通り続けて欲しいです。来館のたびに頂いて楽しく読んでいます。サイトでpdfファイルも参照できるのですが、紙ベースの方が何かと便利なので。昨年くらいまであった、日本地震学会のパンフレット「なぬふる」も同様で、なくなってしまったのが残念でした。
⑩	ミュージアムショップ	駐車場の少ない。 地質標本館の名前は変えた方がよい。何が学べるかが分かる方がよい。 ご家族連れの方がボタンを押して遊んでいる子供を注意してくれないので困る 開館時間をのばしていただければ。境町方面からですが、かなり不便です。 ニホニウムは展示しないのですか？
⑪	他機関との連携	⑫ その他

重要である。そして、その運用においては、各研究部門との協調が欠かせない。

地元コーナーについては、2016年9月9日に日本ジオパークに認定された筑波山地域ジオパークについて、同ジオパーク推進協議会事務局の協力も得ながら2階テラスに展示物をある程度集約してコーナーの新設を行った。つくば周辺の方々に是非来館していただいて地元のジオパークについて知っていただきたいと考えている。

恐竜などの化石は一般来館者には人気のあるものの、GSJの研究との関連性で展示の要望には添えないものも多いが、特別展示などでの対応の検討も可能と考える。

#### ②「解説内容の充実・修正」及び③「わかりやすい解説」

「解説内容の充実・修正」と「わかりやすい解説」については、同じものを見ても簡単と思う人と難しいと思う人がいる。両方を満足させるのは難しいが、例えば専門家・知識が多い人向け、一般の非専門家向け、小～中学生程度向けといったように、入館者のレベルに応じた見学コースを用意することが必要であろう。ただし、パネル等の説明ではスペース的な限りがあるため、対象を絞り込む必要がある。

基本的な立場として、地質標本館は地質調査総合センターの広報施設かつ研究所の展示施設としての役割があるため、ある程度専門家が満足することが必要であろう。

一方、一般向け（小学校高学年以上が対象）の補完的な説明をする手段として、スマホやタブレット等の端末を用いたQRコードによる展示説明の運用を行っており、これをさらに充実させていく方向で努力している。今後導入が検討されるであろうARなどの活用により、展示標本中の鉱物や化石の位置表示を可能にし、ラベルの文字が小さいという意見にも対応できるものと期待している。また、現在進めている「おすすめ標本ストーリー」などの紙資料での情報提供も一般向けの補完説明として有効と思われる。

「子供向けの解説」については、対象年齢が定まらなると難しい。例えば、現在ウェブサイトで配信を開始したキッズページのまんがでの地質現象の説明をリーフレットにして展示物の近くに置けば、小さな子供には内容は難しいが興味を持って見てもらえる資料になると期待している。多言語化については、とりあえず英語解説があるが、日本への訪問の多い中国や韓国の方々への対応も考えていく必要がある。この場合、QRコード解説システムでの対応が現実的と思われる。

#### ④「質問対応・解説案内者の充実」

「質問対応・解説案内者の充実」については、説明員の確保をどうすべきかを検討しなければならないことが引き続き懸案である。休日の来館者に対する対応

を考えた場合には、職員の労務管理の面で実現できないところがあり、すぐに改善することは難しい。一方で、つくばサイエンスツアーオフィスが休日にガイド付きツアーを行っているが、解説内容についての品質保証を考えなければいけないので、このための研修を検討していきたい。

2016年9月の筑波山地域ジオパークの認定に先立って、同ジオパーク推進協議会が地質標本館内の展示物を利用した館内ジオツアーを月2回ほどのペースで休日に実施しており、地質標本館もジオパークの学習館として協力している。今後、同協議会のジオツアーガイド研修に協力して、ジオツアーの一つとして休日を含めた地質標本館の展示物見学ツアー実施をさらに支援していくことが望ましい。

#### ⑤「展示設備修理・改善」

「展示設備修理・改善」については、地質情報基盤センターとして、地質調査総合センター運営会議にはかった地質標本館ビジョンや地質標本館大規模改修タスクフォースと提案した展示改修計画に沿って現在改修が進められているところであり、大きな改修案件の実施とともに解消されていく予定である。ただし、軽微な故障等は日々の点検とともに修繕を進めている。

#### ⑥「体験型展示」

「体験型展示」については、現在「エキジョッカー」などの展示も一部あるが、常に担当者が付いていなければならないものは現状のスタッフ体制では難しいのが実情である。タッチパネルを使った説明展示などの設置などは今後も可能であるので考えていきたい。⑫「その他」の中にもあるが、各種体験学習イベントの開催もその一つであろう。

#### ⑦「動線の改善」

「動線の改善」については既に各所に表示が設置されており、また、館内パンフレットにもフロアマップが掲載されており、それほど問題はないと考える。前述のQRコード解説システムでもモデルコースが示されており、また、受付で見学コースの案内も提供しており、それらの利用も促したい。

#### ⑧「館内の環境改善」

「館内の環境改善」については、空調や照明の要望が多いが、これらは個人による感じ方の問題が多い。このうち、空調（室温）については、受付に伝えていただくことで常に対応している。自動販売機や飲料＋休憩スペースの要望については2階テラス部分の改修に合わせて実現した。トイレの増改築に関する要望は現実的には対応が難しい。授乳室など難しい要望もあるが、受付に問い合わせさせていただくことで何らかの対応の可能なこともあり、受付に問い合わせるよう掲示

している。また、BGM などすでに行っているものの気づいていないことが要望としてあげられていることもある。

#### ⑨「PR 強化」及び⑩「他機関との連携」

「PR 強化」については、来館者数増加策のために即時に対応すべき点であることはこれまでと変わらない。ただ、産総研前の道路に以前からある道路標識などの既存の設備がある割に必ずしも気づかれていないケースもある。一方、インターネットによる情報時代の現在では、既報告書でも記しているが、地質情報基盤センターとして地質標本館のウェブページの充実をはかるとともに、地質標本館を会場としてイベントを行なう場合や目玉となるような新たな展示物が入った場合には、ウェブページの更新、宣伝用ポスターの配布、産総研公式ツイッターでの情報発信等に力を入れているところである。さらには「他機関との連携」も考慮に入れながら、可能な限りいろいろな手段を使って積極的に宣伝を進めている。

身近な連携先の機関の一つとして、筑波山地域ジオパークがあり、ジオパーク関連のイベントを中心に PR を含めて協力をお願いしている。2016 年度末に筑波山地域ジオパーク推進協議会が主体になって制作した短編映画「いしつちみずと、だいちのこえ」が上映およびウェブ配信されるようになり、この中に地質標本館が紹介されている。これを地質標本館でも上映できるようにしたので、大いに活用していきたい。近年、NHK の番組「ブラタモリ」で地形や地質への興味が高まっており、連携を推奨する意見もあった。是非、筑波山地域ジオパークも含めた番組企画を望むところである。このほかのテレビ番組の取材依頼には常に前向きに受け入れや協力をしており、これまで幾つかの番組で紹介されている。今後も積極的な対応をしていく予定である。

#### ⑩「ミュージアムショップの設置」

「ミュージアムショップ」については、市販品の販売を求める声もあるが、現状では対応できない。グッズの種類を増やす要望については、少しずつ対応しており（森尻ほか，2016）、地質標本館ウェブサイトでも案内している。ミュージアムグッズは、産総研の規定範囲内で現在複数の有料頒布物の開発を行っていることを付記しておく。

一方、鉱物の原石などの販売を期待する声もあるが、研究資料として岩石等を扱う研究所の博物館でもあり、また、ジオパークの学習施設となっていることもあり、販売はできない。自動販売機や休憩スペースの設置という要望があったが、前述の通り、これは 2016 年度の改修で実現した。

#### ⑫「その他」

「その他」については、地質標本館あるいは GSI のみで対応できるものではなく、産総研としての対応が求められるものがある。例えば、継続的な懸念事項である

が、駐車スペースの充足を望むが現在のスペース配置では、自家用車での来館者に十分な駐車スペースを用意することが難しい。2016年2月末に茨城県内の圏央道が全開通したこともあり、今後自動車での来館者が増えることが容易に予想されるので、早急の解決策を望むところである。地質調査総合センターの出版物の配布を望む声もある。また自然科学系博物館として科学技術週間に協力して配布していた配布物が2016年度にはなかったことに落胆する声もあり、博物館としての他機関との連携強化のためにも可能な限りこのような配布物設置への協力を継続して行くことも重要であろう。珍しいところでは、「地質標本館の名前を変えたほうが良い」との意見もあったが、GSJの施設としての位置付けおよびミッションが表されている現在の館名は、ユニークなものでもあり全国の地質関連機関にも名前がとれているので改名は予定していない。「開館時間の延長」については現状では委託機関との調整もあり難しいが、来館者の皆様の声が大きければ検討材料となりうるかもしれない。

一方、2016年度から、各特別展示の終了時にその期間のアンケートをまとめて研究企画室国内連携グループから報告されている。それぞれの特別展示に関するアンケートでは概ね満足頂いている旨のコメントが多いが、幾つか参考とすべきものもあるので以下に述べておく。

春の特別展（地球写真展）では、「規模感が不明だったのが残念」とあり、写真に写った風景のスケール感を示すことが大事なことの指摘があった。

夏の特別展（山の日）では、「スペースの割に内容が濃いので少々疲れる。細かい説明はリーフレットに任せて展示の説明はもっと簡単にして良いのではないか。」とのコメントがあった。これはパネル作りの際に常に悩むところで、どの程度の説明文を入れるか、今後も検討しながらパネルの作製に取り組んでいきたいと考えている。

秋の臨時展示（筑波山ジオパーク）では、「鳥取から来ました。山陰海岸ジオパークなども追加してください。」「これからも地質、ジオパーク関連のイベント・説明会を開催してほしい」など今後への期待も高いことがうかがえる。

冬の特別展（地質情報展とうきょう）では、「よい展示なのに東京から遠いのが難点。混雑しないのは良い点。」とのコメントがあり、つくばエクスプレスの開通でアクセスは良くなっているものの、やはり都内からの遠隔地に立地するつくばの難しさを感じられた。地質情報展は、それぞれの地方の地域地質を地域の方々に見てもらうため、日本地質学会との共催で9月に3日間だけ現地開催しているが、その後も各地域の博物館等と連携した展示会も考えると良いのかもしれない。

新春展示（県の石）では、各都道府県の石を一堂に集めて展示したため、いろいろな方々に関心を持っていただいたが、「ラベルに石の英語名を表記してほしい」、「ラベルの説明文にふりがなを付けると子供もたのしめる」といったコメン

トが寄せられ、今後の参考とすべきと考えている。

3月の特別展「GSJピカイチ研究」では、意見そのものは少なかったものの、「このまま頑張ってもらいたい」との激励のコメントも頂いた。これらのことも含めて、今後の特別展開催の際の参考としていきたいと考えている。

#### 4. 来館者動向と今後の対応

地質標本館受付では、継続的に来館者の統計を取っている。2016年度のデータを第22～27図に示す。

第22～24図に見られるとおり、7～8月の夏休み期間は個人の来館者数が多いが、それ以外の時期では、団体での来館者数が1/3～1/2を占めている（第22図）。この傾向は前年度と変わらないし、基本的にはほぼ毎年の傾向とも言える。7～8月の個人の主体は小学生とその保護者である（第23図）。また、夏休みにつくば市内からの来館者が急増している（第24図）。

夏休みに比べるとその他の各月の来館者数はかなり少ない（第22図など）。年間の来館者数の増加をめざし、かつ来館いただいた方々に満足して見学していただくためには、夏休みの来館者を増やすよりも、夏休み前の6月と夏休み終了後、そして特に12月～2月の間に学校関係の団体を呼び込む工夫が必要である。

秋は全国の高校からの修学旅行やスーパーサイエンスハイスクール（SSH）などの団体が多くなる。高校の団体には、特に地元の地質を中心とした展示説明をするようにしている。GSJの研究者にその高校あるいは近くの高校の卒業生がいる場合には説明対応を担当してもらえるよう依頼することもあるが、高校からすると自校のOBが研究所の研究員として活躍している姿を見ることができると進路指導的な意味合いも重なり、大いに喜んでもらえることが多い。そして、その後何年か続けて修学旅行のコースに組み込んでいただけるということもあり、団体としてのリピーターともなっているケースもある。

また、秋から冬にかけての時期に一般の団体を増やす工夫も必要である。現在、つくばサイエンスツアーオフィスは筑波研究学園都市の研究機関展示施設と連携しながらつくば全体として集客の努力をしているところであるが、地質標本館もさらに連携を深めていく必要がある。

年度ごとの比較では、2016年度は2015年度に比べて小学生が微減しているものの、家庭が増加していることで全体として前年度を上回る結果となっている（第25図）。地域別ではつくば市内からの来館者数が増加している（第26図）。つくば市外の茨城県内からの来館者数は前年度とほぼ変わらず、2011年3月の東日本大震災以前の水準への回復はなかなか難しいところである。このエリアからの来館者数の増加が震災前の入館者数水準への回帰の鍵となろう。2017年2月26日の圏央道の茨城県内全開通により県外からの来館者割合も微増しているが（第31図）、是非つくば市外の県内からの来館者増加につながることを期待したいところである。ただしその場合は、前述したように、駐車場の充足も重要な

ポイントとなる。

第 27 図のリピーターについては、全体の来館者数と同様に 2011 年度の東日本大震災で落ち込んだ後に微増傾向であることが読み取れる。2016 年度は、2-5 回のリピーターが増加していることが最近の中では特徴的である。引き続きリピーターとして再訪、再々訪していただくための努力をしていくことが必要である。合わせて、見学された方から口コミで周囲の方に来館の機会をもたらすことができるよう、館スタッフの対応（"おもてなし" の精神）も必要であろう。ただし、国立の研究所としての産総研には、外来者に対するセキュリティ強化の問題があるため、来館者の不満がこれまでアンケートにもしばしば反映されており、地質標本館の "おもてなし" の姿勢と相反するところとなっているのは悩ましいところである。

入場者数の減少傾向が 2015 年度から増加に転じ 2016 年度も増加傾向を維持したが、この後もさらなる増加傾向をはかっていくため、上述の①～⑫の個別対応策を総合し、引き続き、

- (1) つくば市以外の茨城県内の入館者数を増やすこと
- (2) 老朽化・故障した展示物の改修を進めるとともに、一度来た人がリピーターとなるように更新の容易な展示物も配置し、また時の話題を特別展示などで提供するなど、魅力的な展示となるようにすること
- (3) さらにその魅力を積極的に発信していくこと

の 3 点を目標とした活動を、早急に実施すべく努力しているところである。このため、地質標本館を運営する地質情報基盤センターだけでなく、研究部門の協力体制を求めながら、GSJ 全体として取り組みを進めている。

## 5. おわりに

本報告では 2016 年度のアンケートを分析した。現在地質標本館では、大規模な改修計画が立てられている。その改修計画に沿って、地質調査総合センター全体の課題として、順次展示改修を進めているところである。

今後地質標本館で実施するアンケート内容は、社会ニーズの把握と GSJ 全体のアウトリーチ活動に対する満足度を計る指針とすることを念頭に置き、引き続き地質情報基盤センター地質標本館室運営グループにより継続的かつ定期的に報告し、GSJ のアウトリーチ活動の PDCA サイクルを動かしていくための参考資料として活用していく予定である。なお、一般向けのアンケート結果報告についても並行して作成しており（森尻ほか、投稿中）、今後の来館者からの要望などを取り入れつつ地質標本館の運営の参考としていきたいと考えている。

## 追記

本報告は、地質情報基盤センター地質標本館室運営グループ 森尻理恵、朝川暢子、谷島清一、下川浩一、佐藤隆司、高橋 誠、常木俊宏、中山 淳、小賀野功、川鈴木宏および利光誠一が中心となって 2016 年度に集計し、2017 年度から辻野 匠、藤原 治が加わり執筆した。

## 文献

地質情報基盤センター（2016a）地質標本館の来場者アンケート分析（2007年～2015年度夏展まで）。GSJ技術資料集 No.5, AIST15-G00002-5  
[https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ\\_ComRep\\_05\\_2016.pdf](https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_05_2016.pdf)

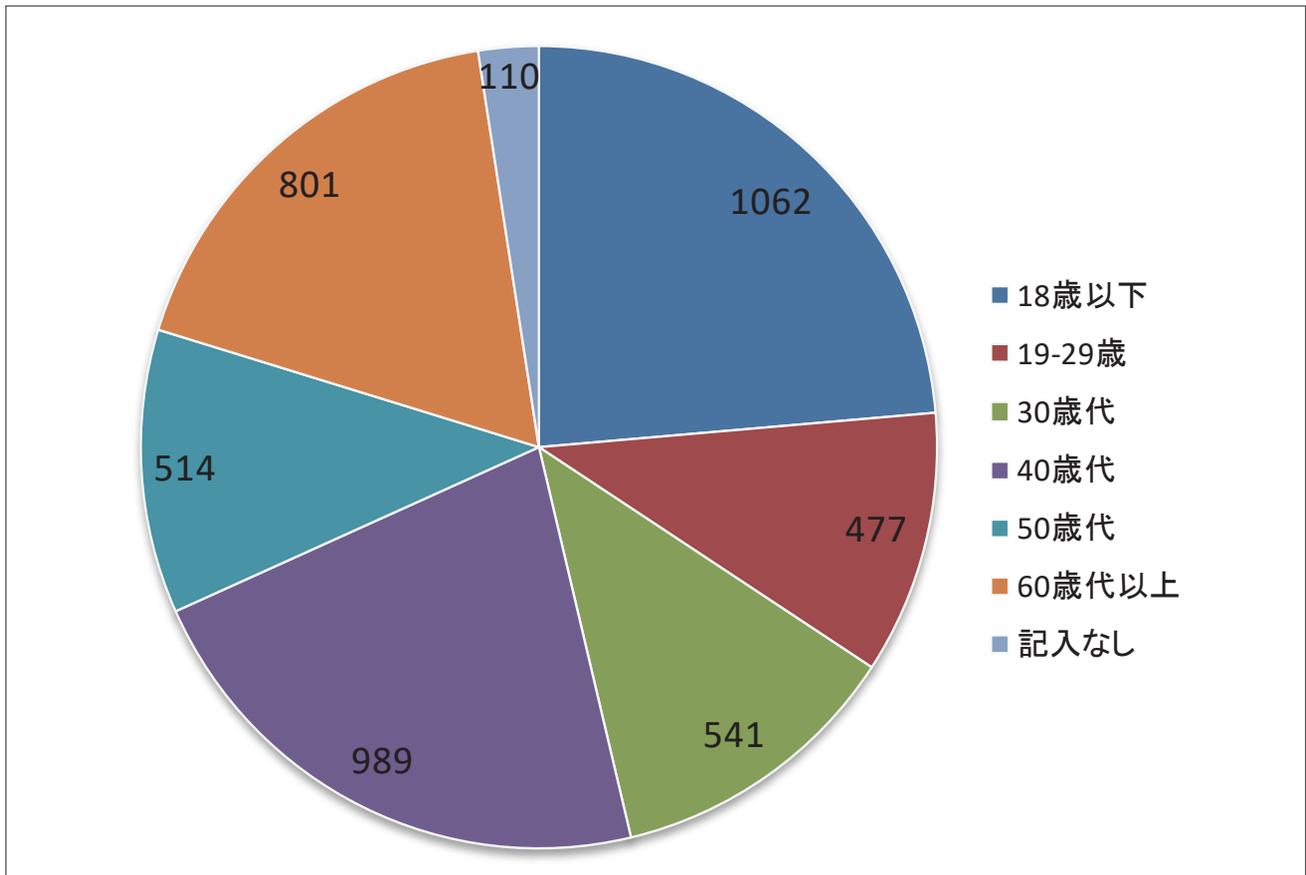
地質情報基盤センター（2016b）地質標本館の来場者アンケート分析（2015年度後半：秋～冬の特別展）。GSJ技術資料集 No.6, AIST15-G00002-6  
[https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ\\_ComRep\\_06\\_2016.pdf](https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_06_2016.pdf)

森尻理恵・吉田清香・朝川暢子・下川浩一・奥山康子・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・須藤 茂・利光誠一（2015）地質標本館来館者アンケート結果概報（2007-2014）。GSJ地質ニュース, 4, 346-352

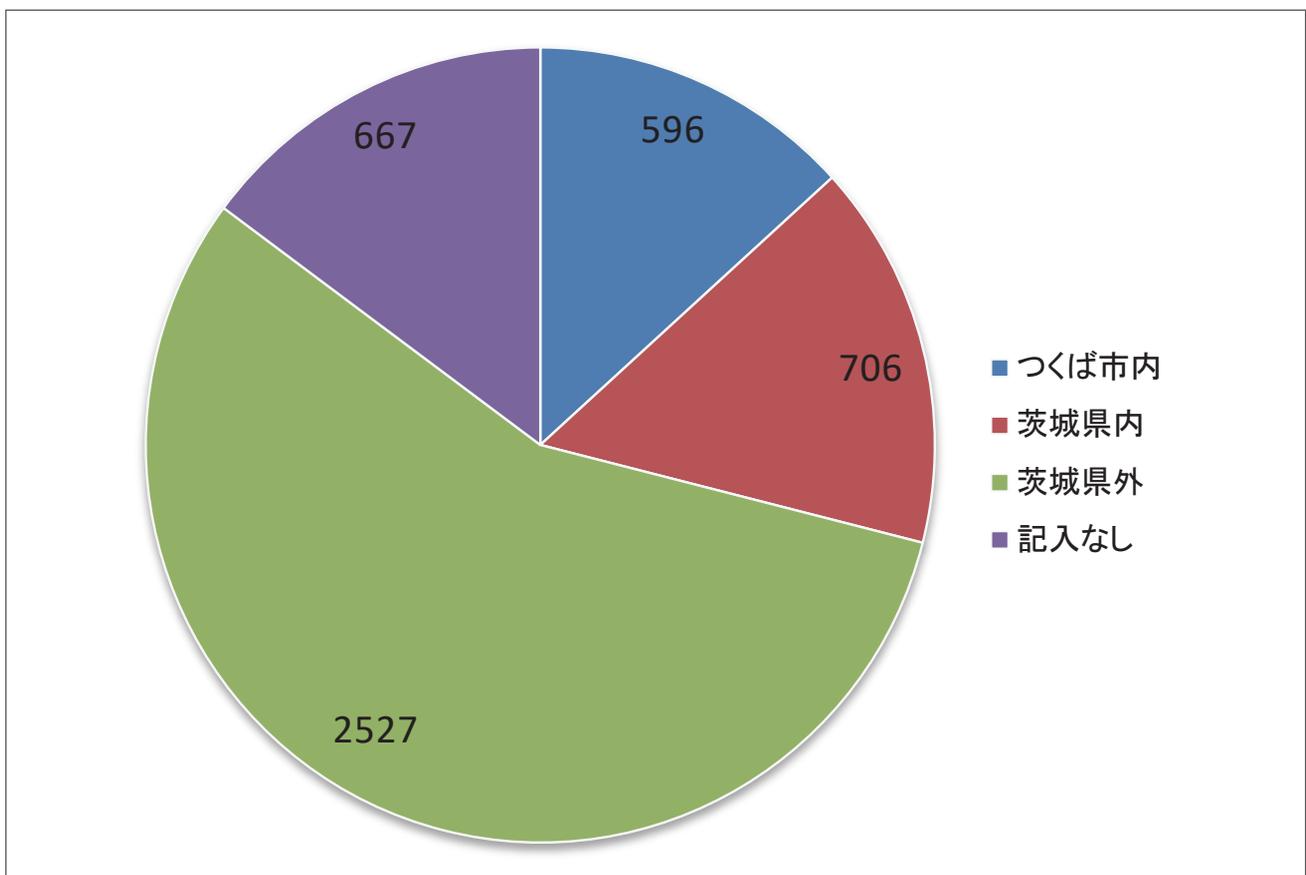
森尻理恵・朝川暢子・下川浩一・奥山康子・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・須藤茂・利光誠一・菅家亜希子・吉田清香・中山 淳・常木俊宏・小賀野功（2016）地質標本館来館者アンケート結果概報（2015年度）。GSJ地質ニュース, 5, 377-381

森尻理恵・谷島清一・朝川暢子・下川浩一・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・利光誠一・菅家亜希子・中山 淳・常木俊宏・小賀野功・川鈴木宏（2017）地質標本館来館者アンケート結果概報（2016年度）。GSJ地質ニュース, Vol.6, 268-276.

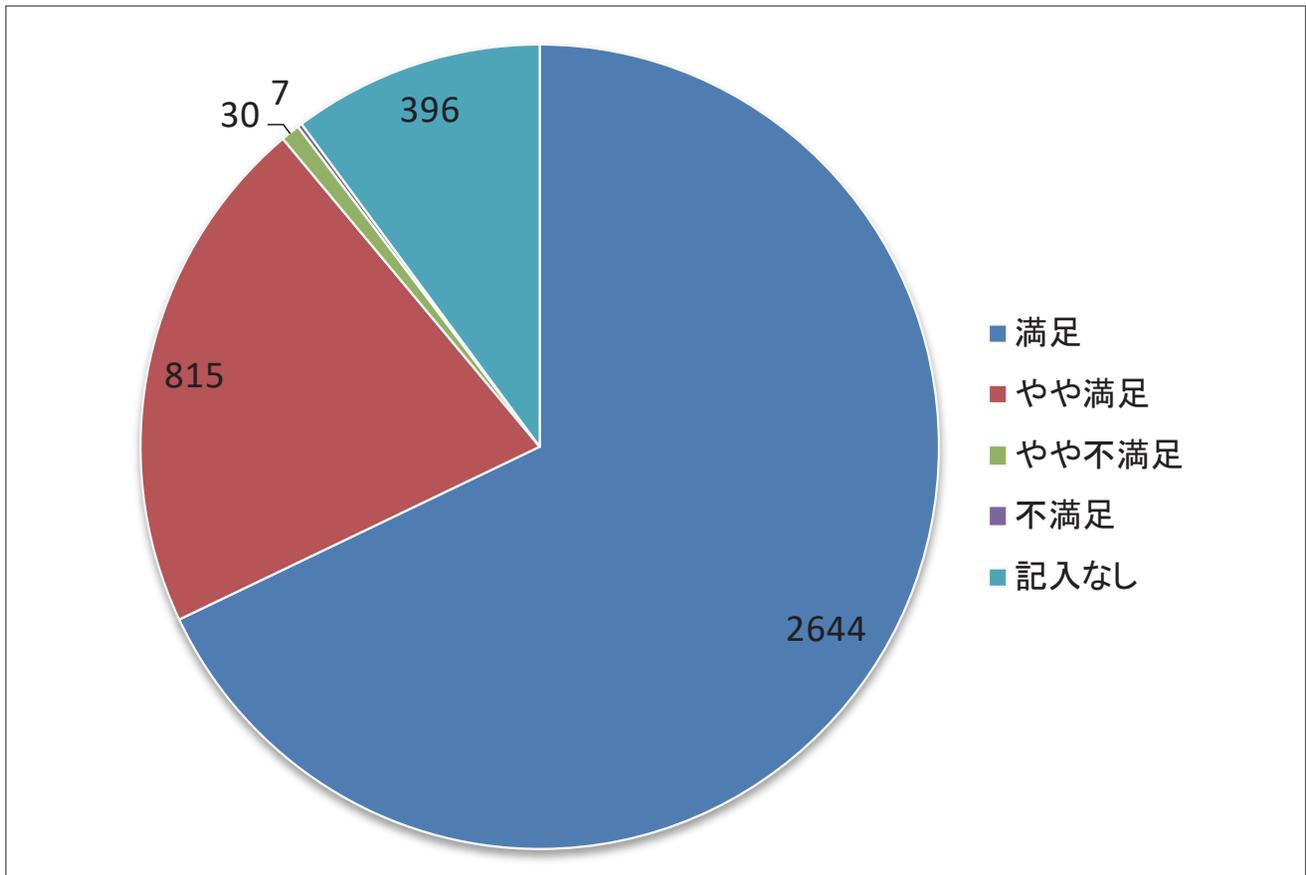
第1図 回答者の年齢層 (N=4,494)



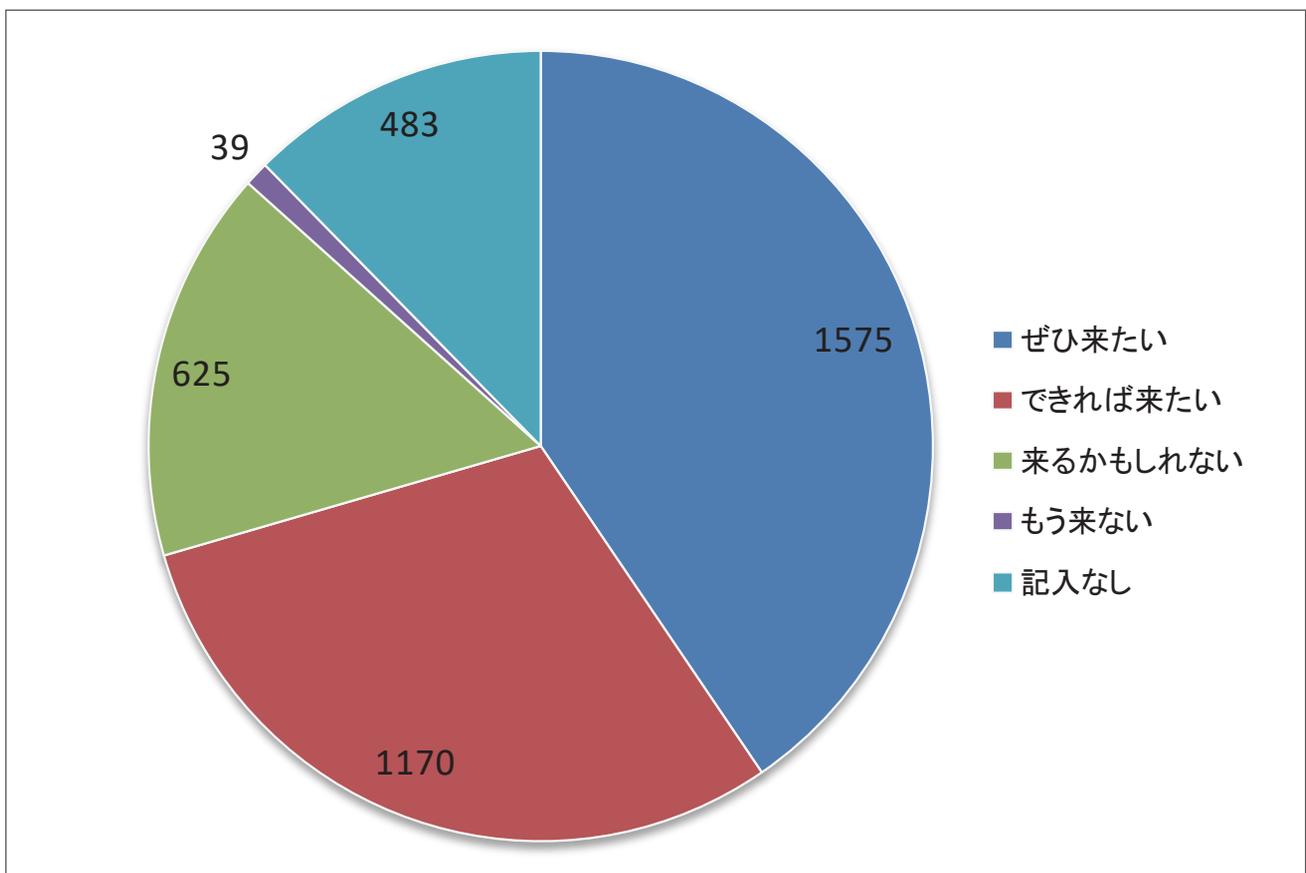
第2図 どこから来たか (N=4,496)



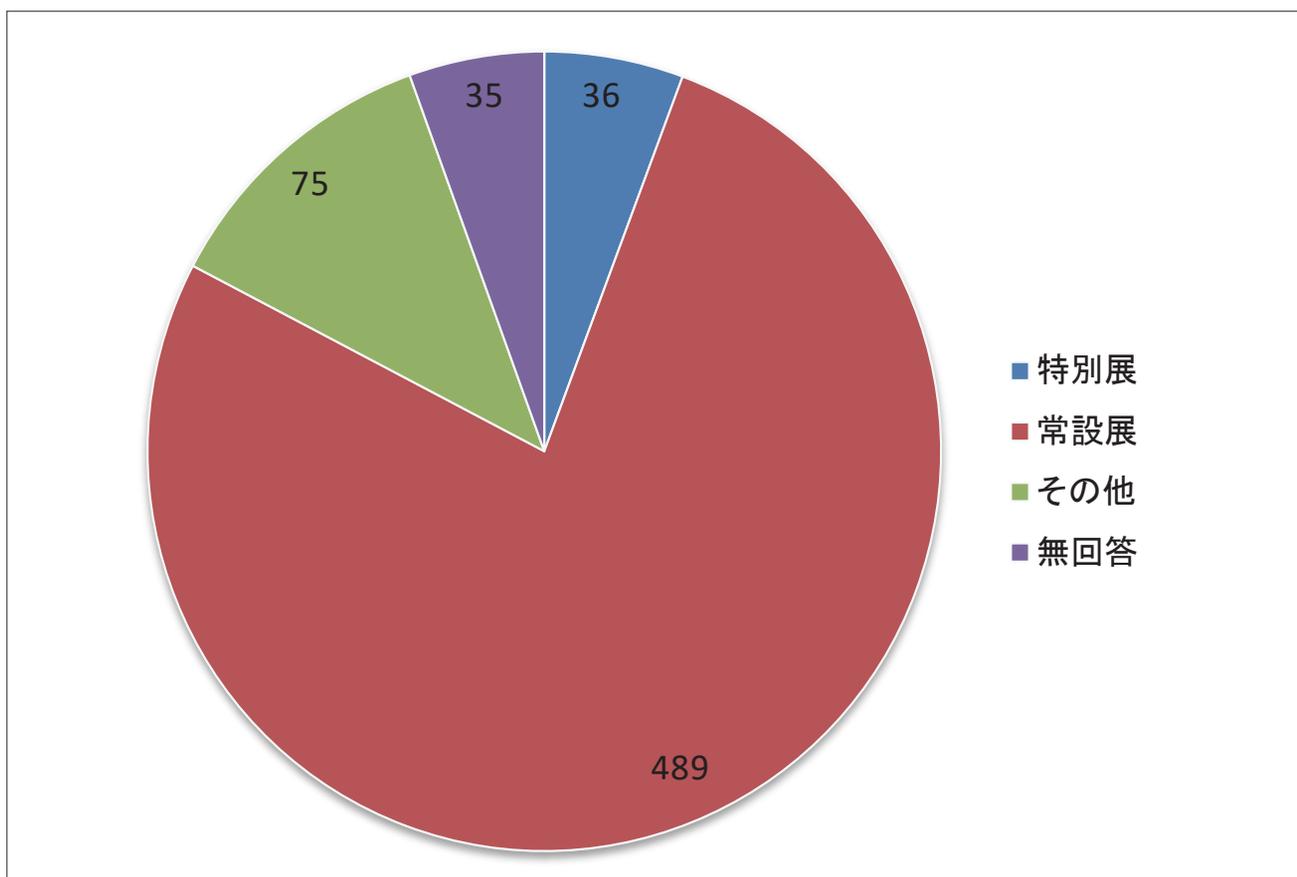
第3図 満足度（館全般）（N=3,892）（夏展以降）



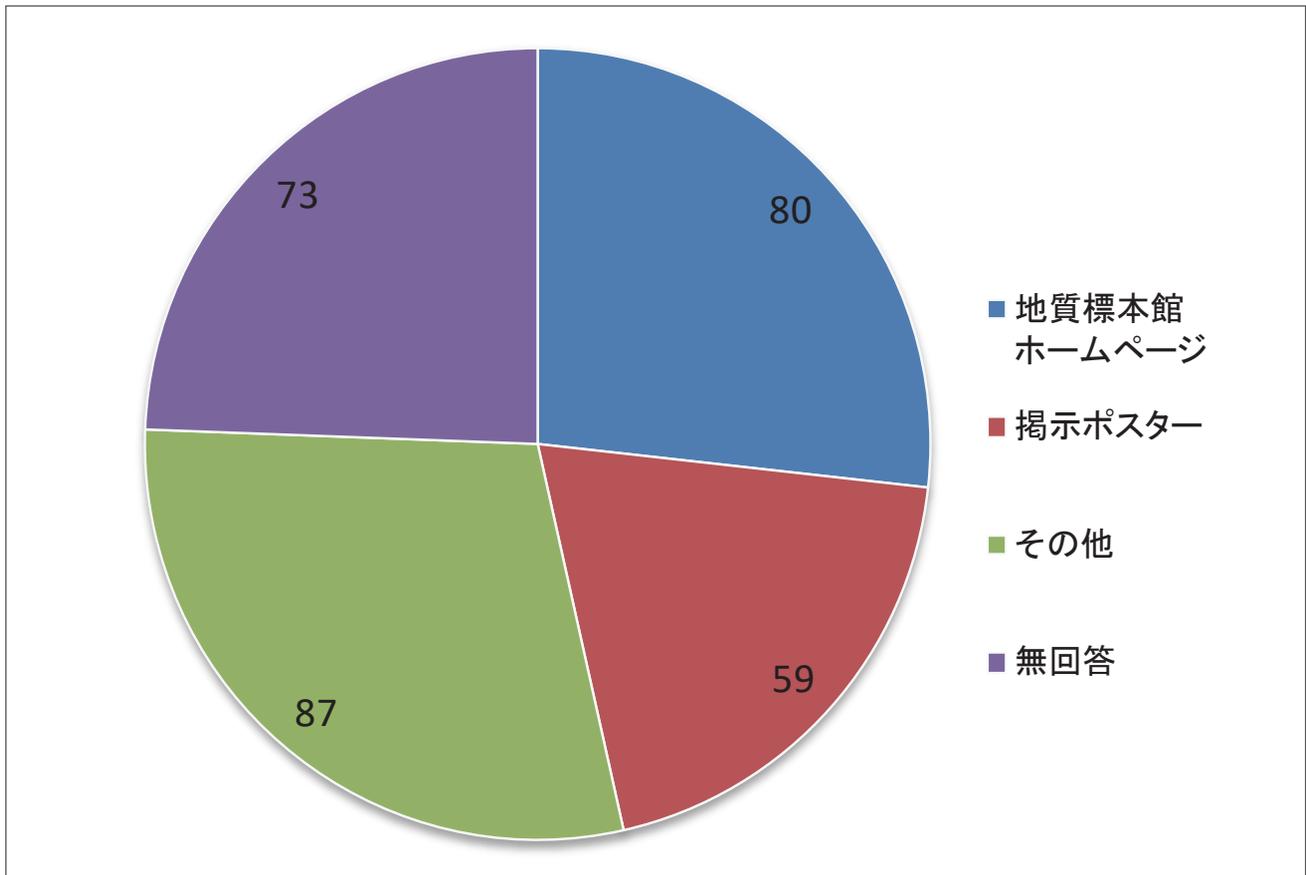
第4図 満足度（次回への期待度）（N=3,892）（夏展以降）



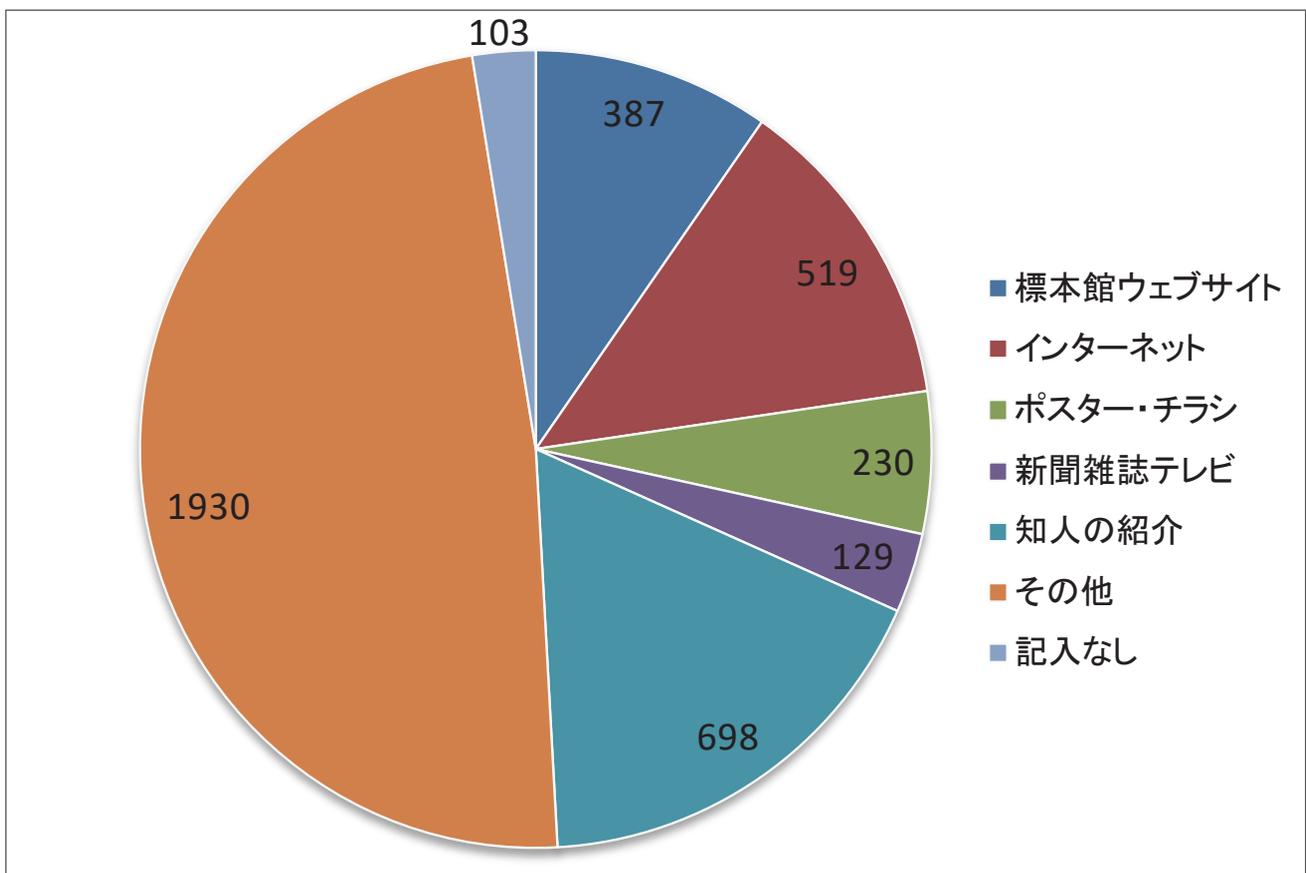
第5図 標本館に来た目的 (N=635) (3月29日～7月18日)



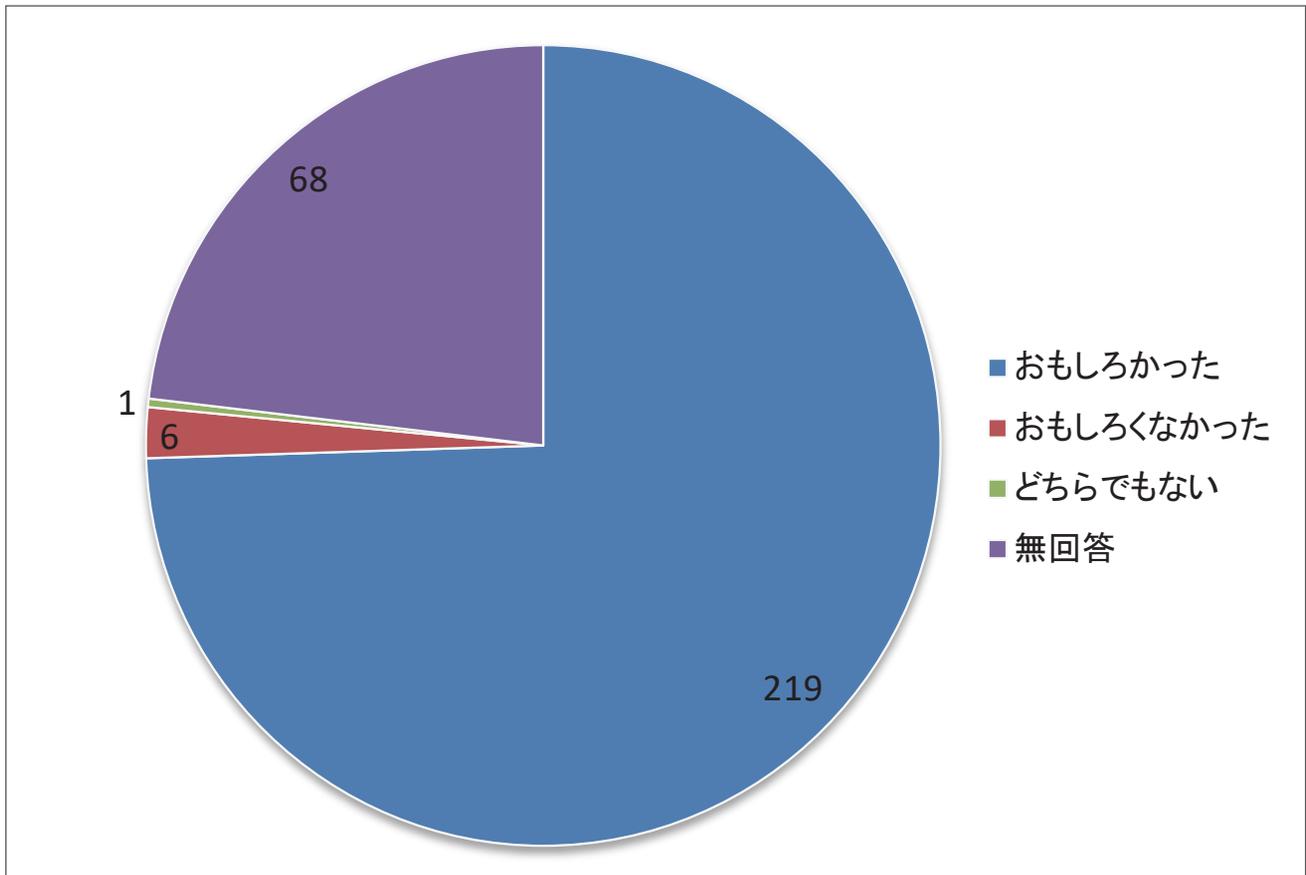
第6図 何を見て来たか (N=299) (春展+7月臨時展示)



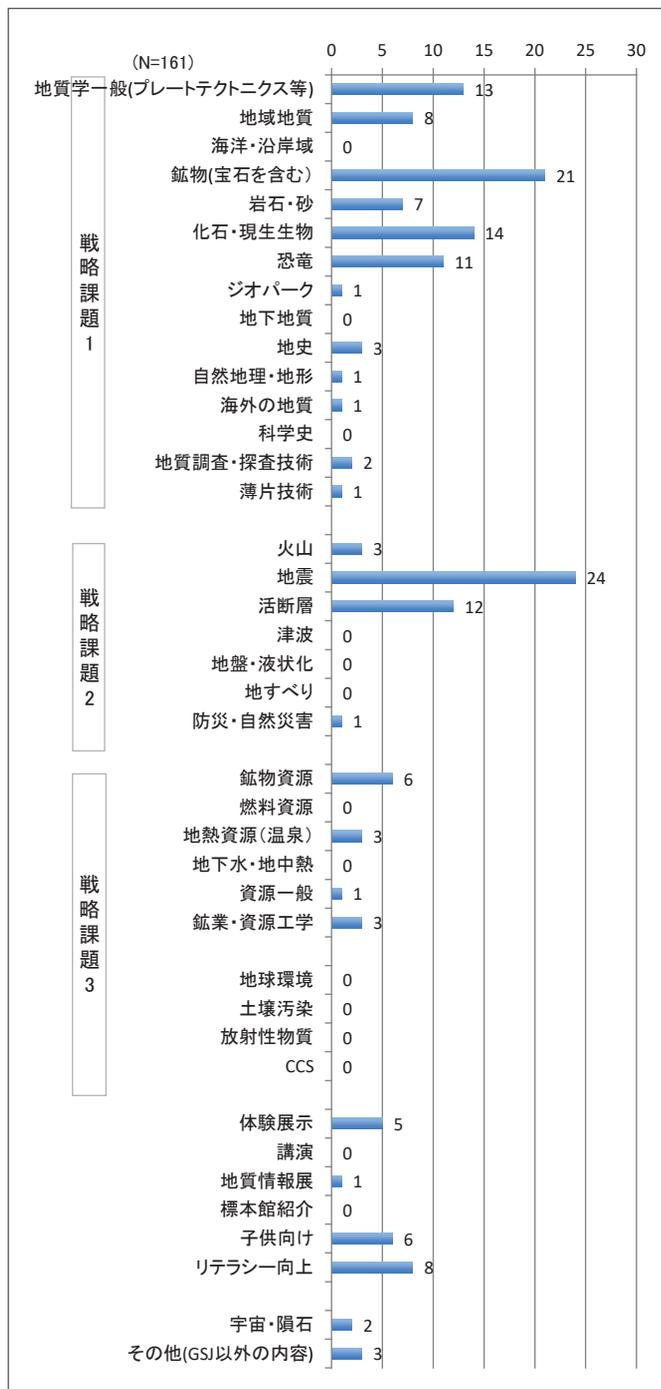
第7図 来館のきっかけ (N=3,996) (夏展以降)



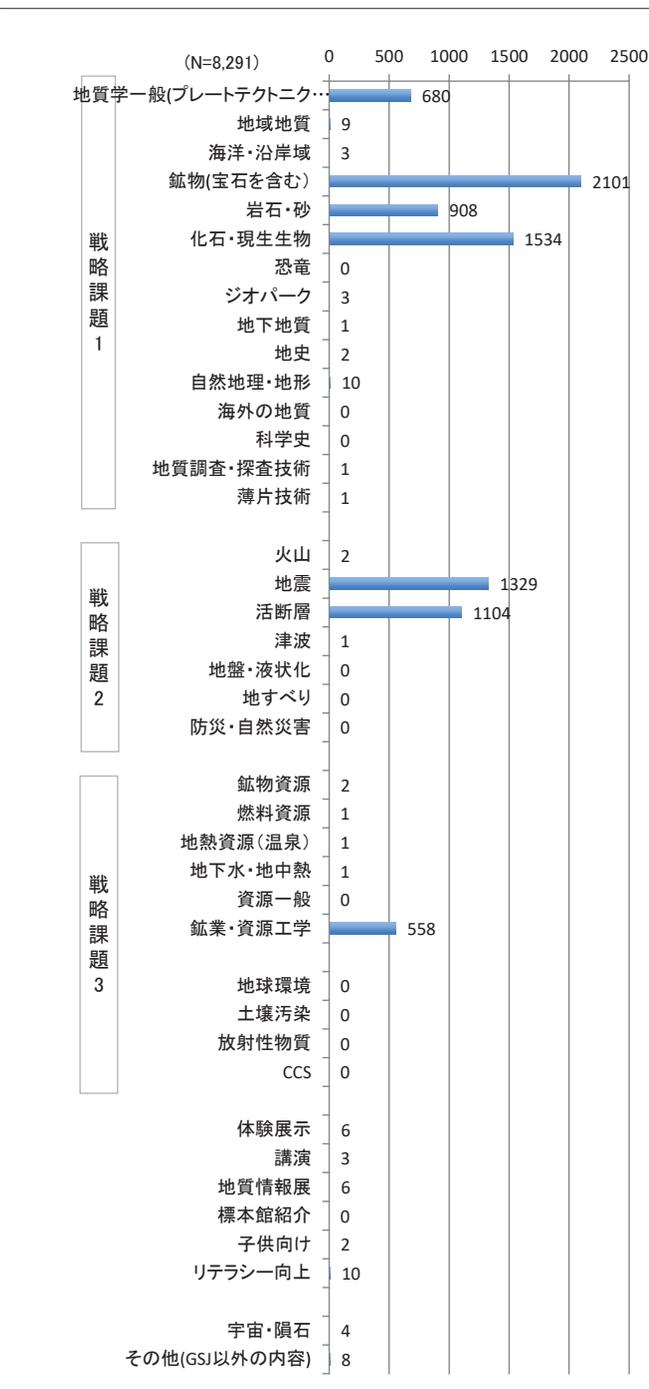
第8図 面白かったか (N=294)  
(春の特別展「地質写真展」+7月臨時展示「県の石」)



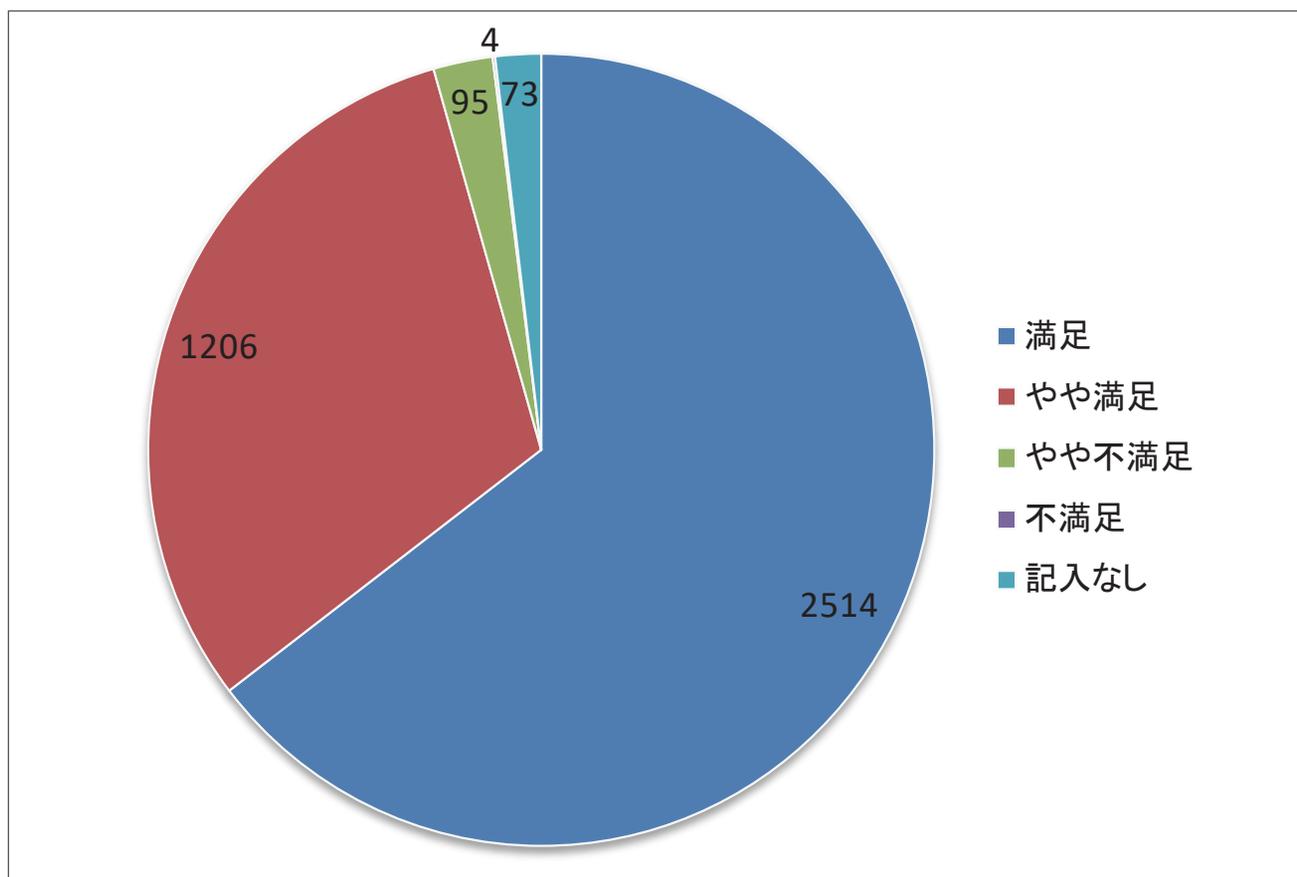
第9図 今後への要望  
(3月29日～7月18日) (複数回答可)



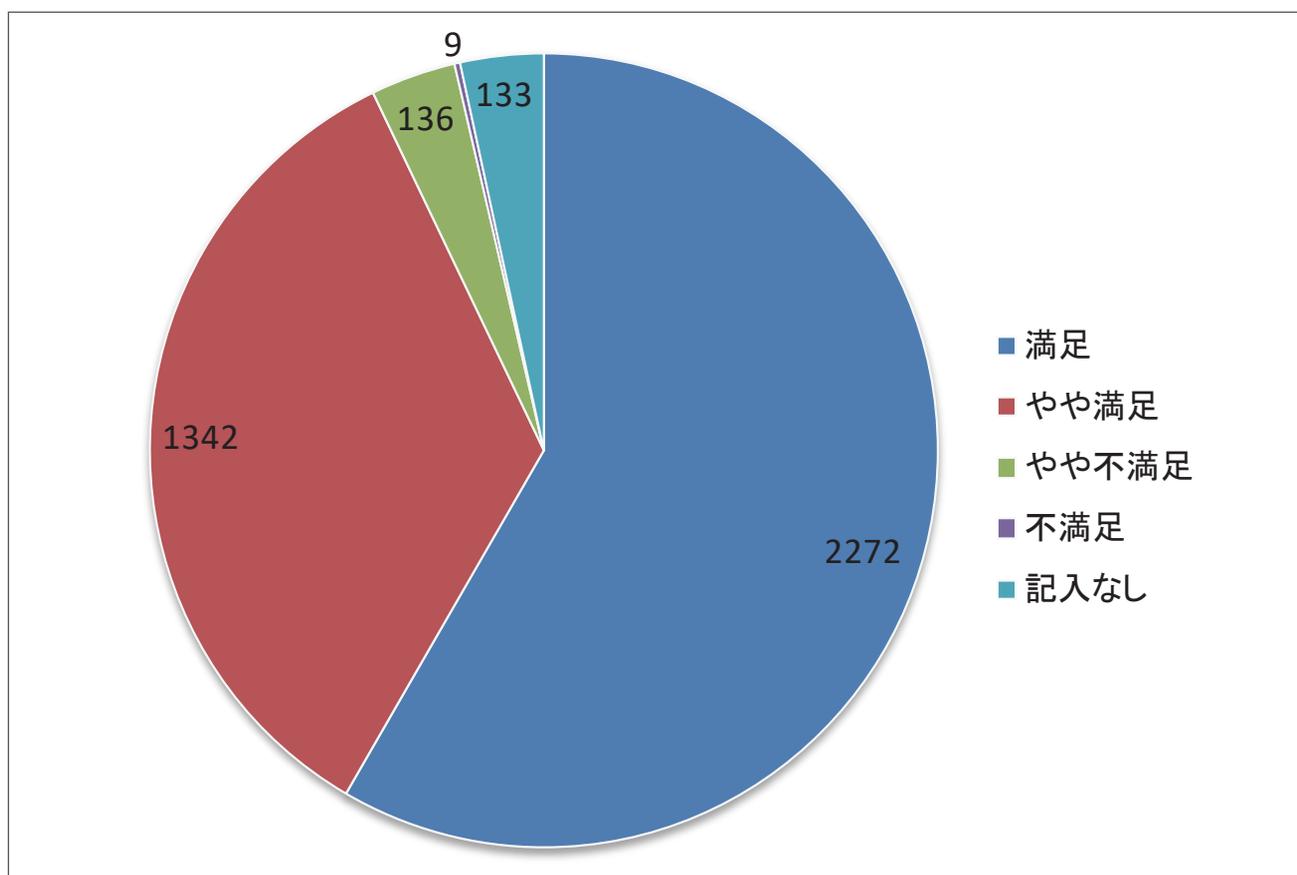
第10図 興味を持ったテーマ  
(7月20日～4月2日) (複数回答可)



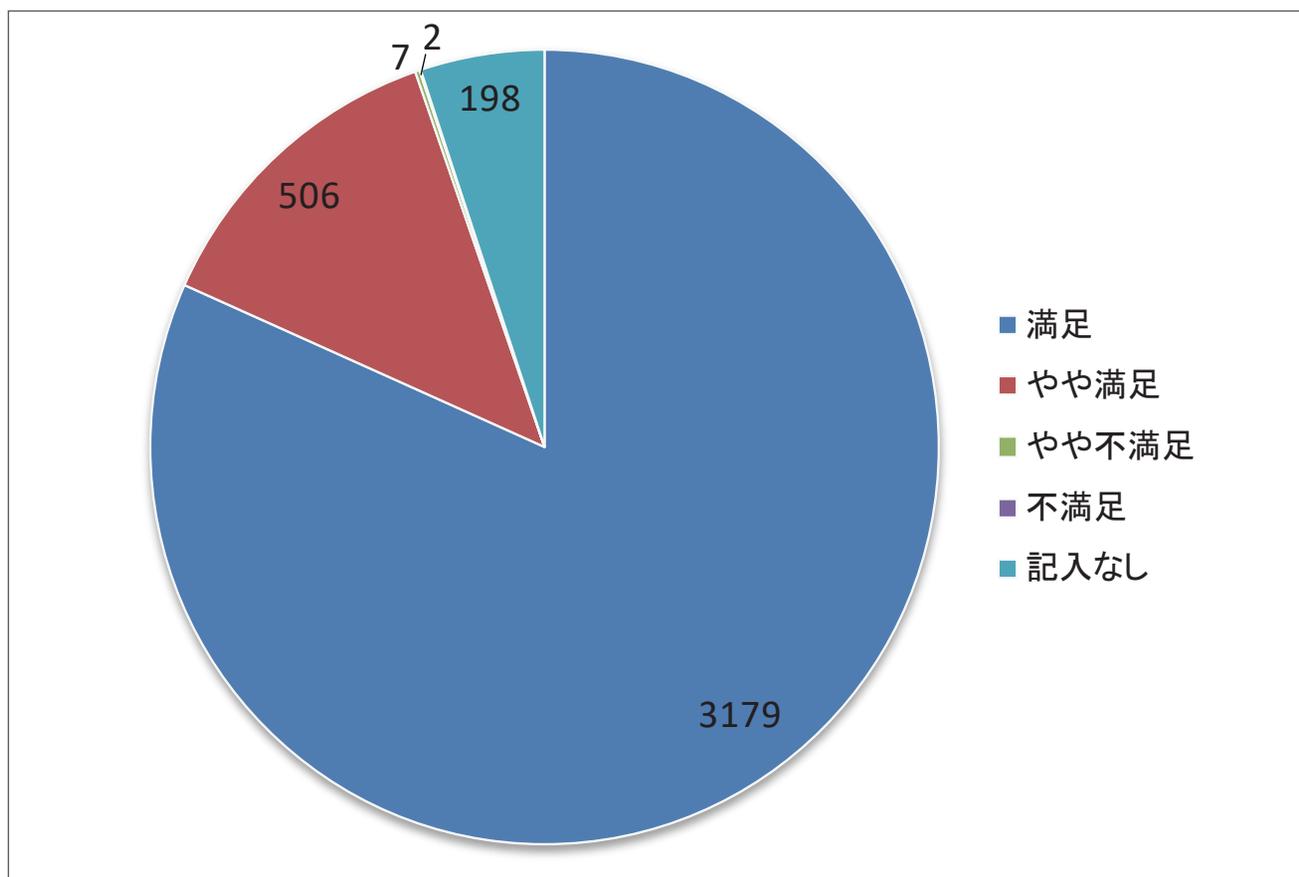
第11図 展示物について（展示の仕方）（N=3,892）（夏展以降）



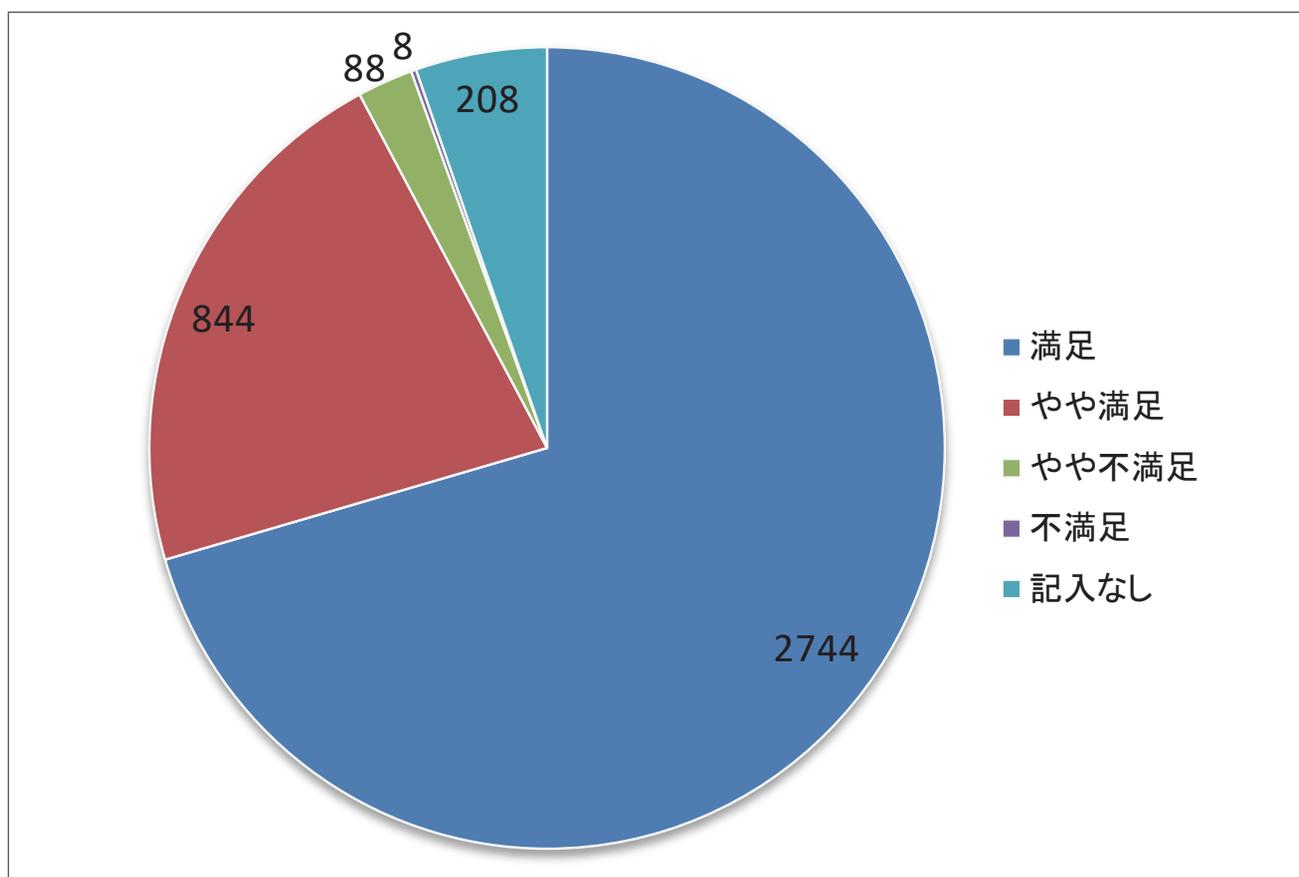
第12図 展示物について（機器の使い勝手）（N=3,892）（夏展以降）



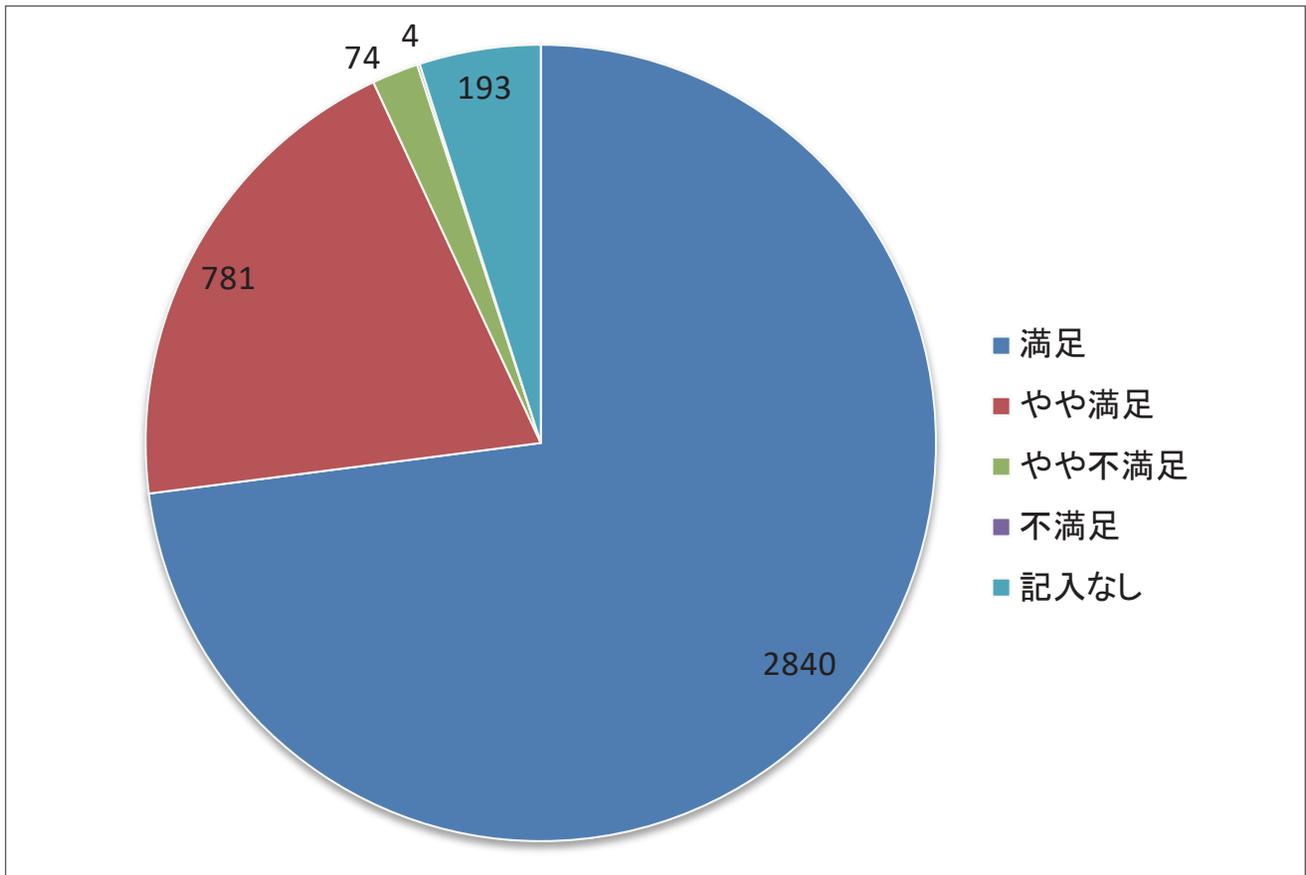
第13図 建物やサービスについて（受付の対応）（N=3,892）（夏展以降）



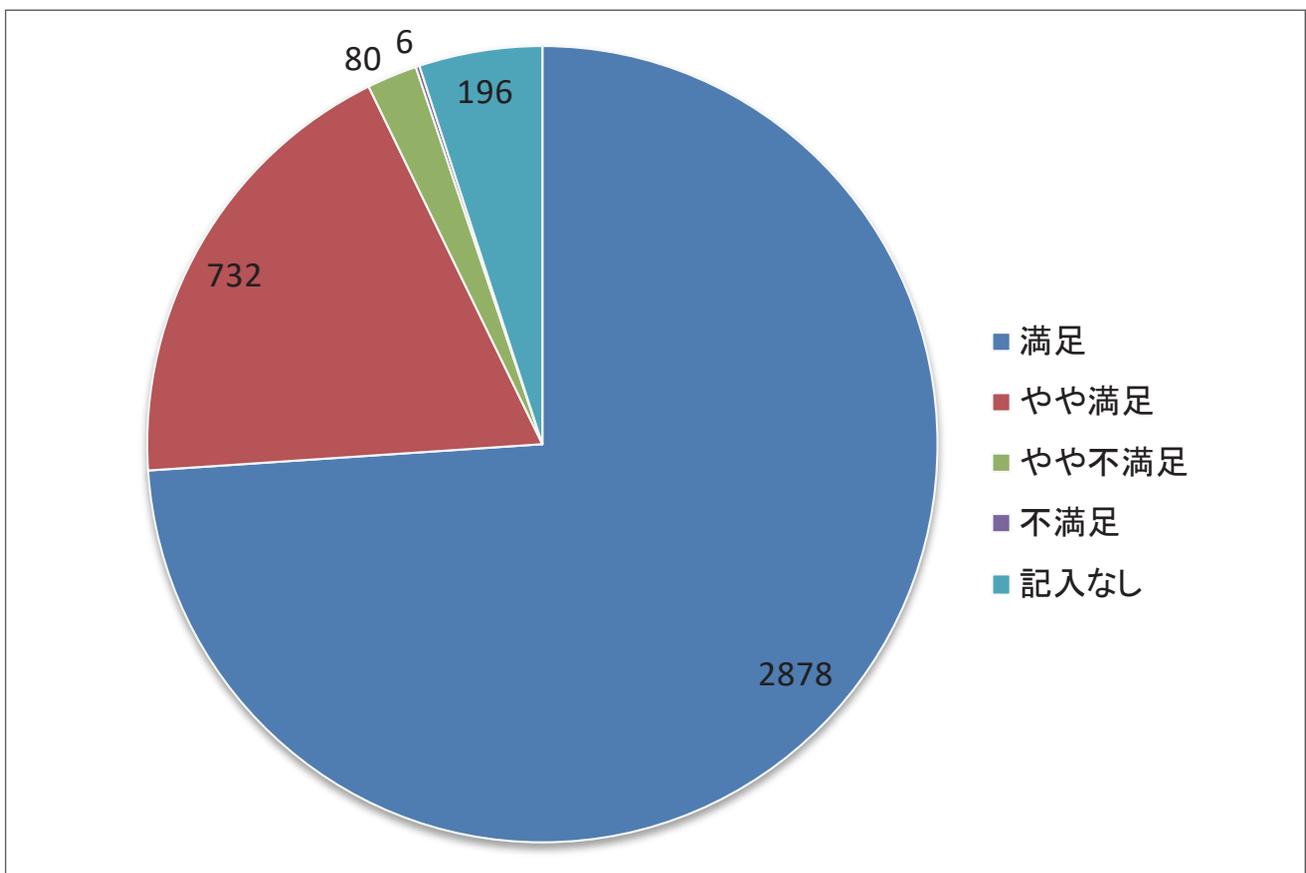
第14図 建物やサービスについて（案内表示）（N=3,892）（夏展以降）



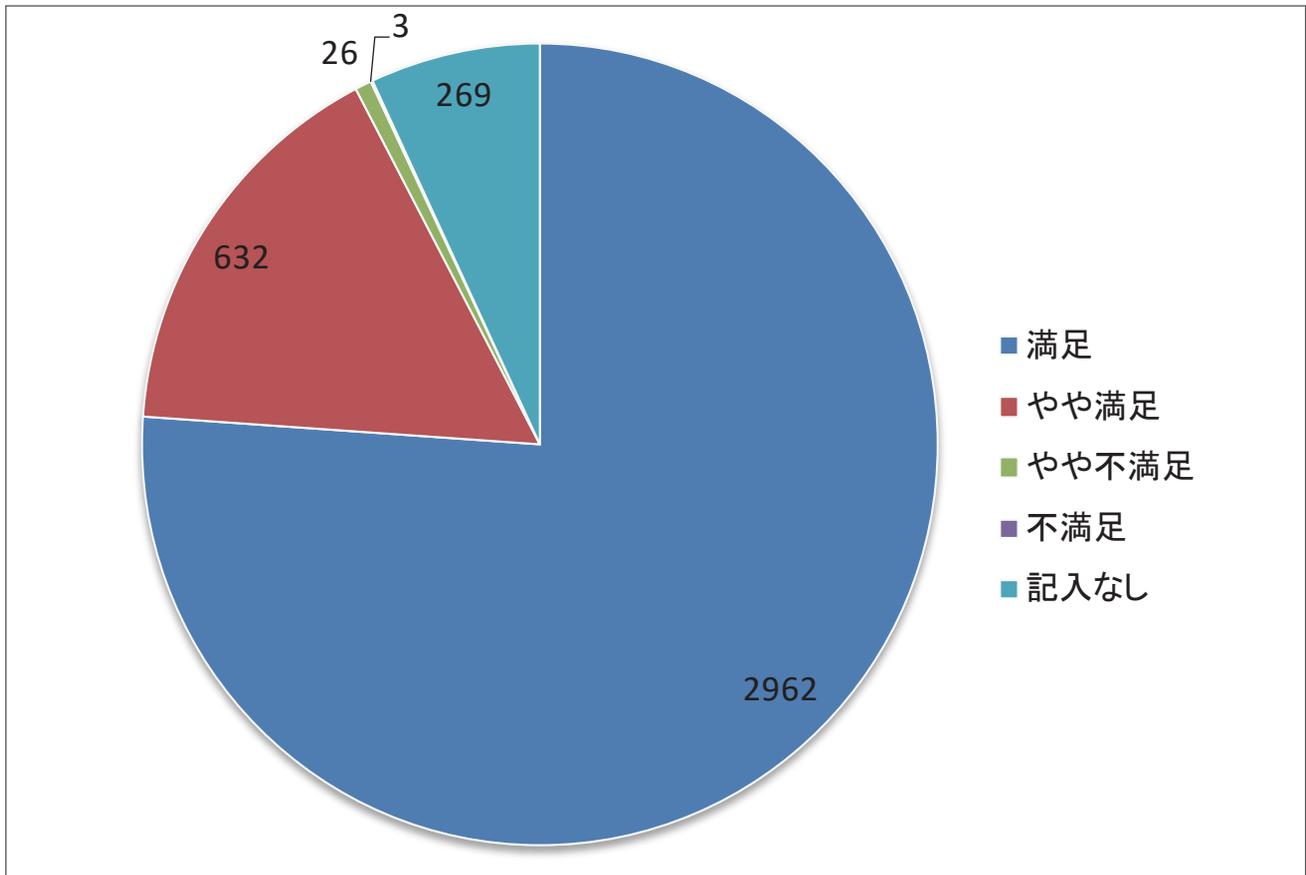
第15図 建物やサービスについて（管内の明るさ）（N=3,892）（夏展以降）



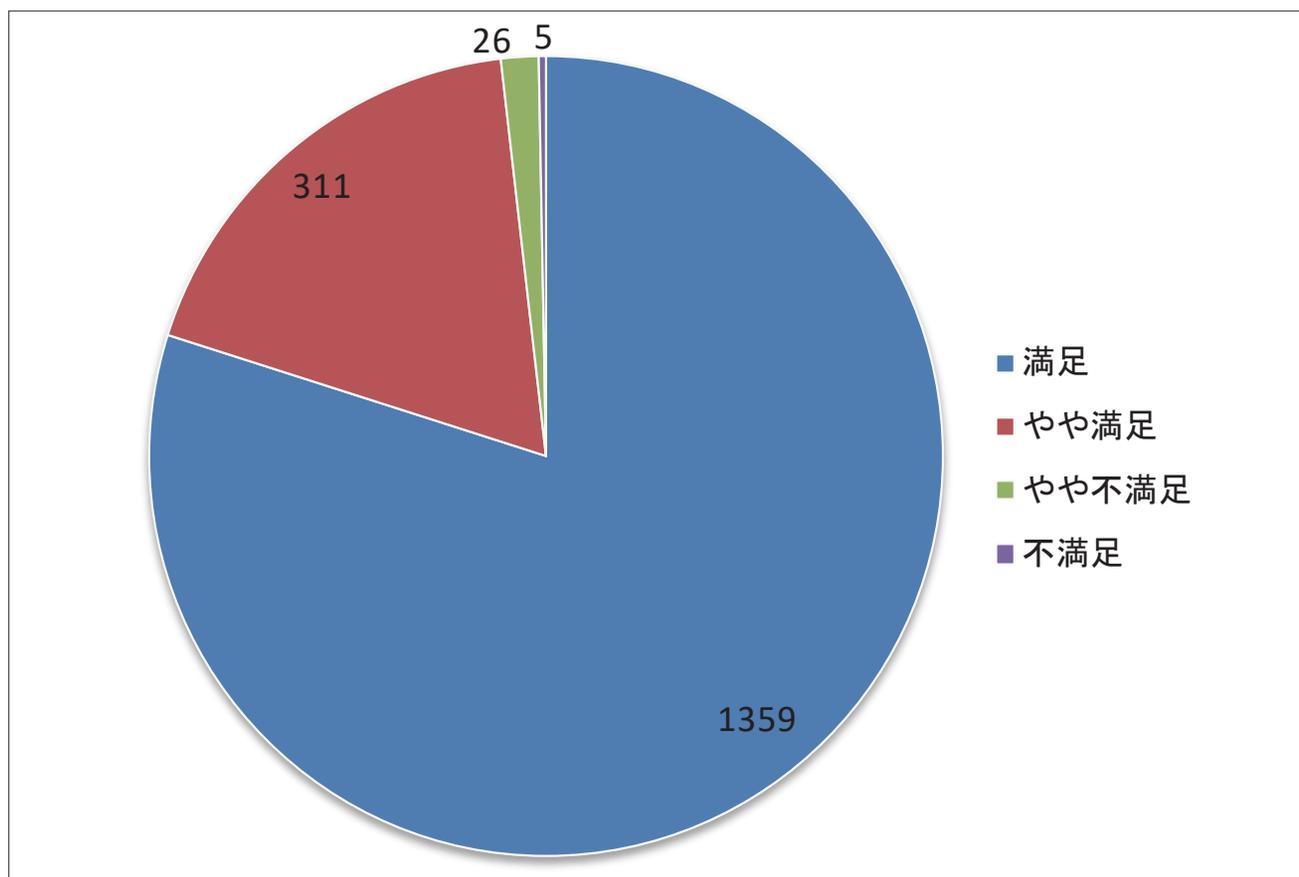
第16図 建物やサービスについて（空調温度）（N=3,892）（夏展以降）



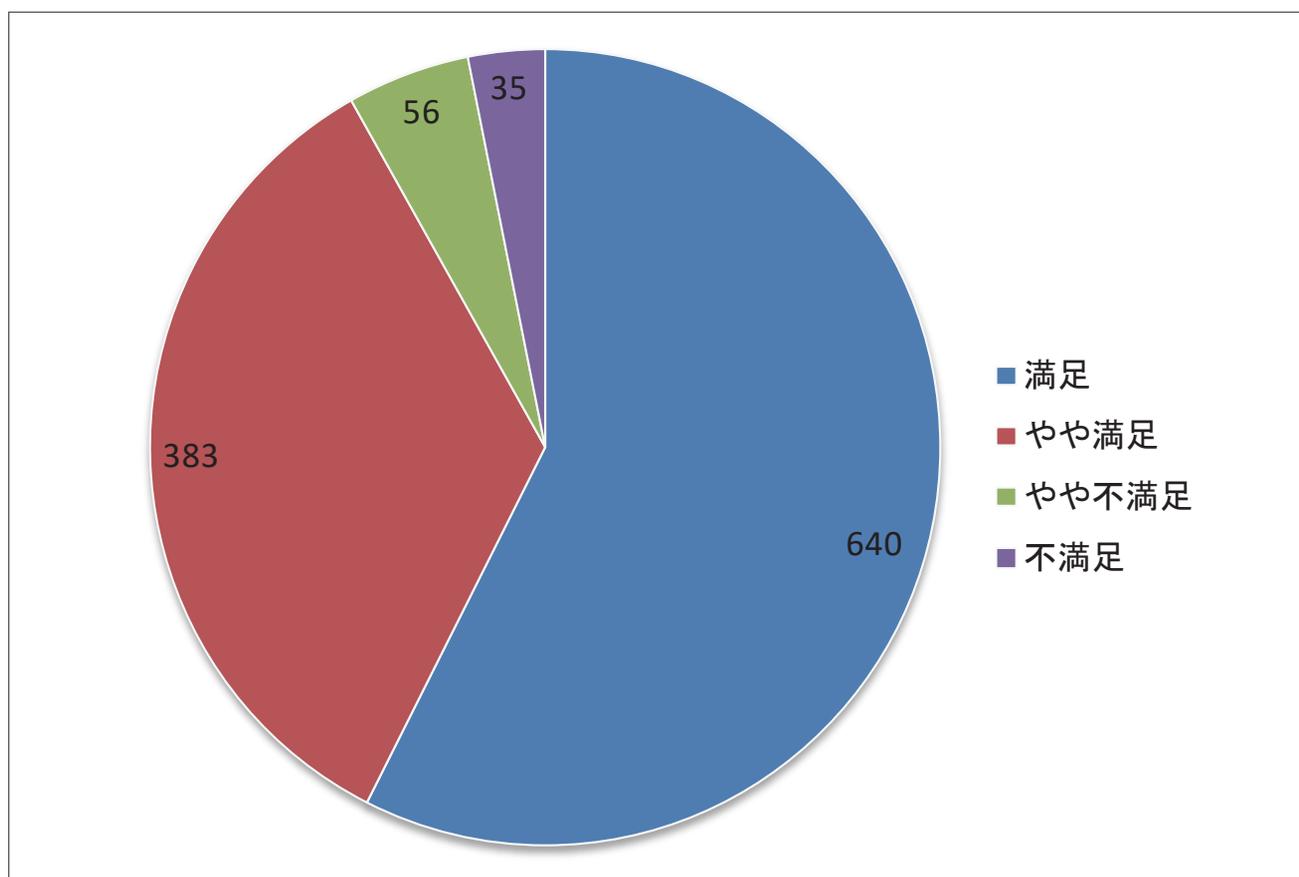
第17図 建物やサービスについて（清掃）（N=3,892）  
（夏展以降）



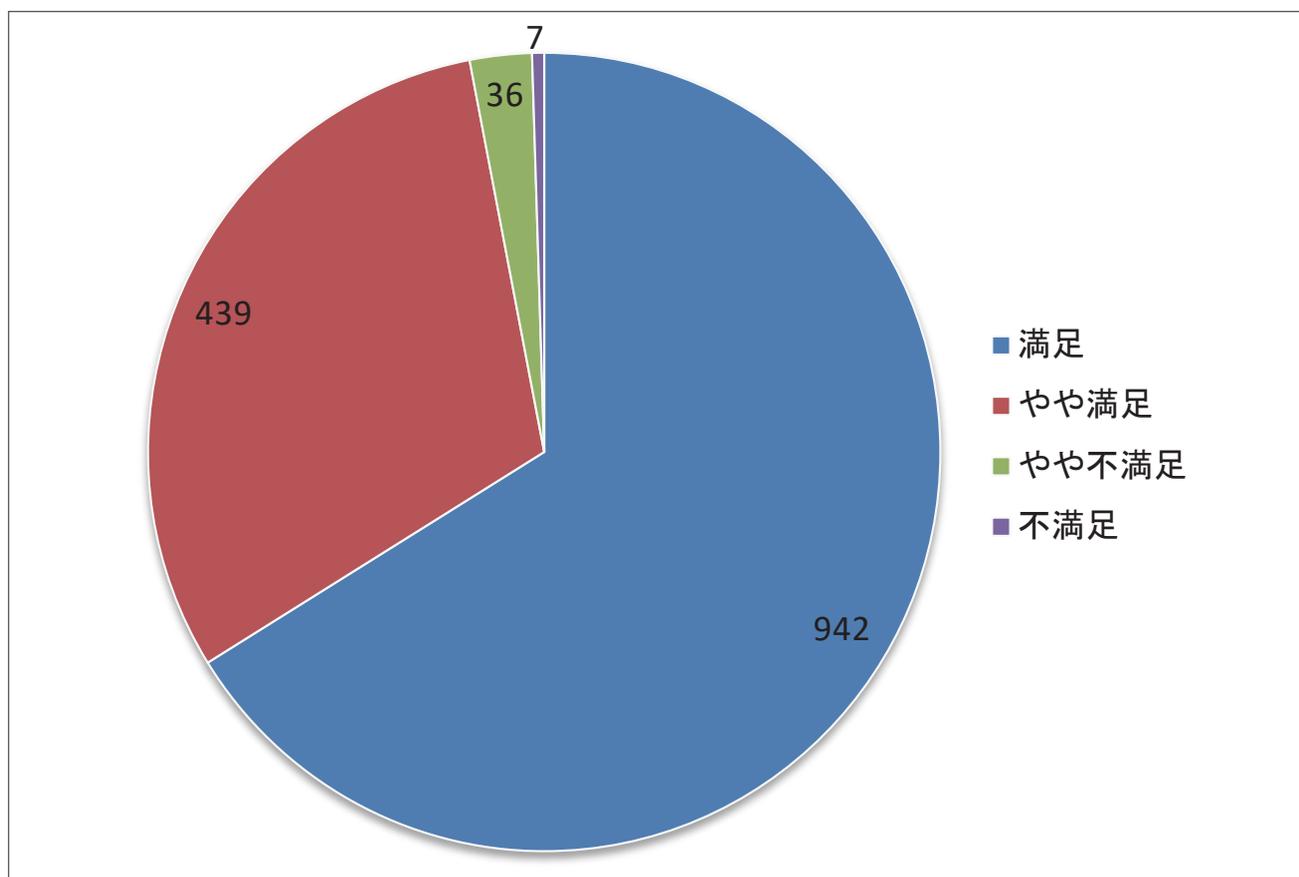
第18図 解説サービスについて（解説案内）（N=1,701）（夏展以降）



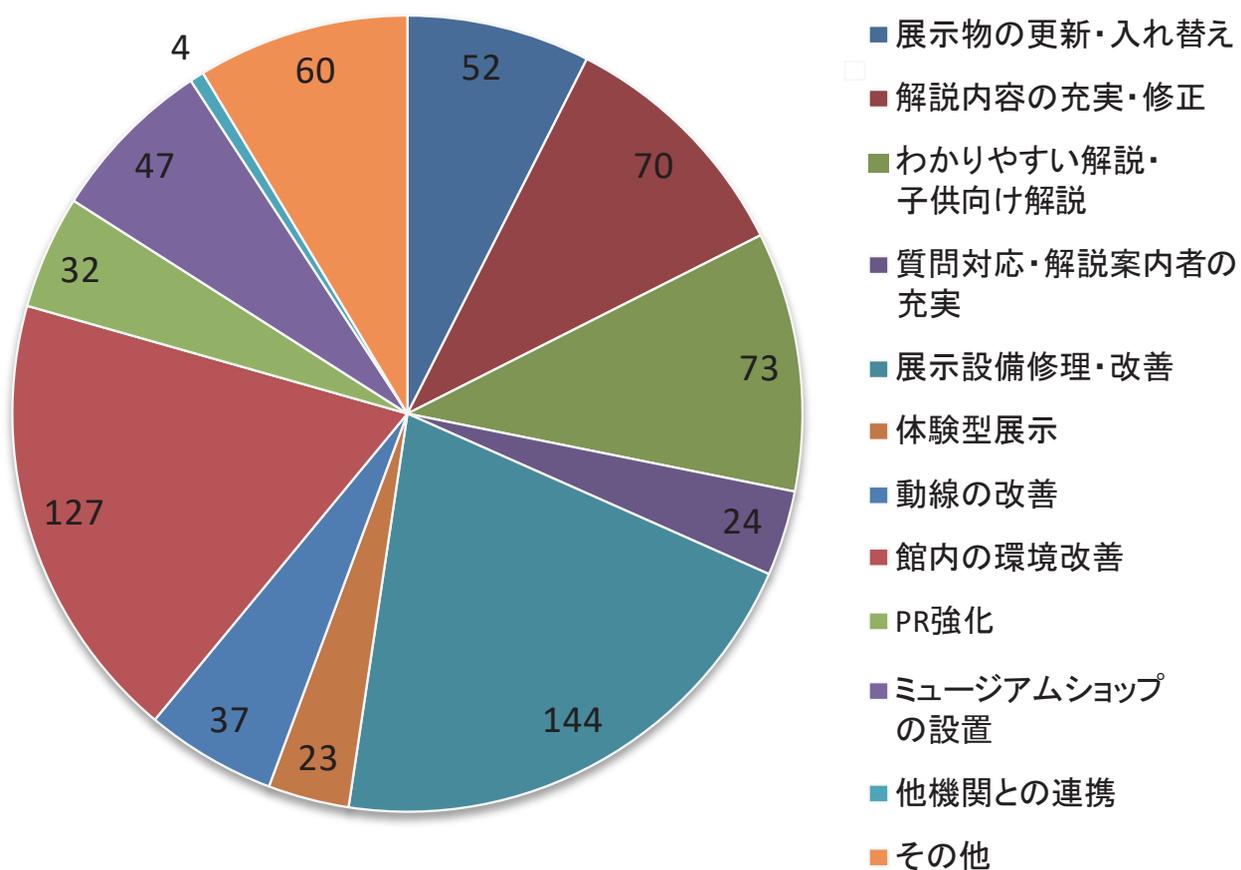
第19図 解説サービスについて（QRコード解説）（N=1,114）（夏展以降）



第20図 解説サービスについて（館内クイズ）（N=1,424）（夏展以降）

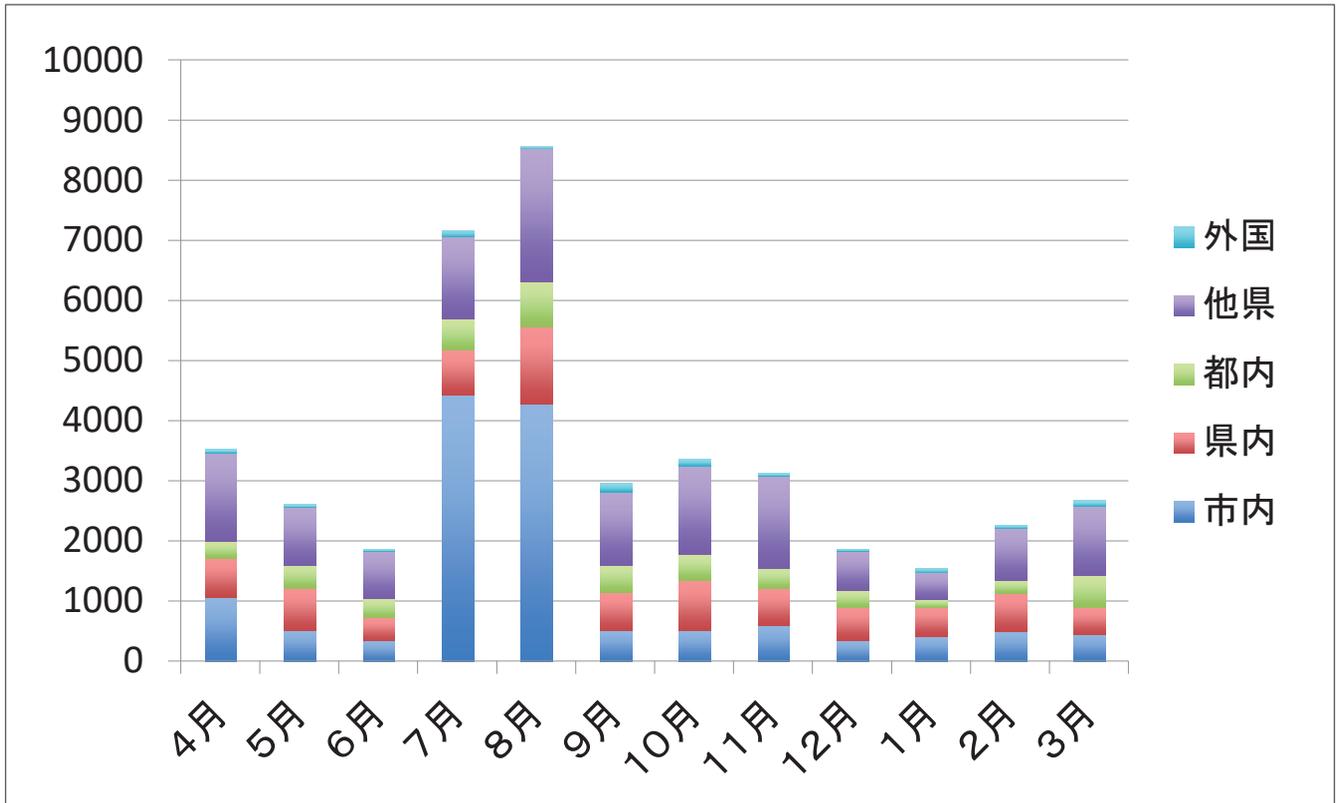


第21図 今後の展示内容の改善要望 (N=693)

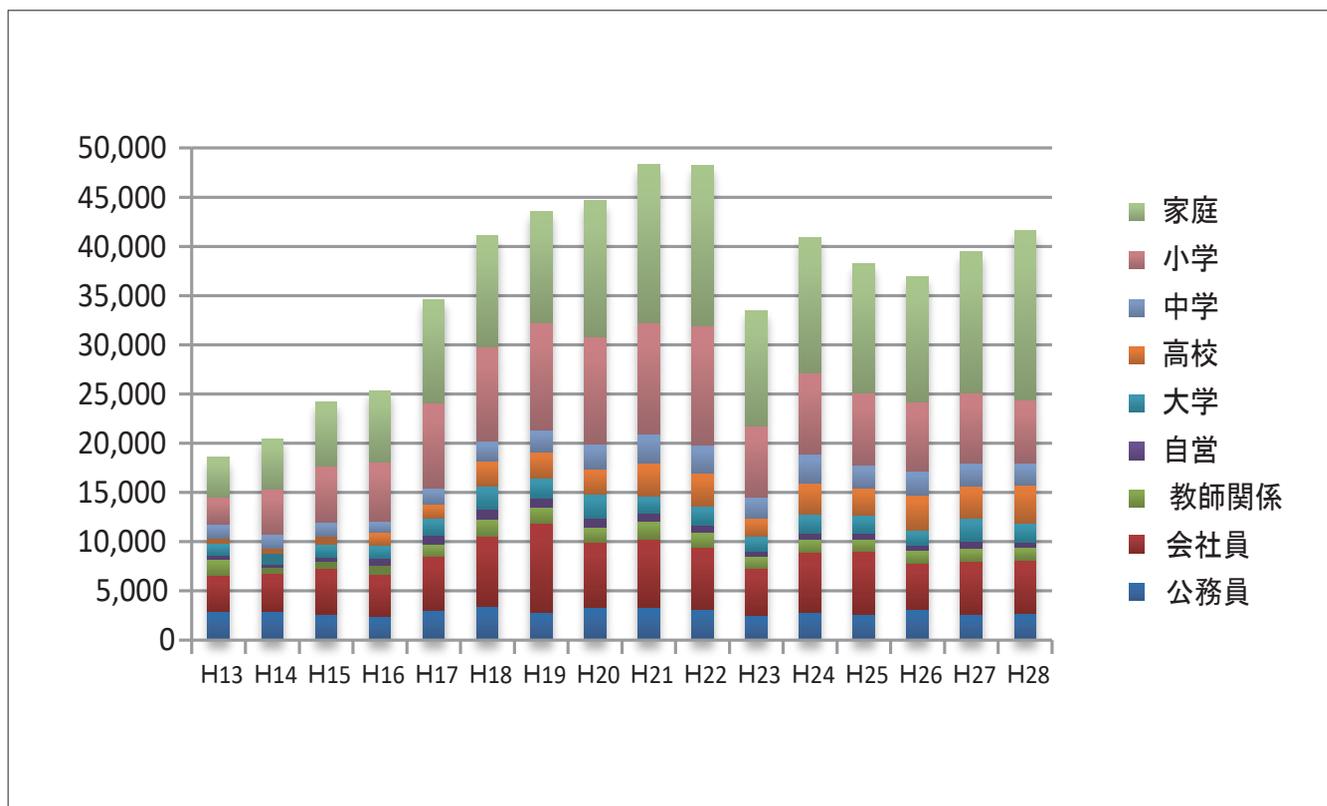




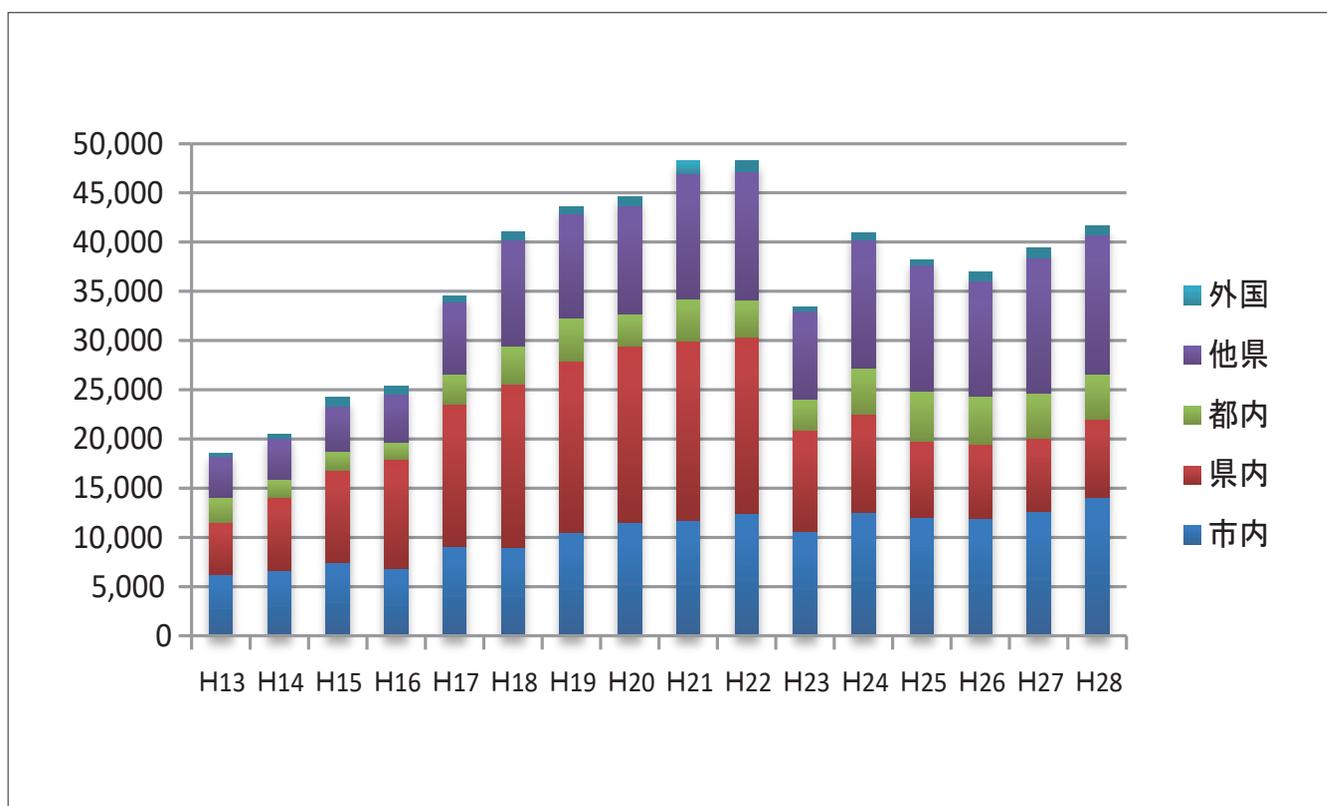
第24図 2016年度の来館者地域別内訳 (N=41,613)



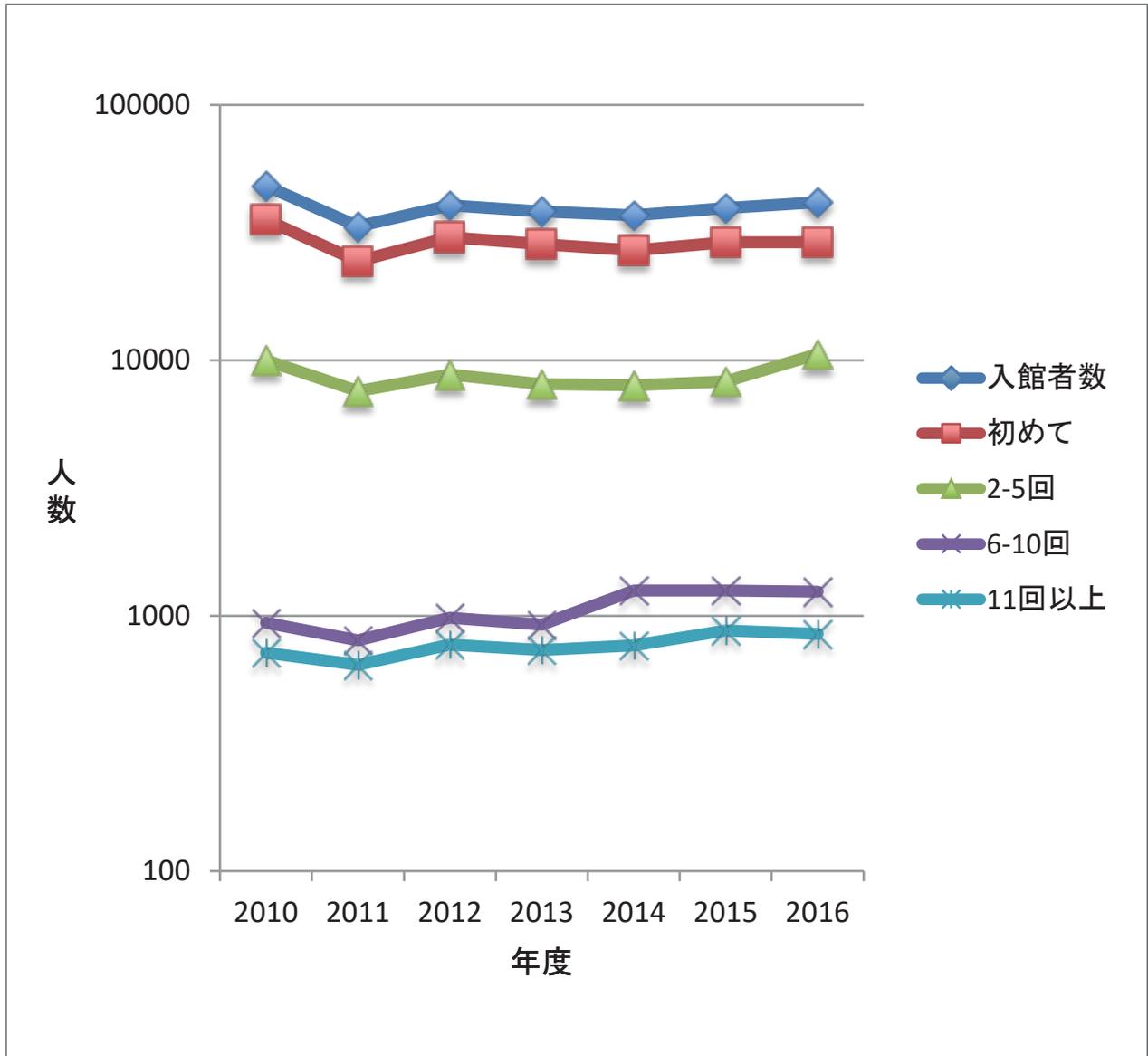
第25図 来館者数総計推移（職業別）



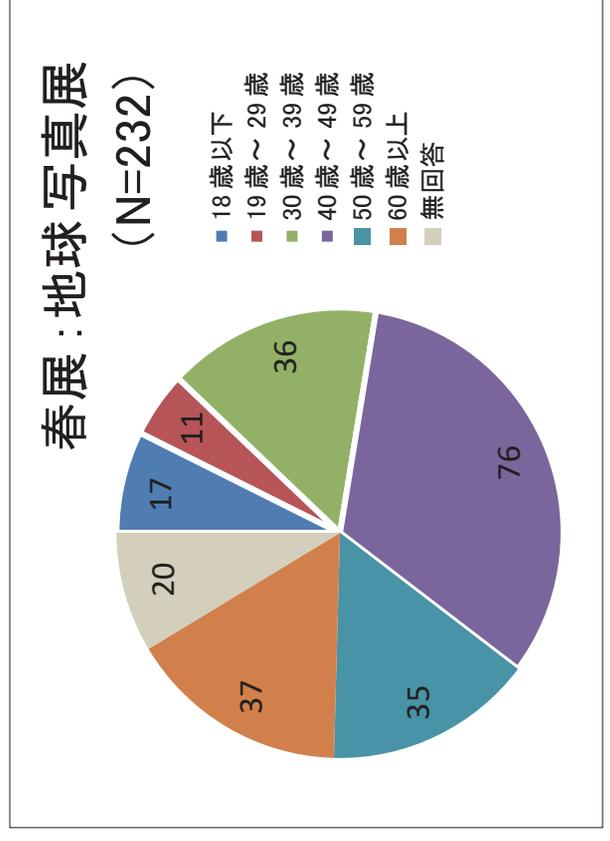
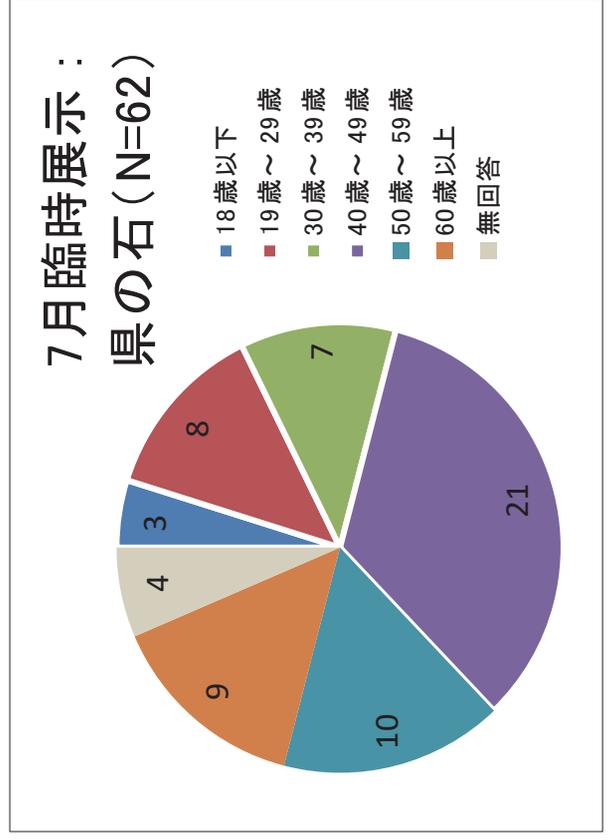
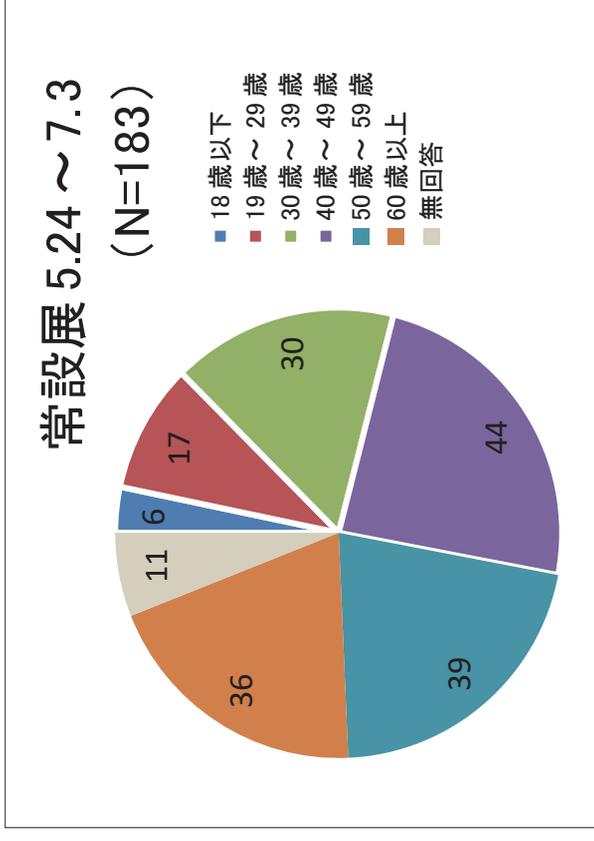
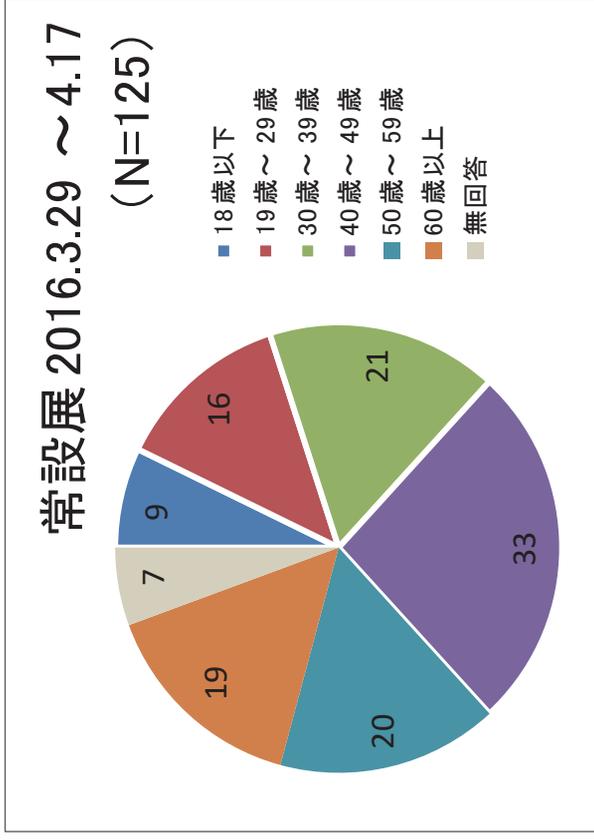
第26図 来館者数総計推移（地域別）



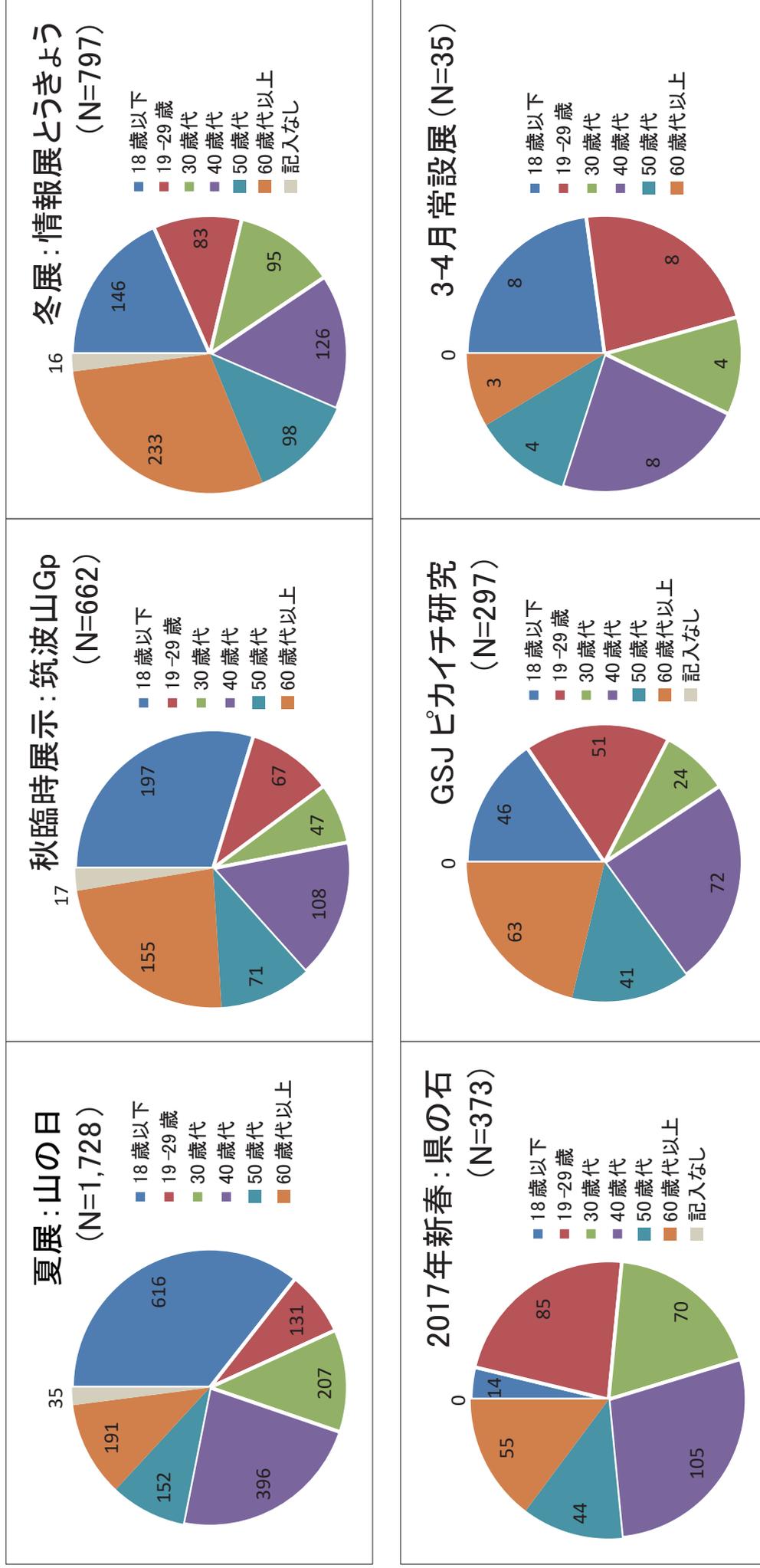
第27図 来館者数とリピーター状況



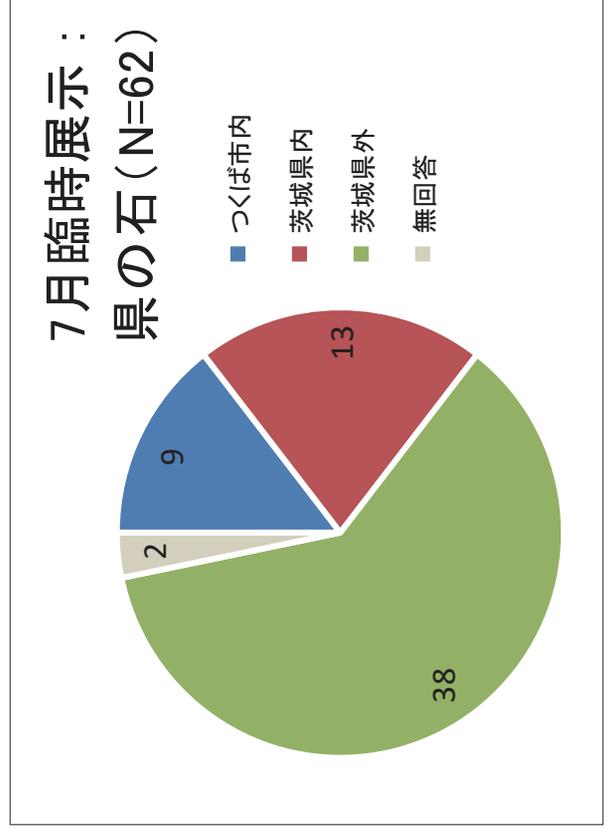
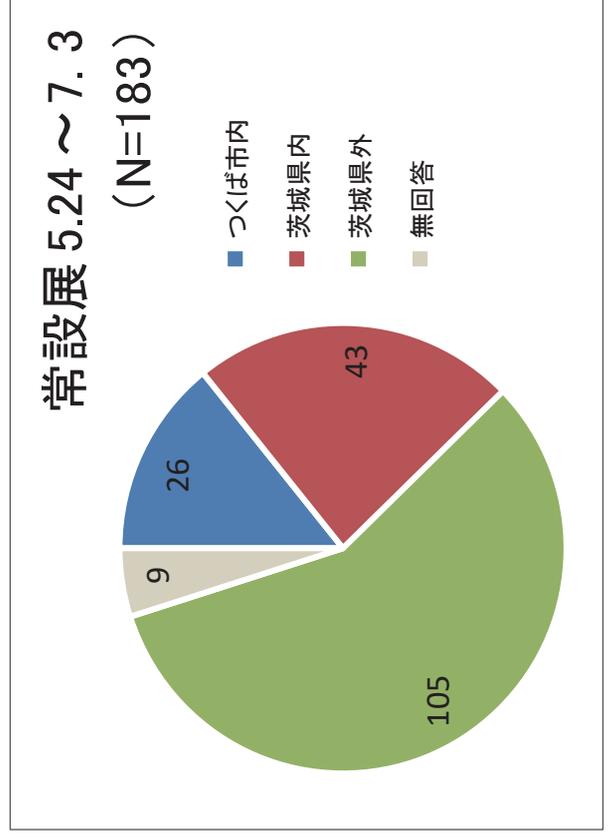
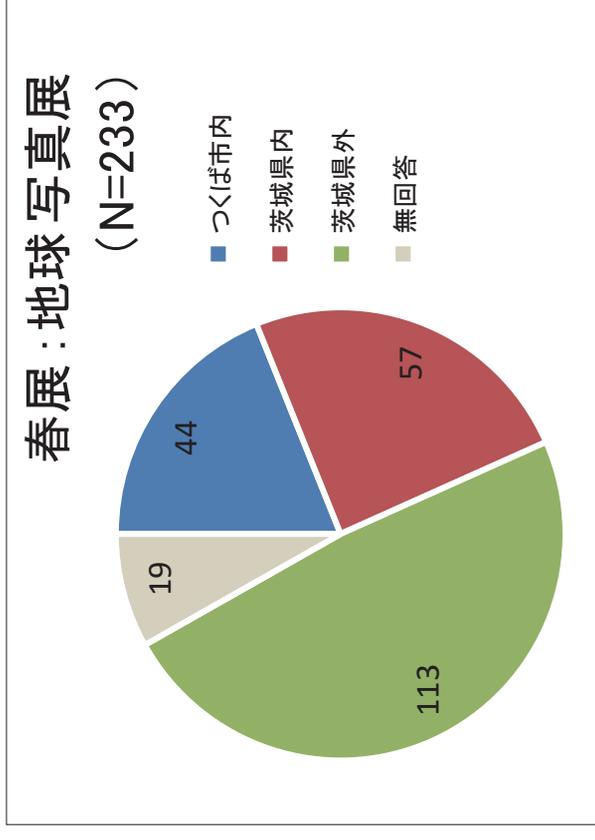
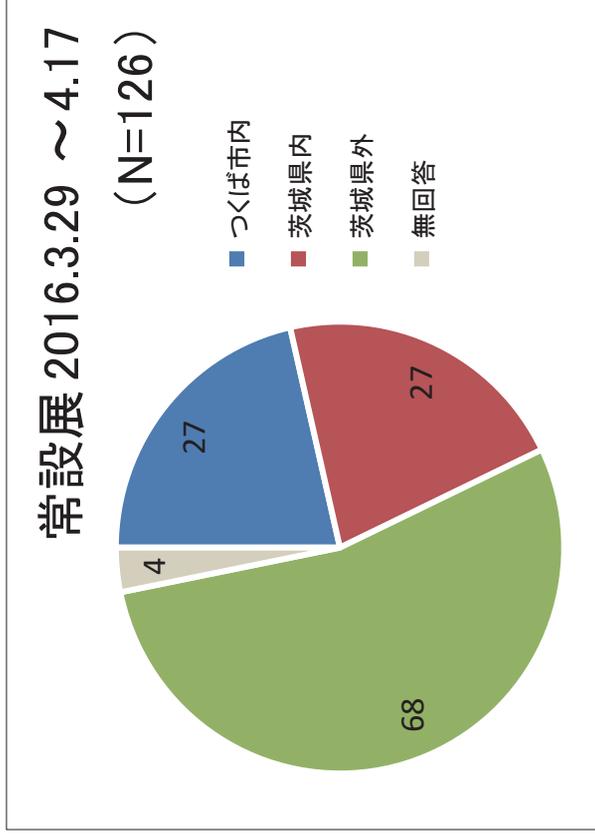
第28図 回答者の年齢層（期間ごと）



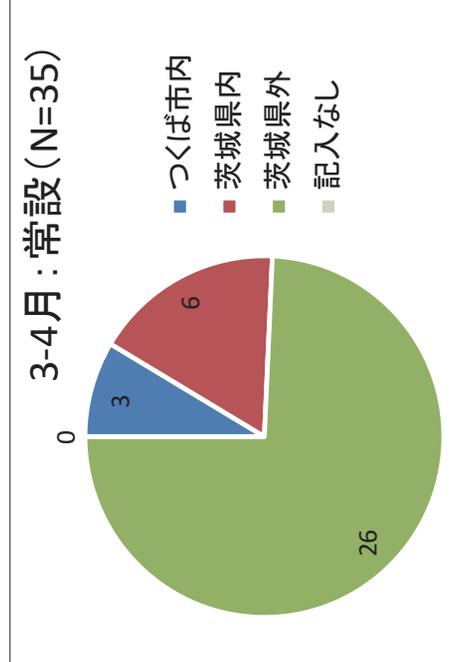
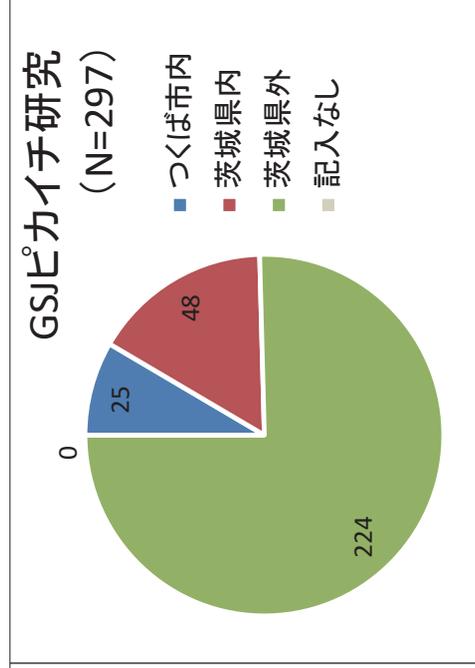
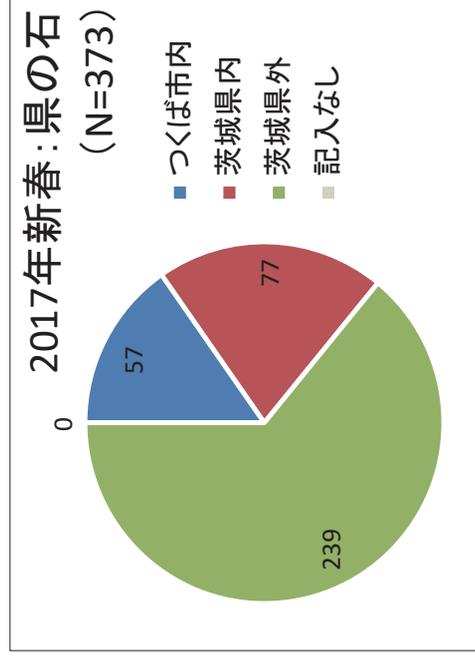
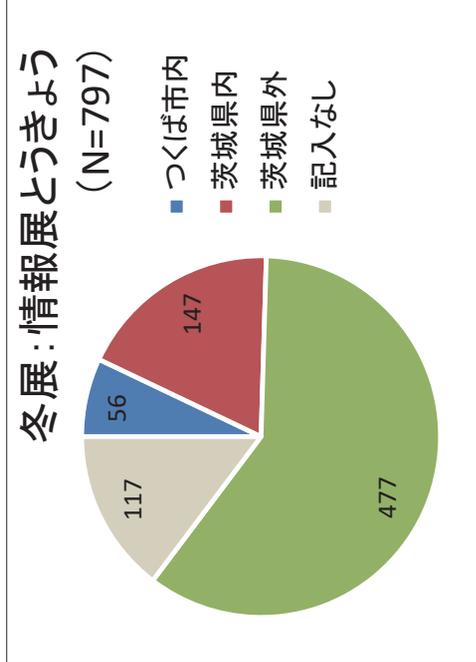
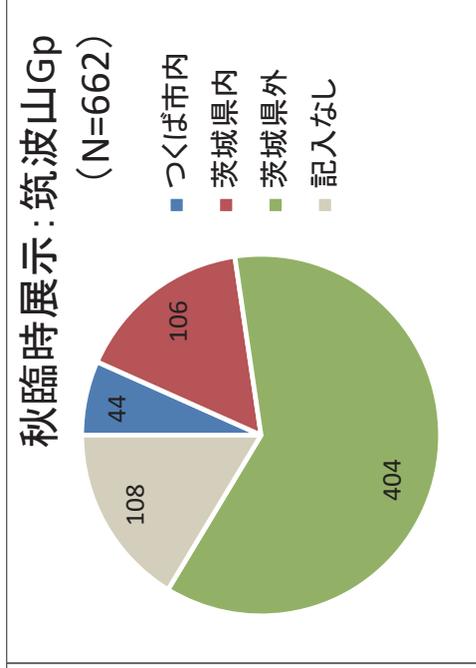
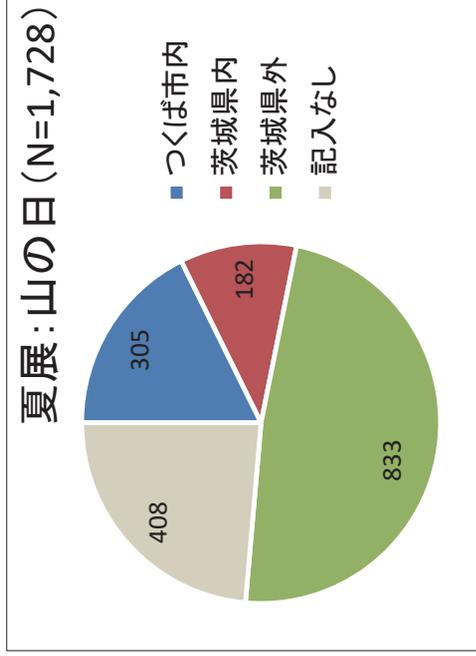
第29図 回答者の年齢層（期間ごと）



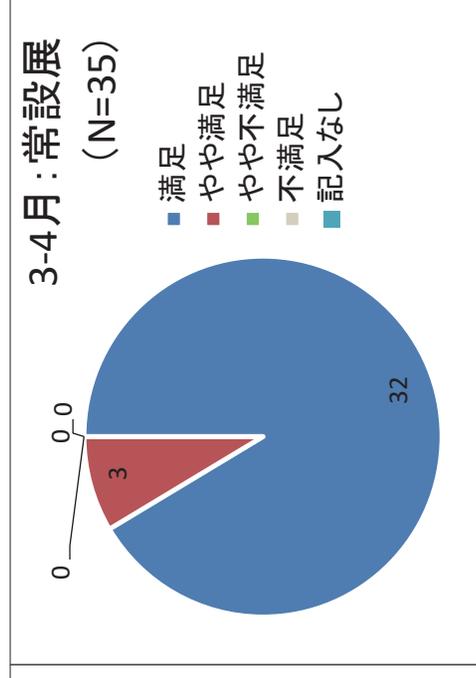
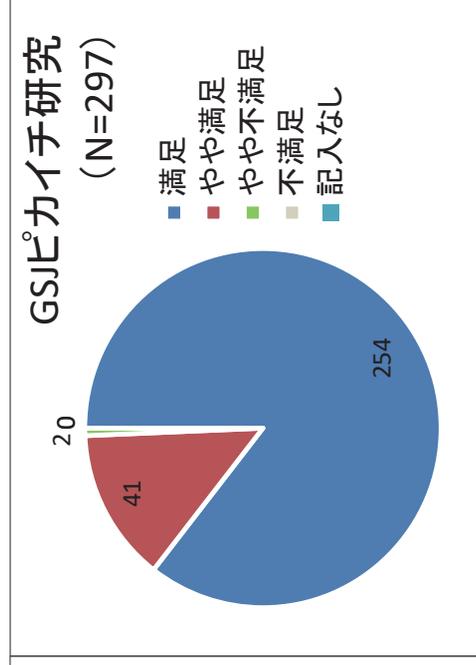
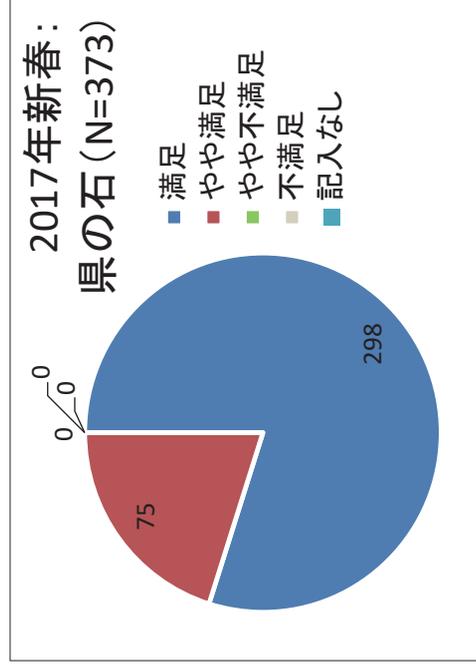
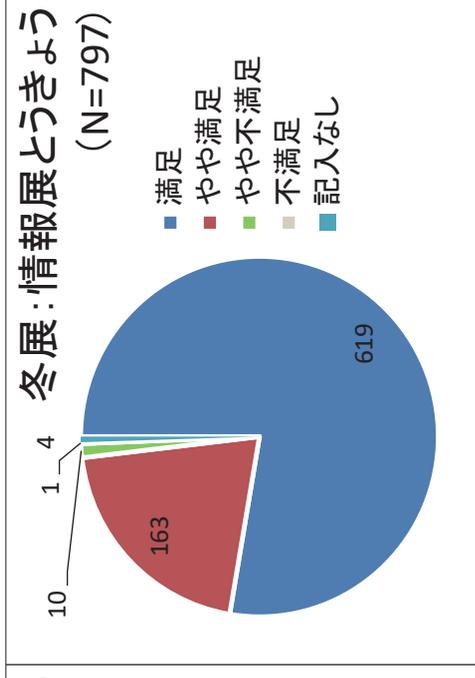
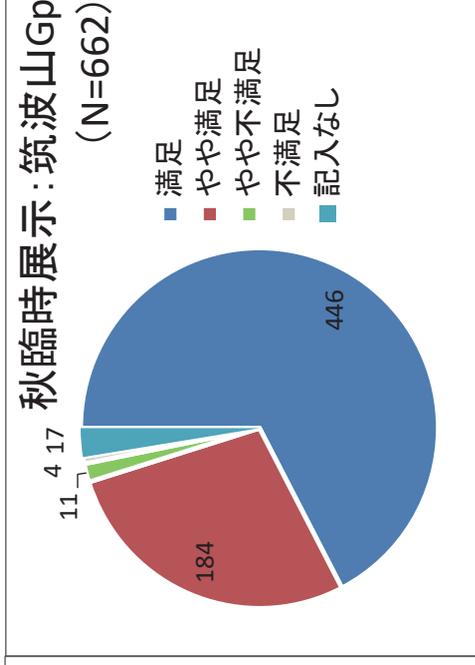
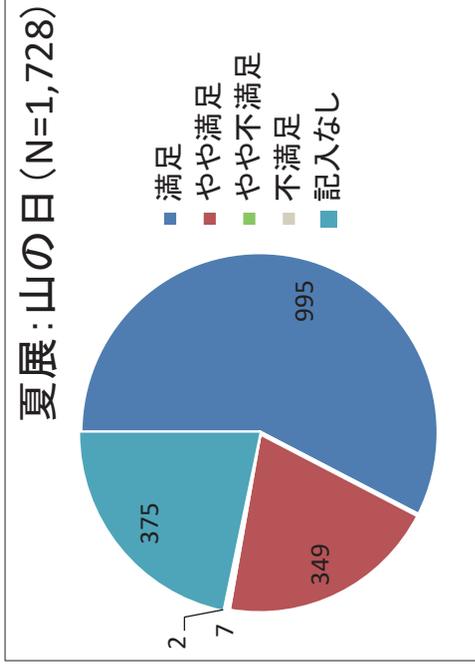
第30図 どこから来たか (期間ごと)



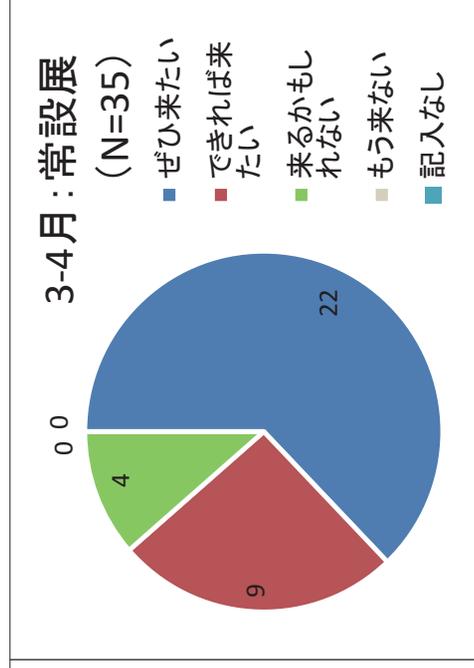
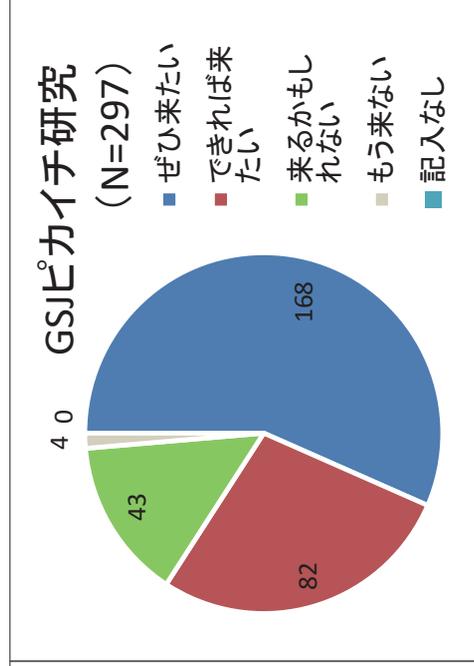
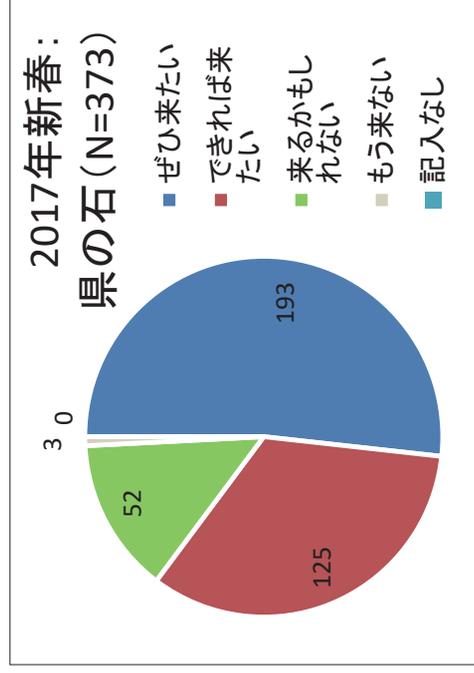
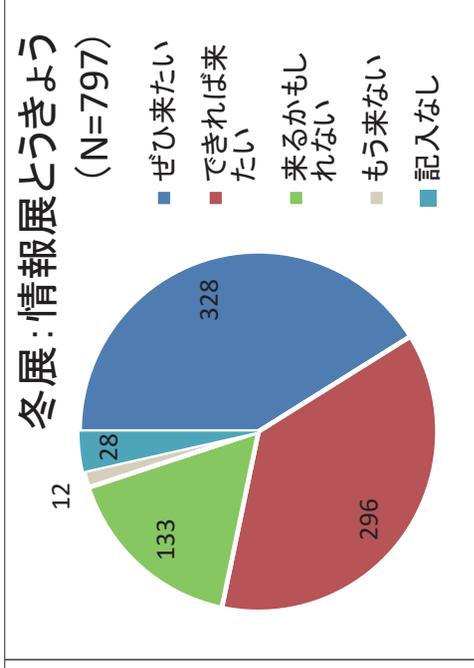
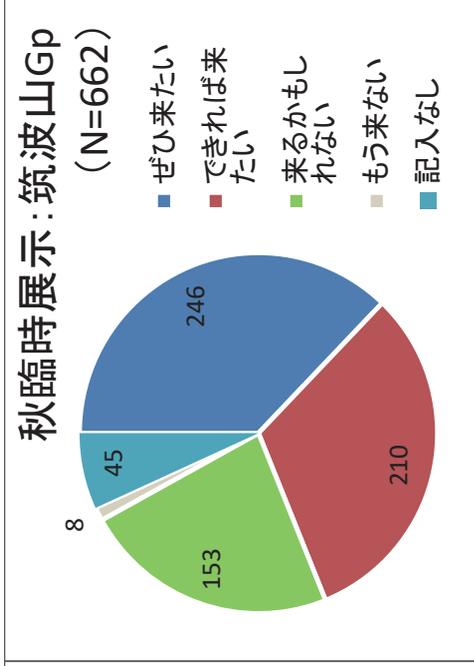
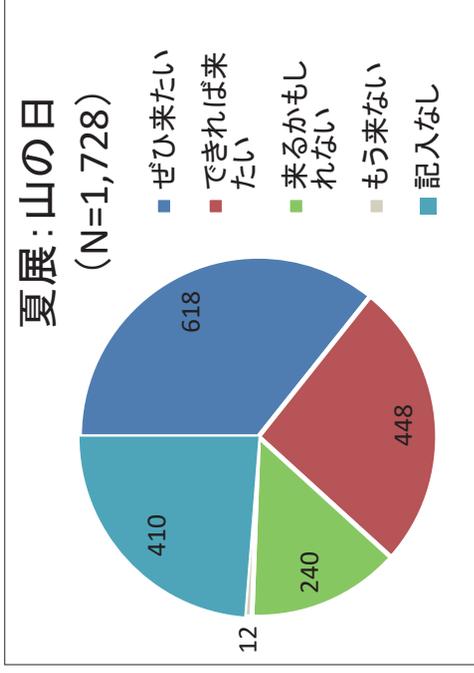
第31図 どこから来たか (期間ごと)



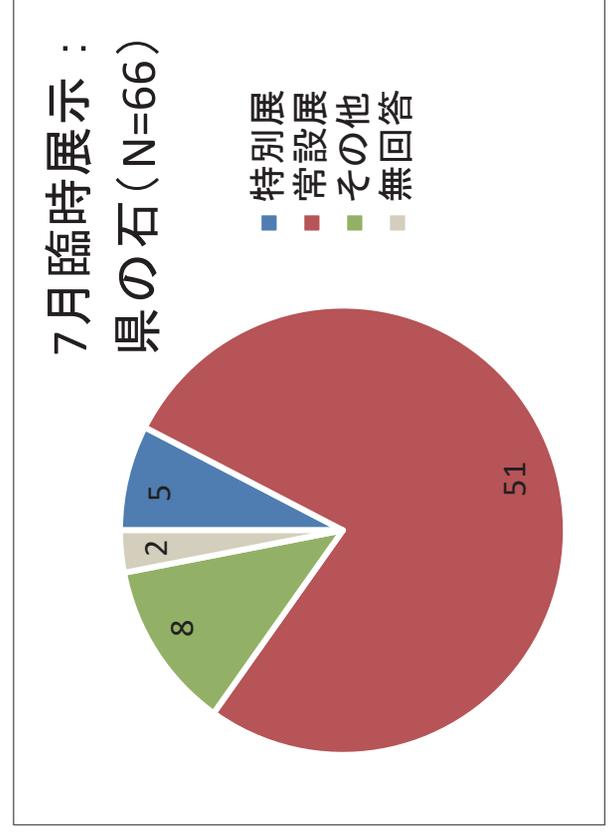
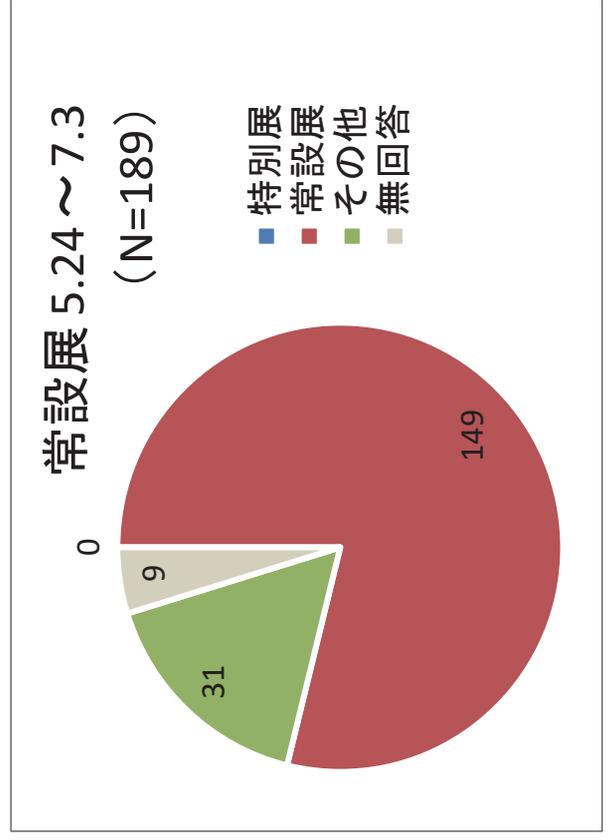
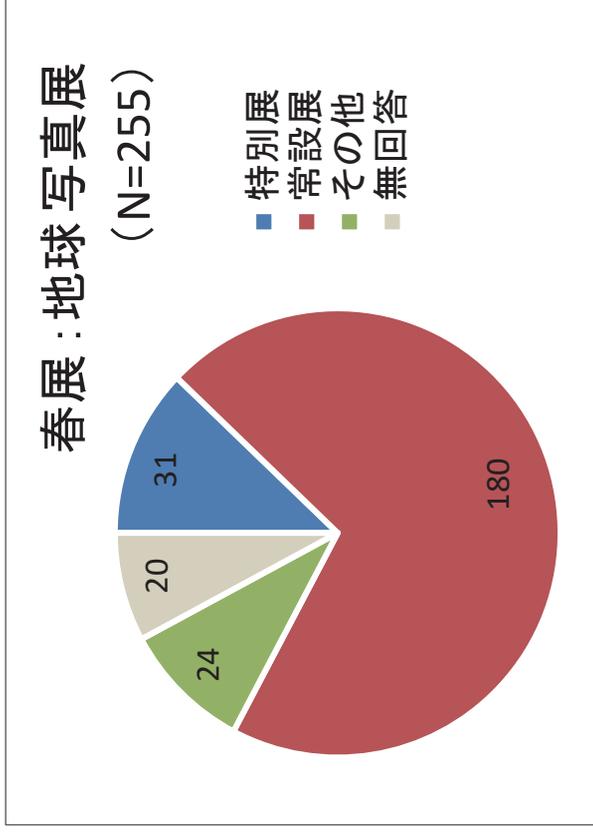
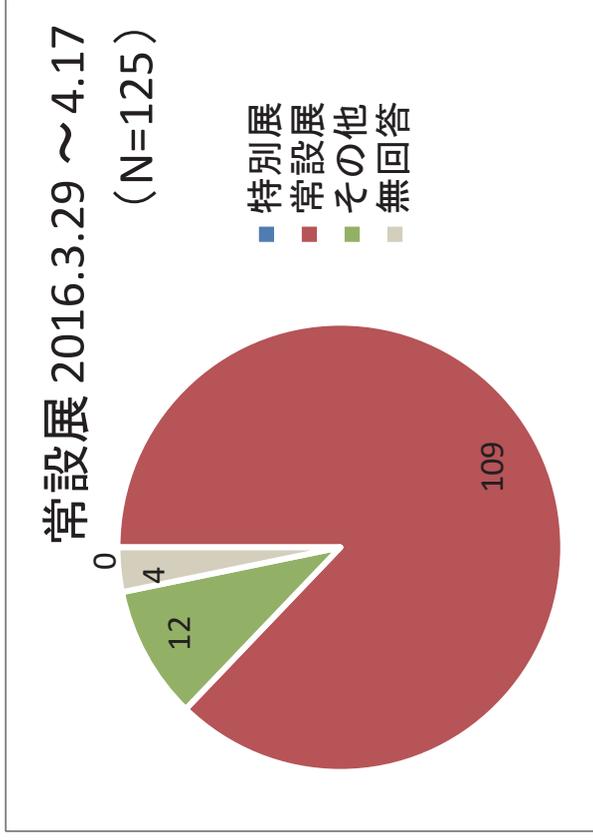
第32図 満足度 (館全般) (期間ごと)



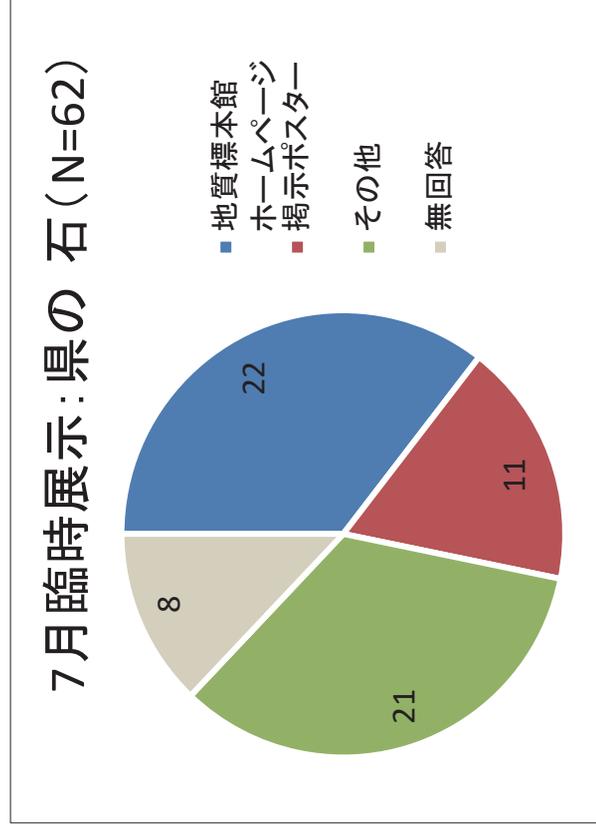
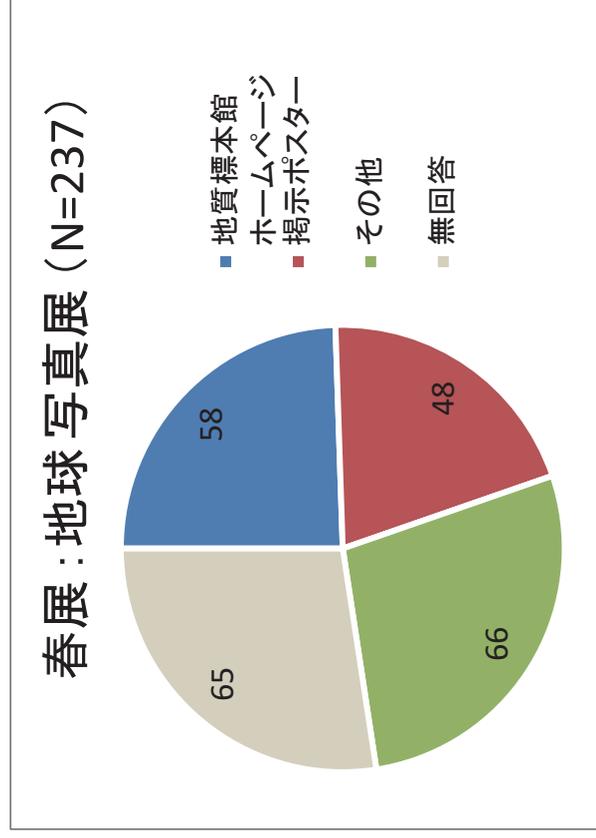
第33図 満足度（次回への期待）（期間ごと）



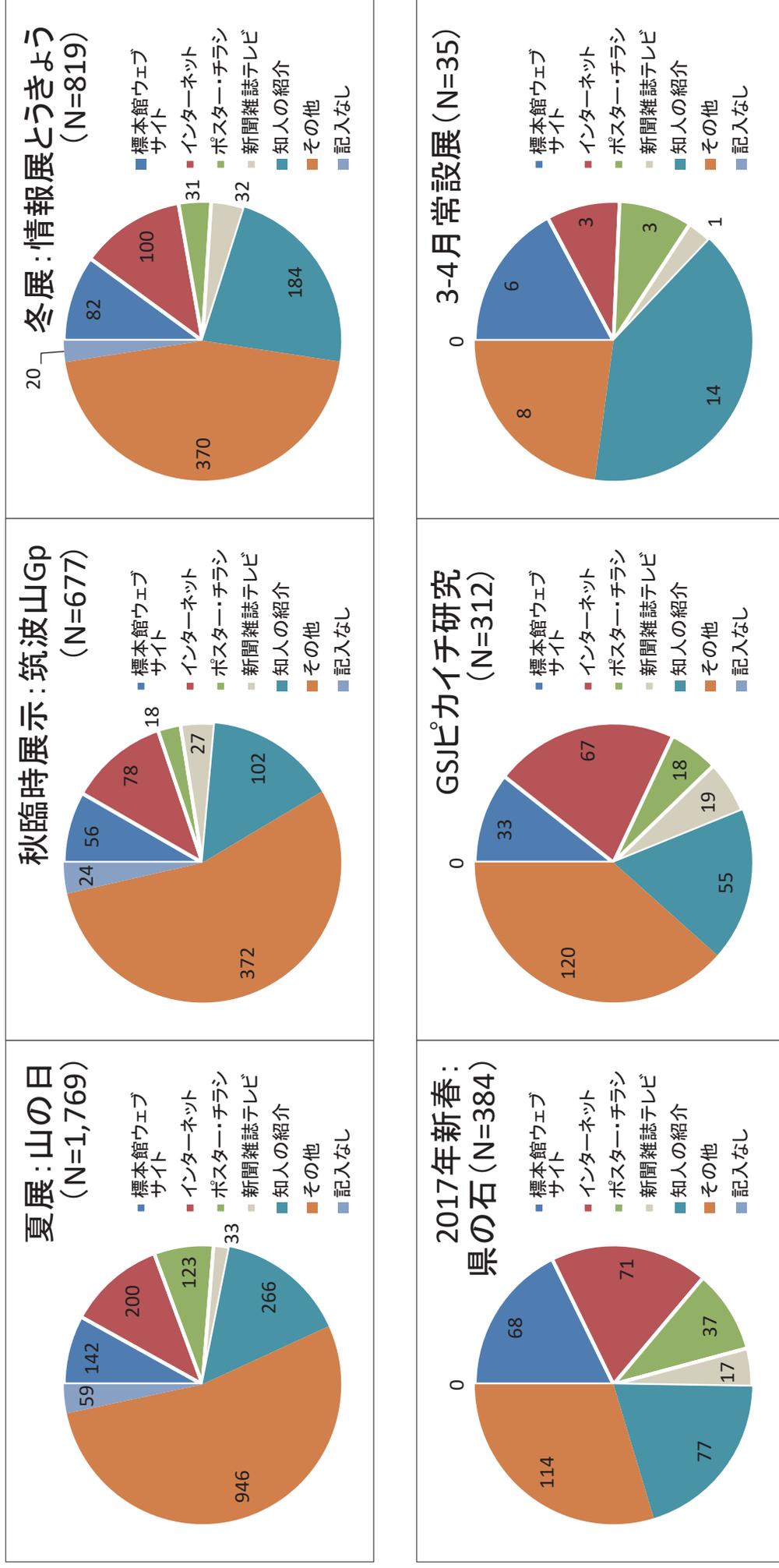
第34図 何を見に来たか (目的) (期間ごと)



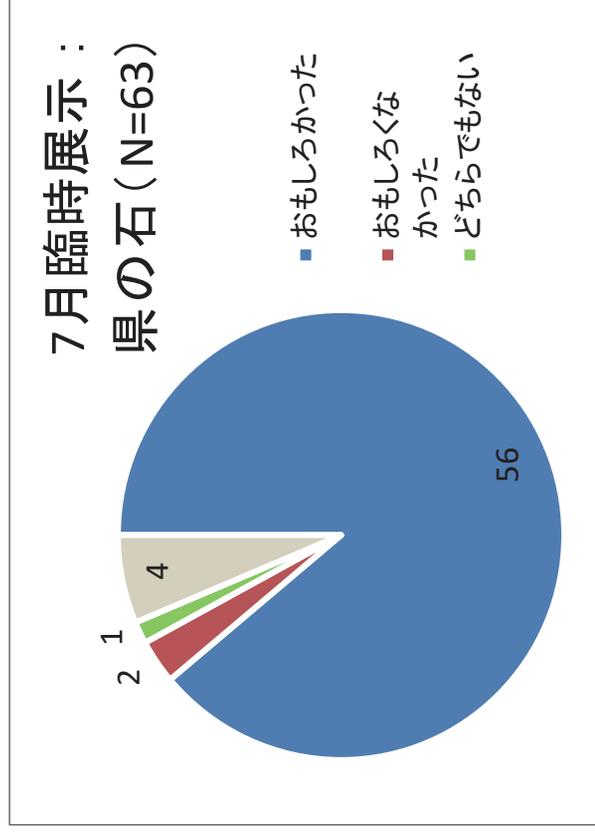
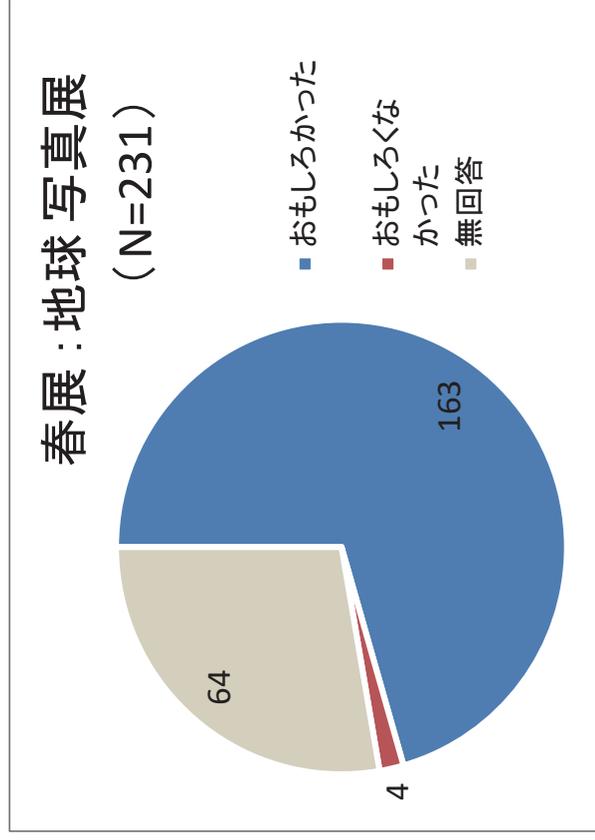
第35図 来館のきっかけ（期間ごと）



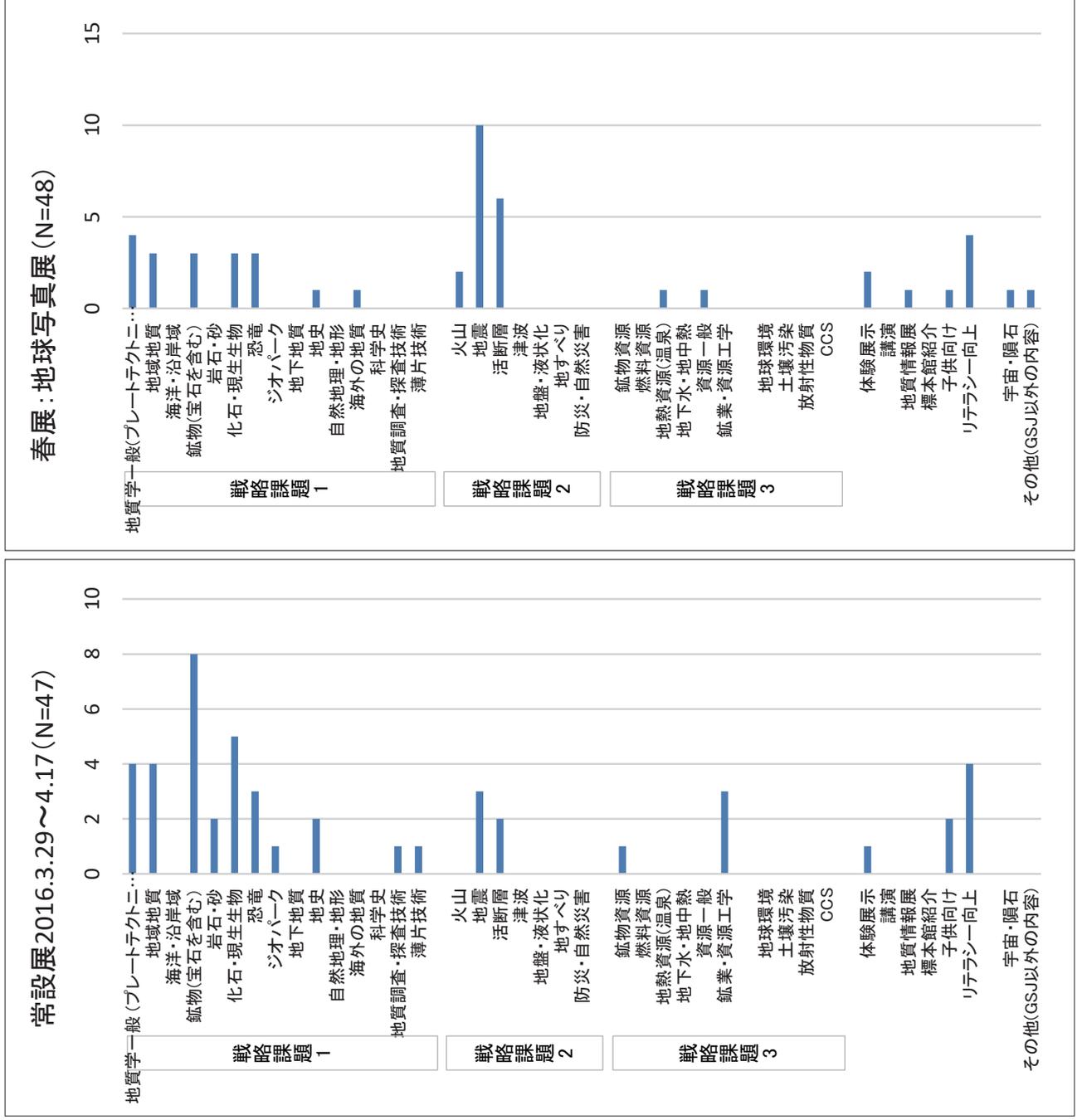
第36図 来館のきっかけ（期間ごと）



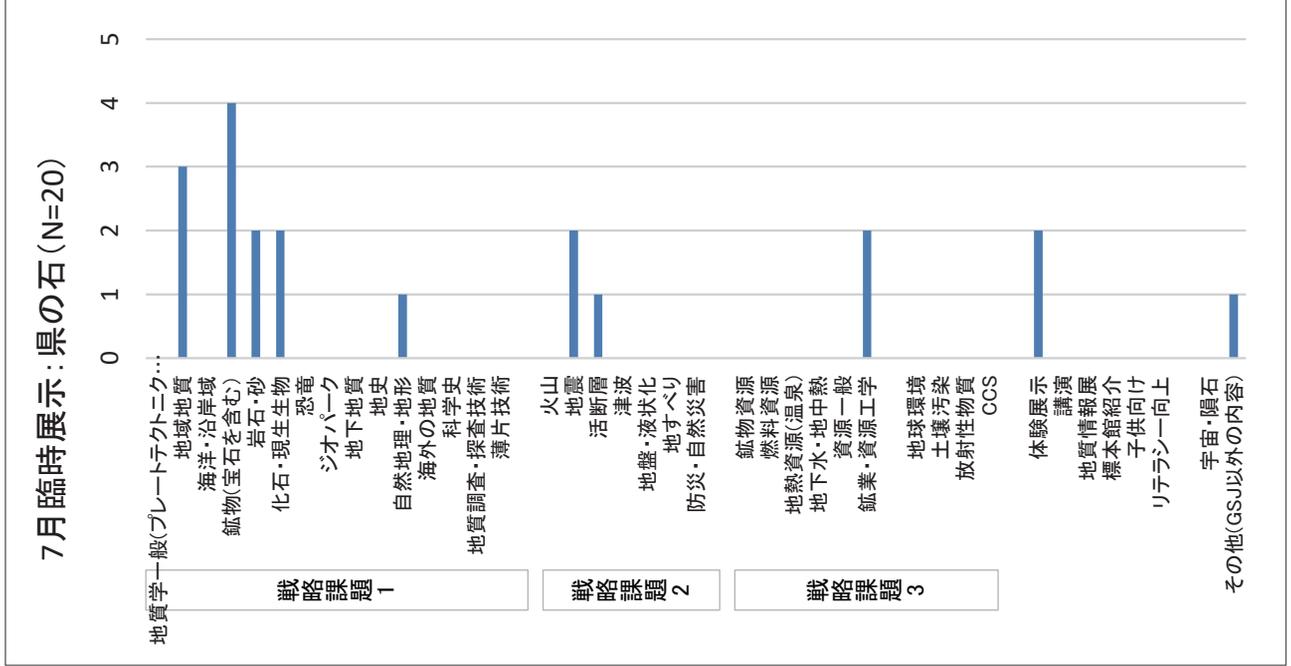
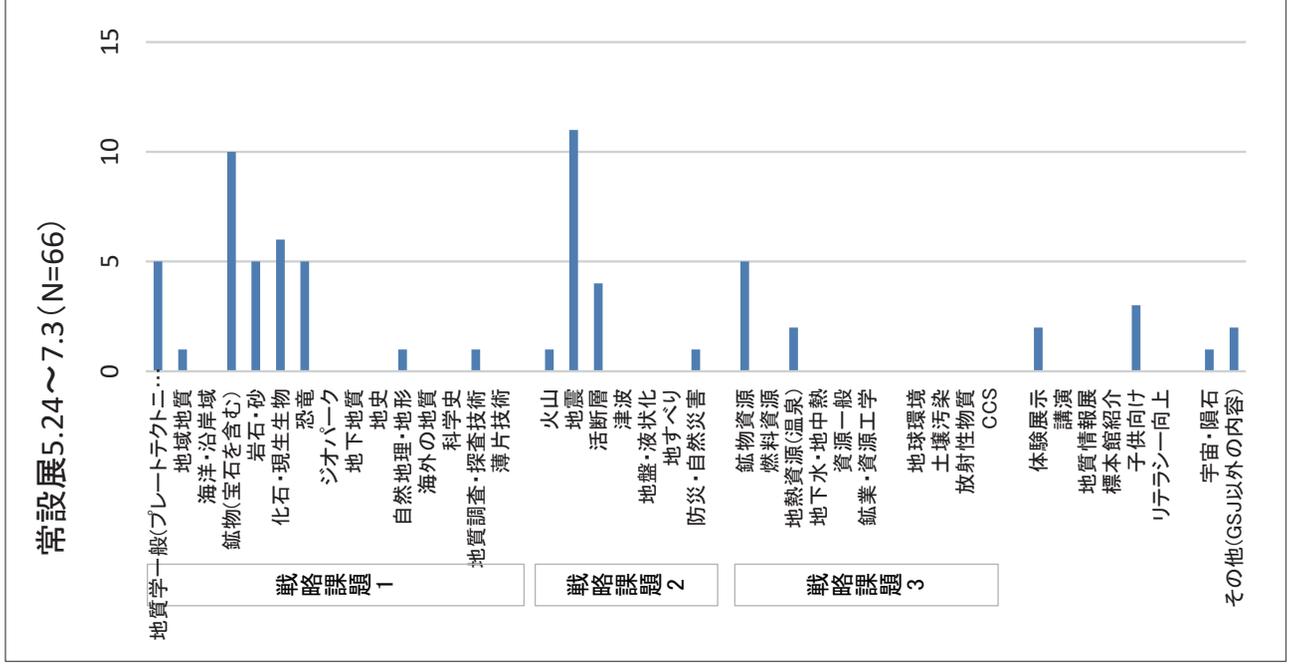
第37図 面白かったか (期間ごと)



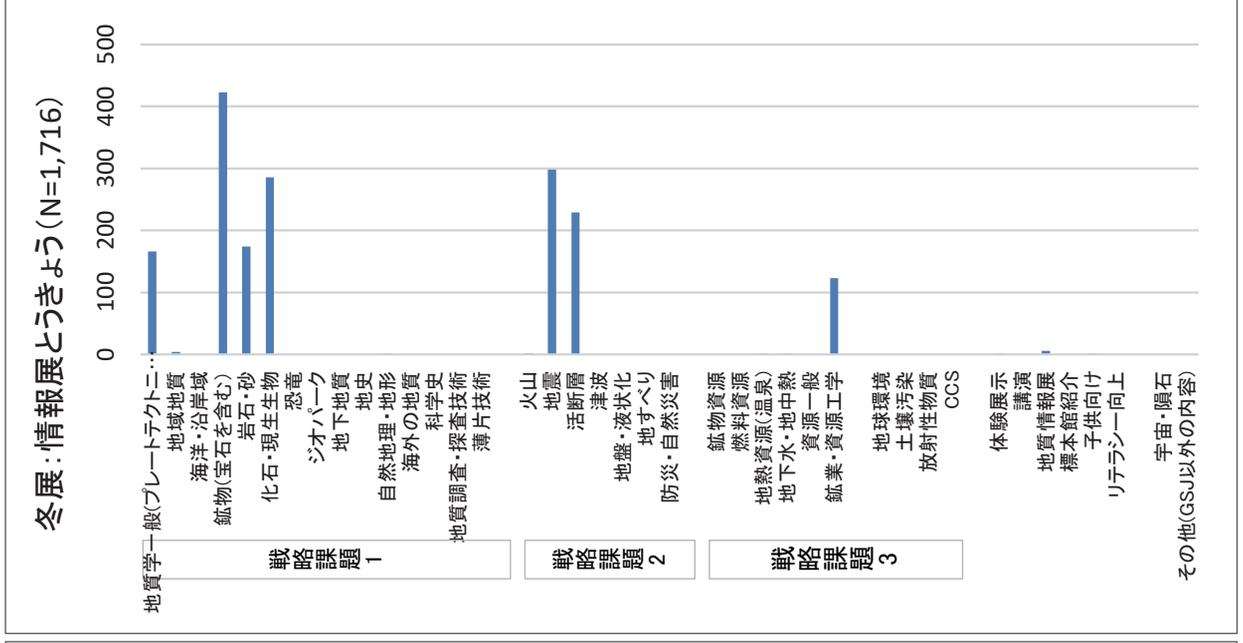
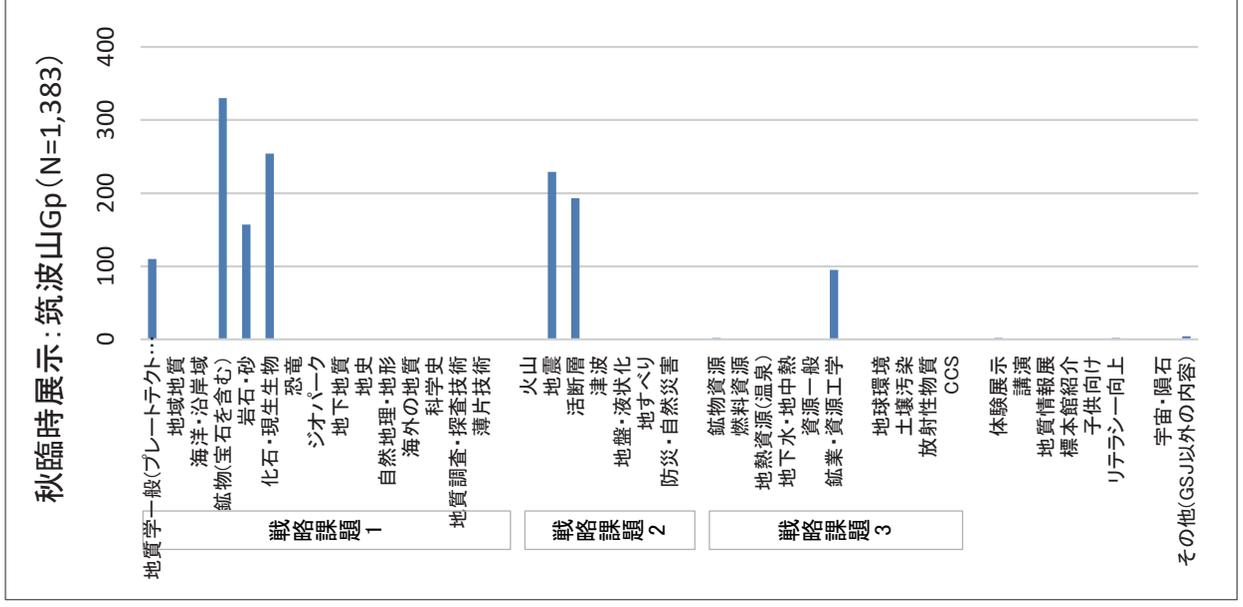
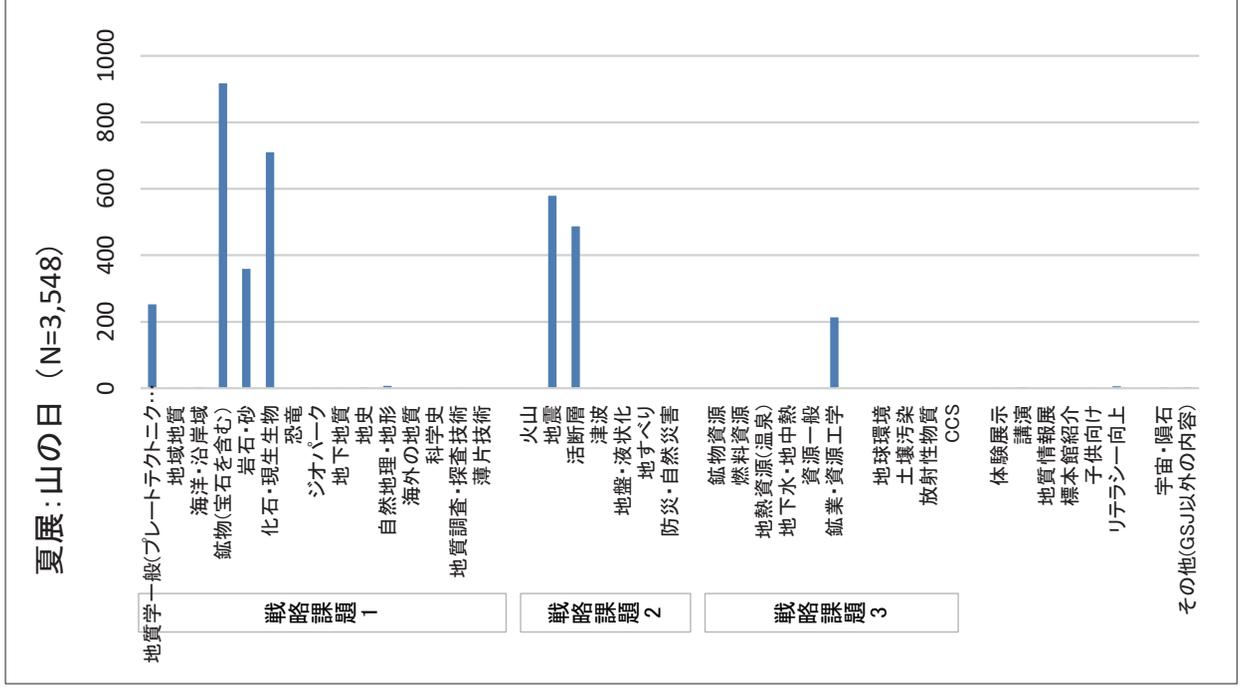
第38図 今後の展示内容への要望（期間ごと）1



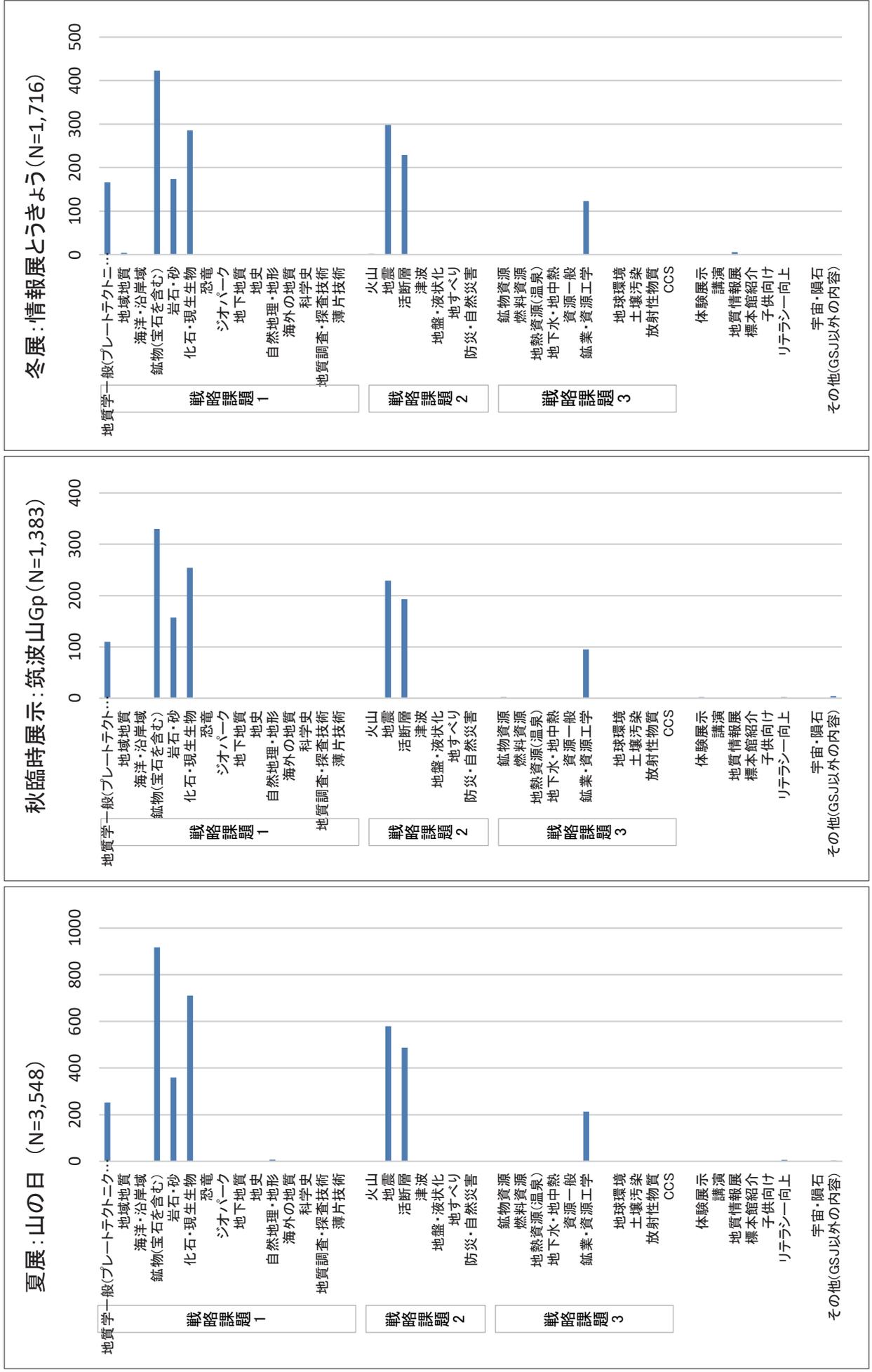
第39図 今後の展示内容への要望（期間ごと）2



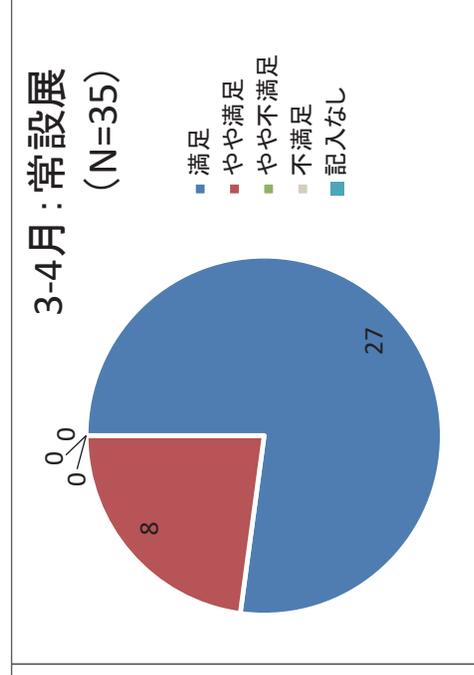
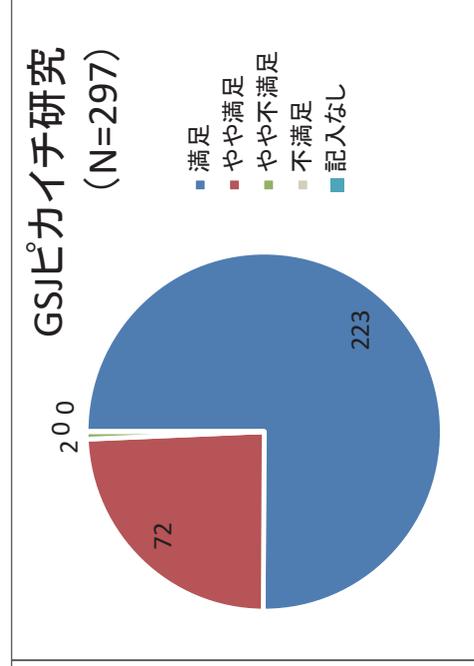
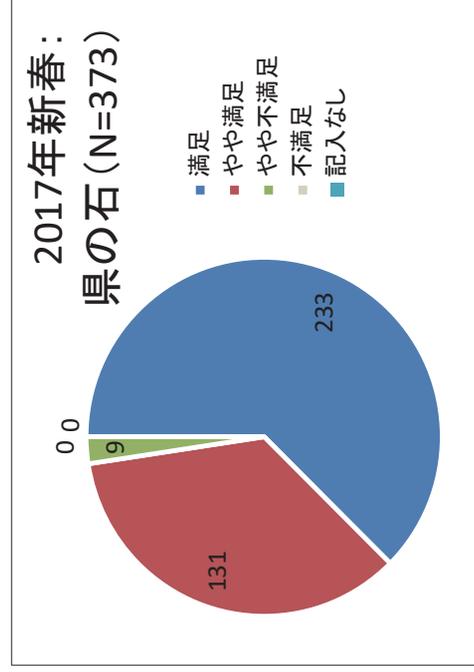
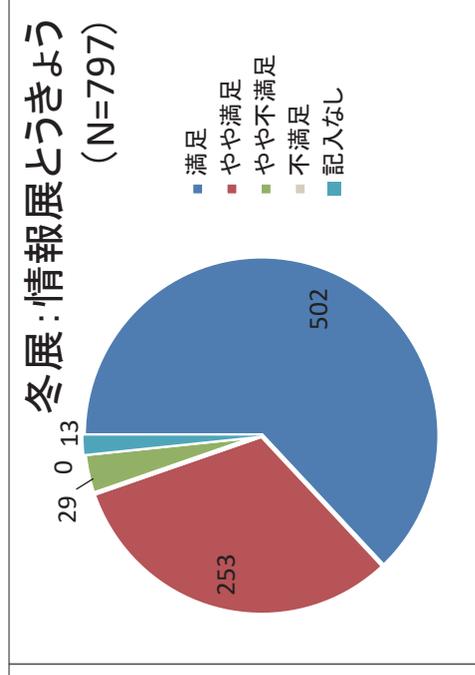
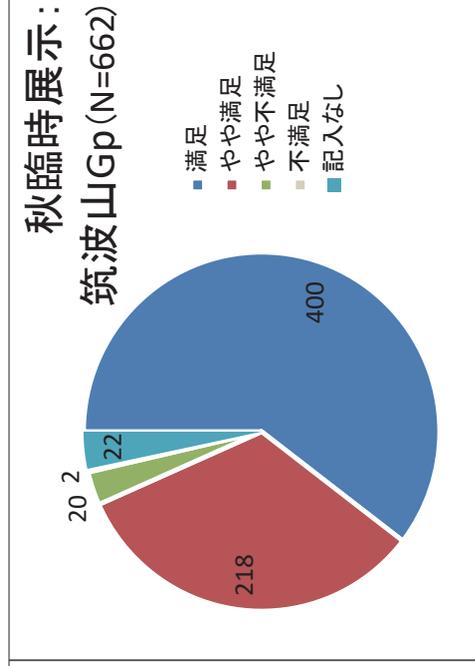
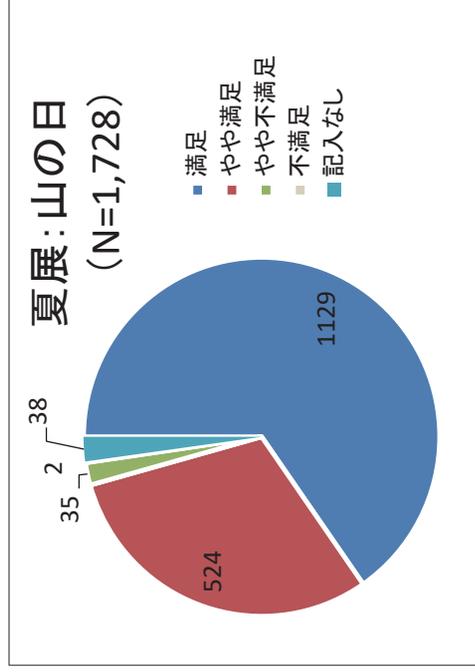
# 第40図 興味を持ったテーマ (期間ごと) 1



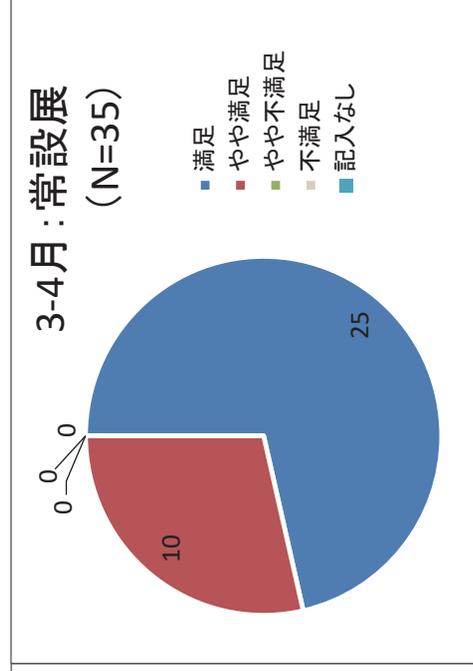
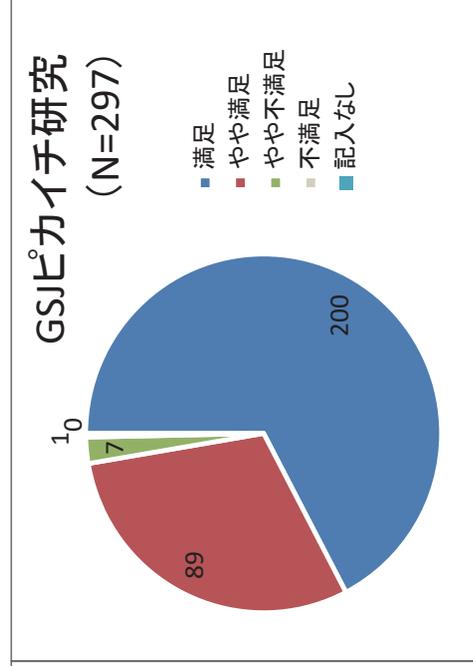
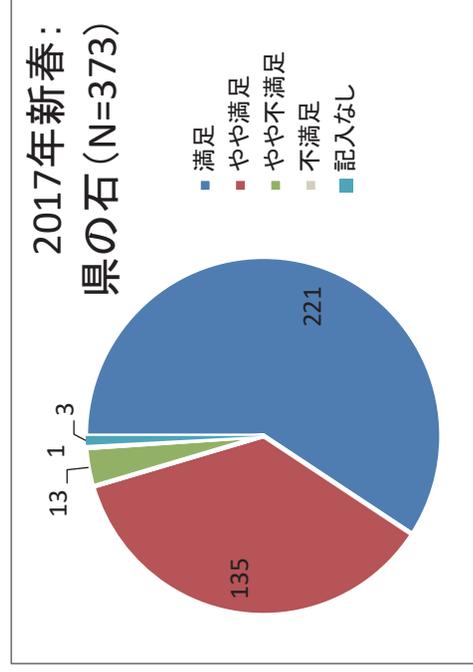
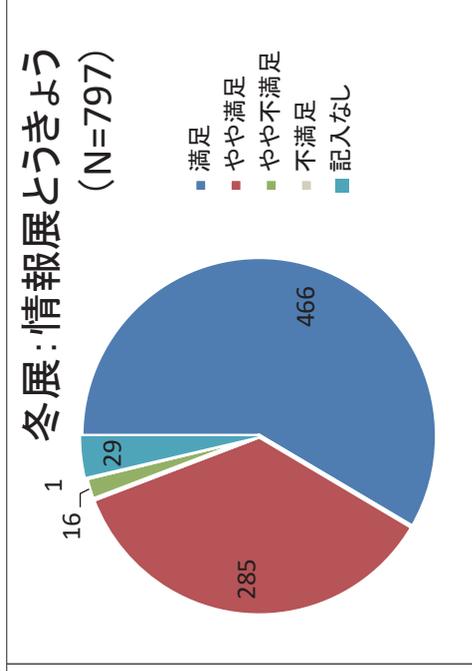
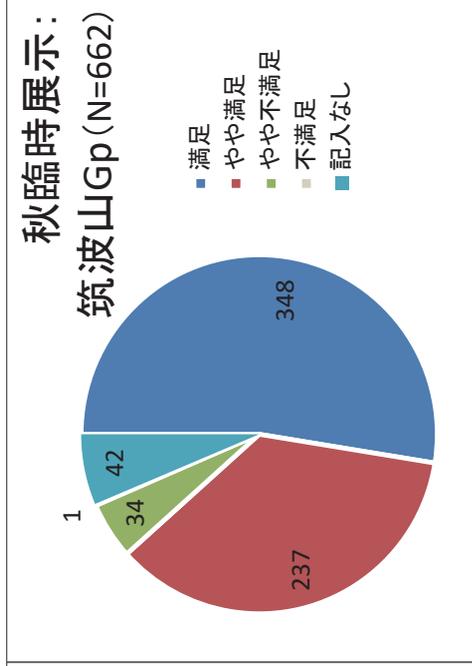
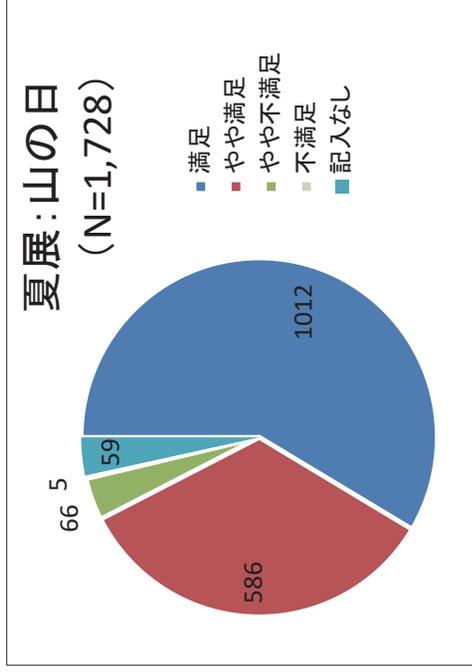
# 第41図 興味を持ったテーマ (期間ごと)



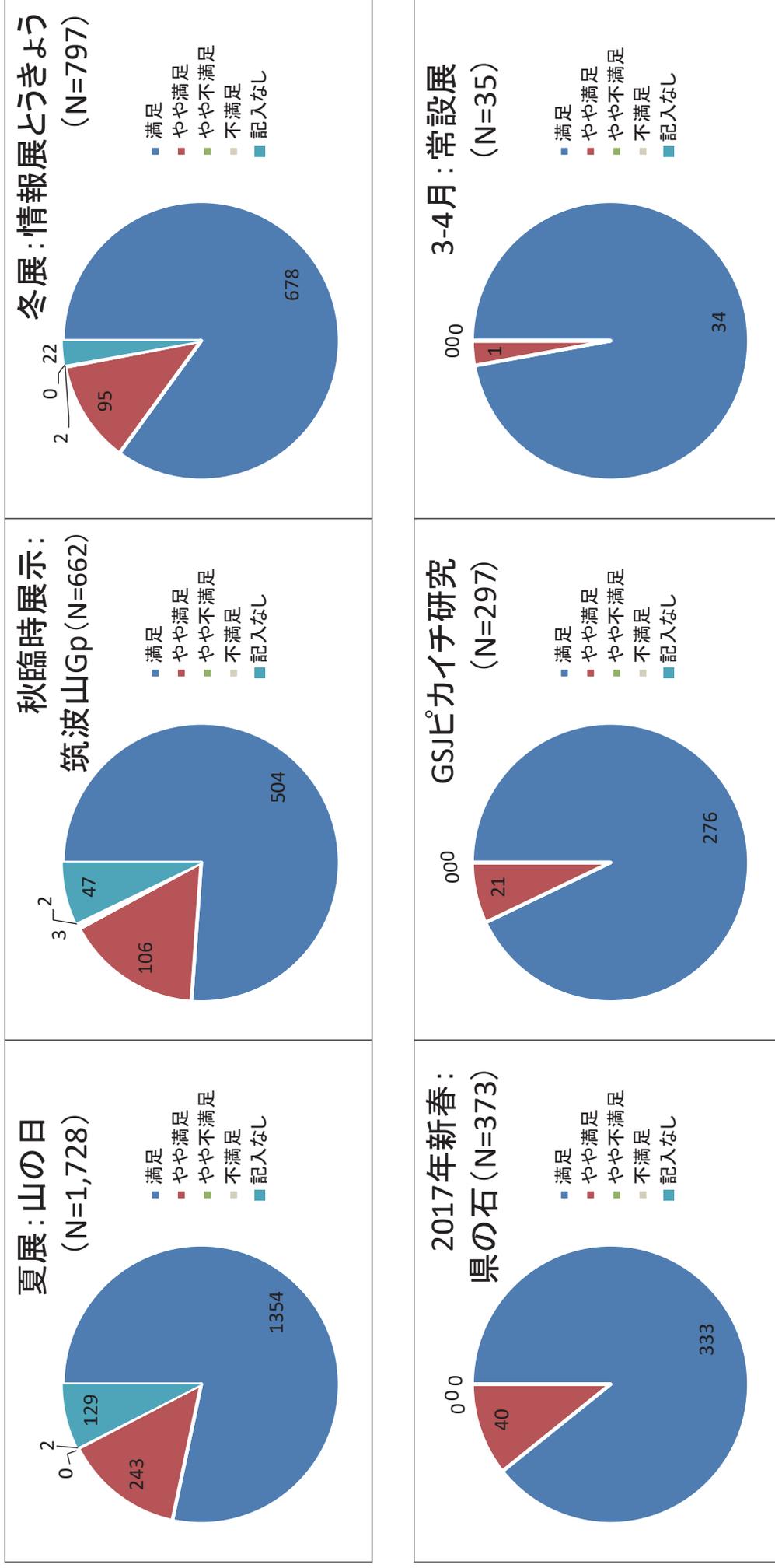
第42図 展示物について（展示の仕方）（期間ごと）



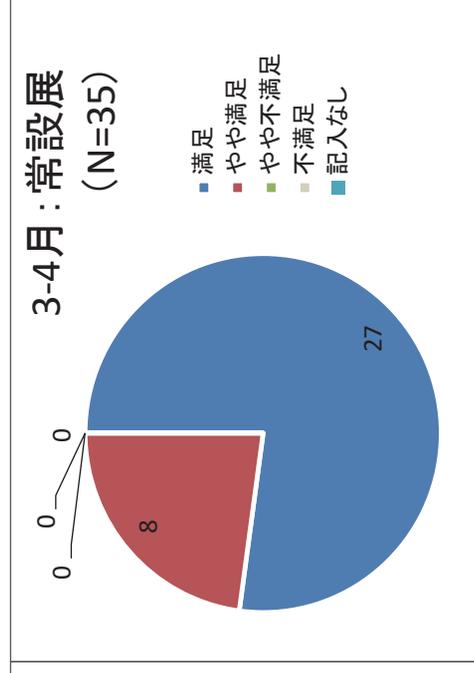
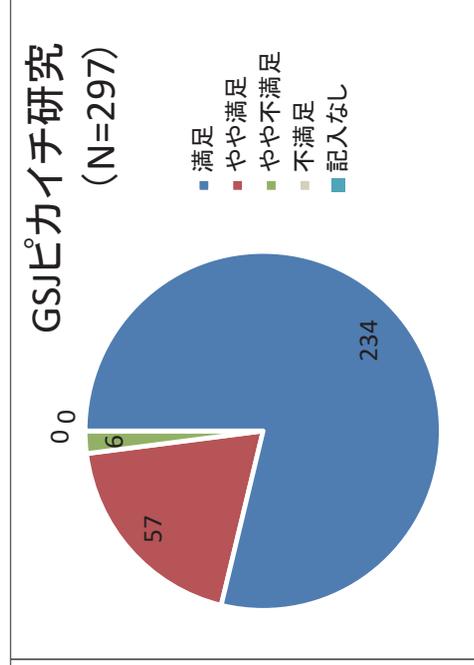
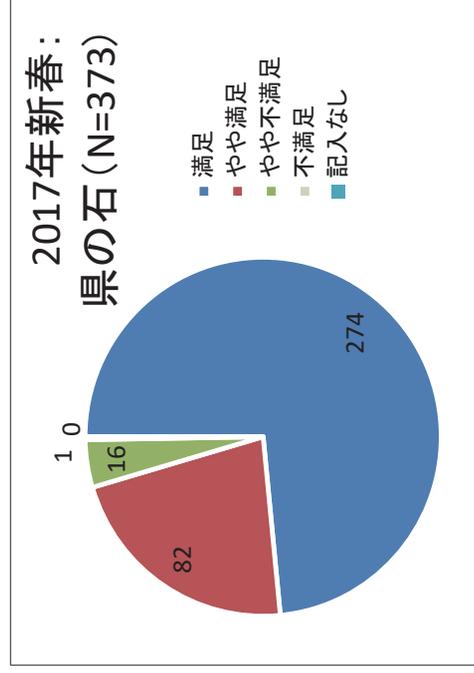
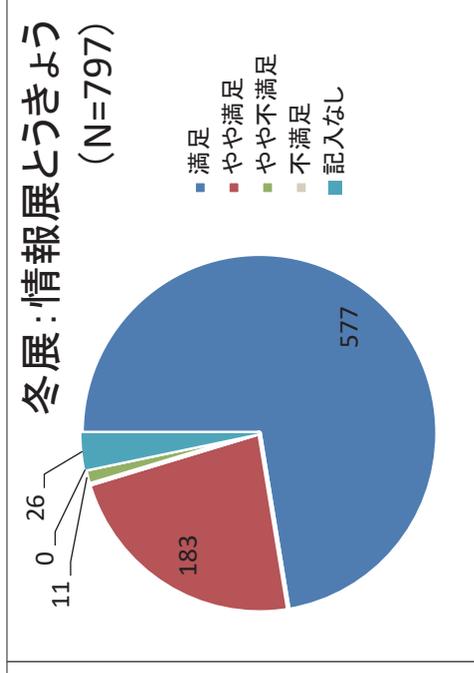
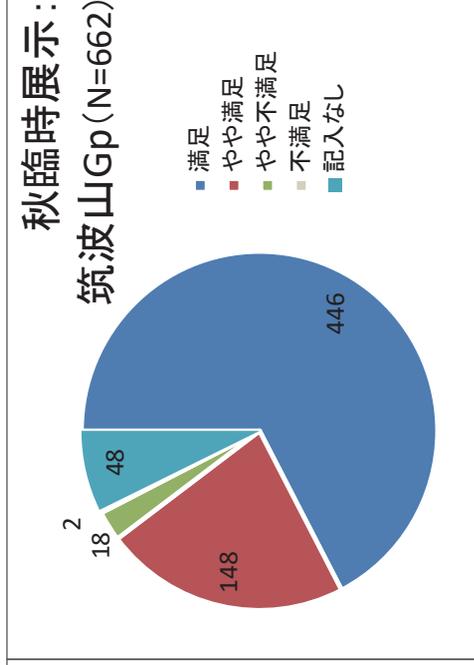
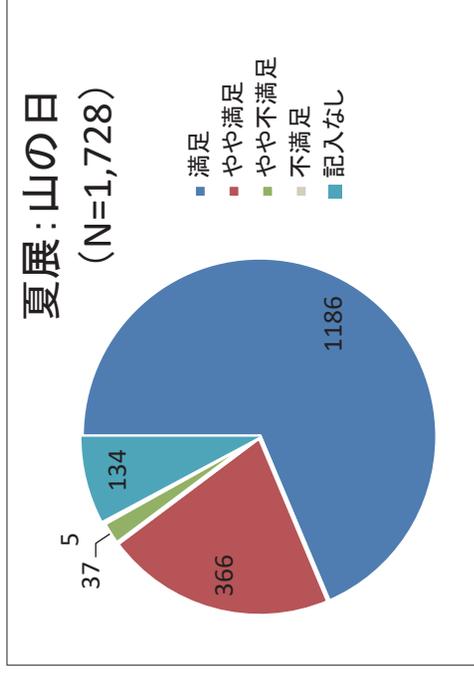
第43図 展示物について（機器の使い勝手）（期間ごと）



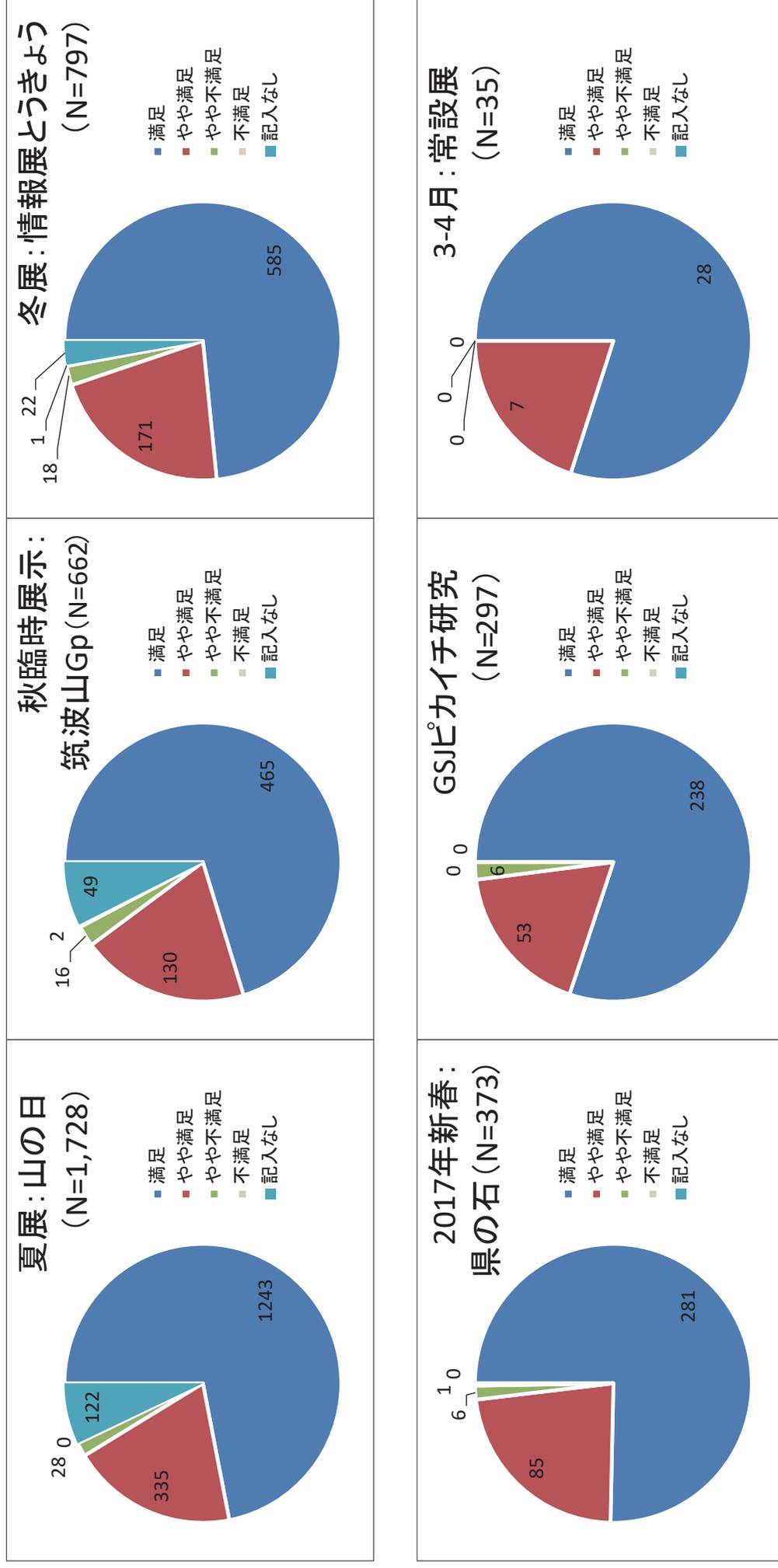
第44図 建物やサービスについて（受付の対応）（期間ごと）



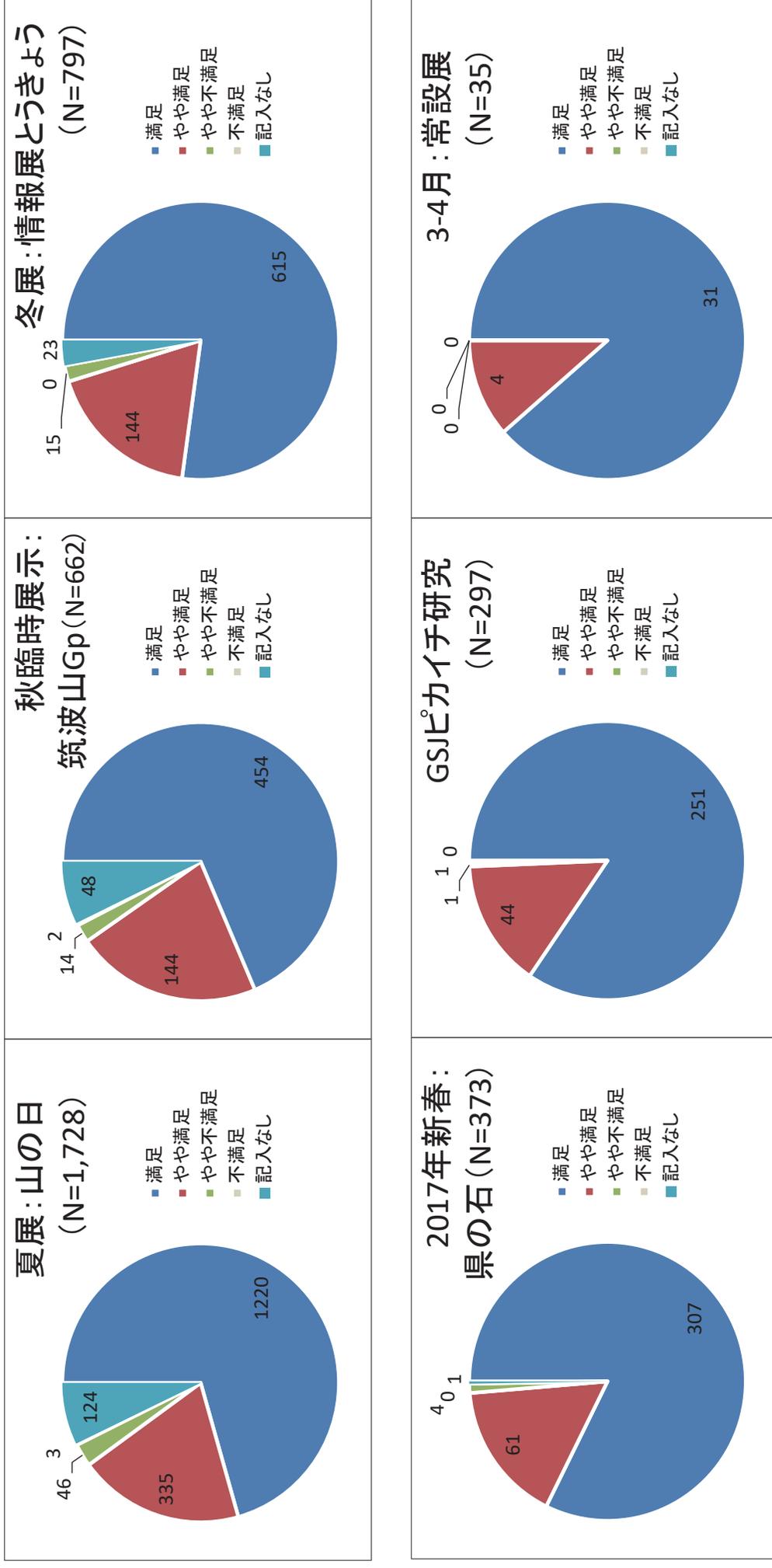
第45図 建物やサービスについて（案内表示）（期間ごと）



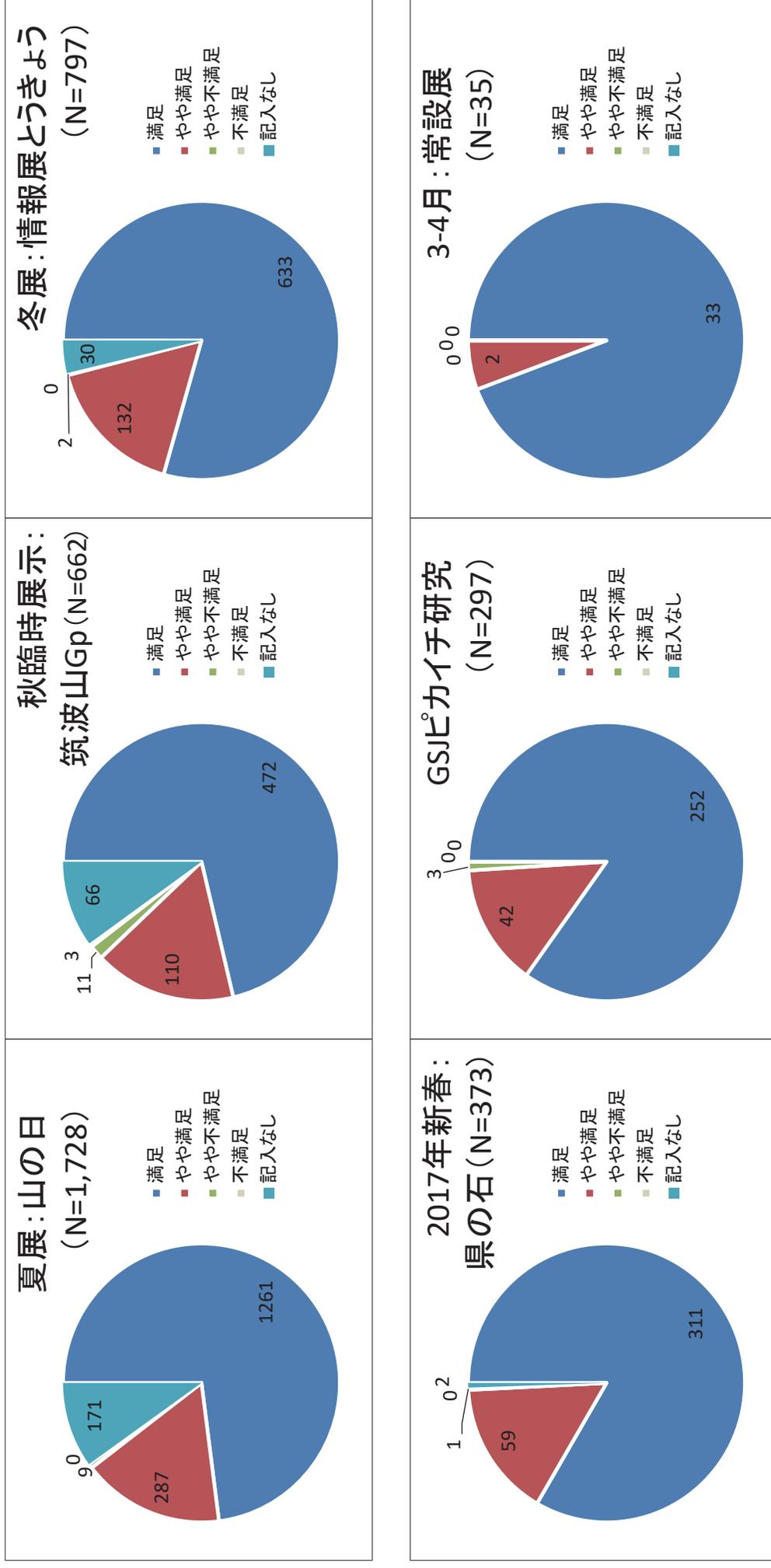
第46図 建物やサービスについて（館内の明るさ）（期間ごと）



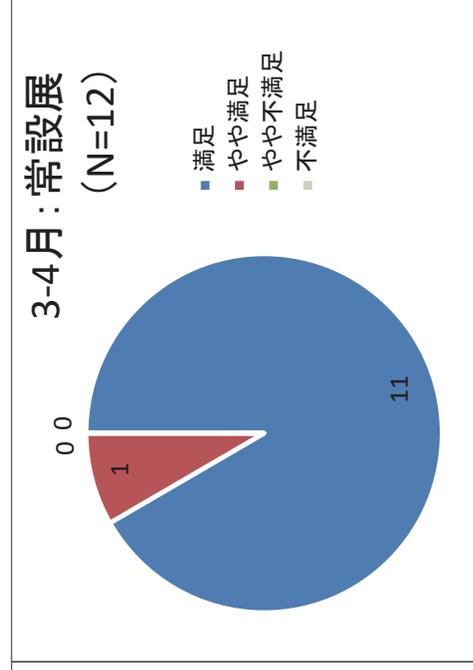
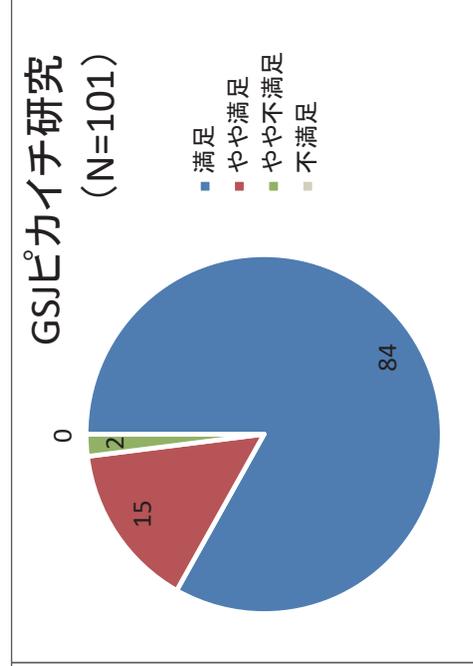
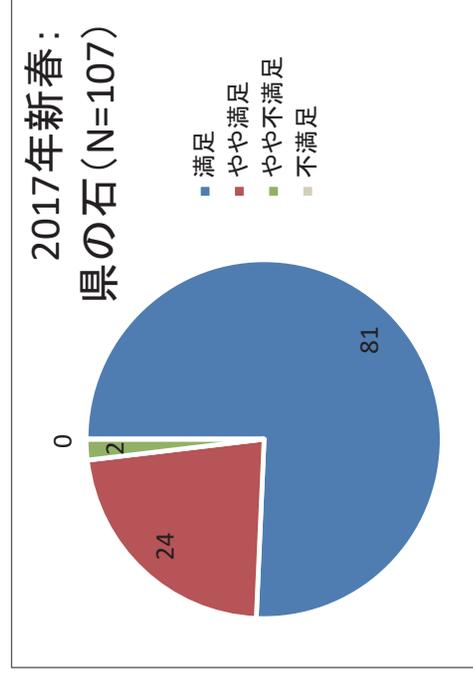
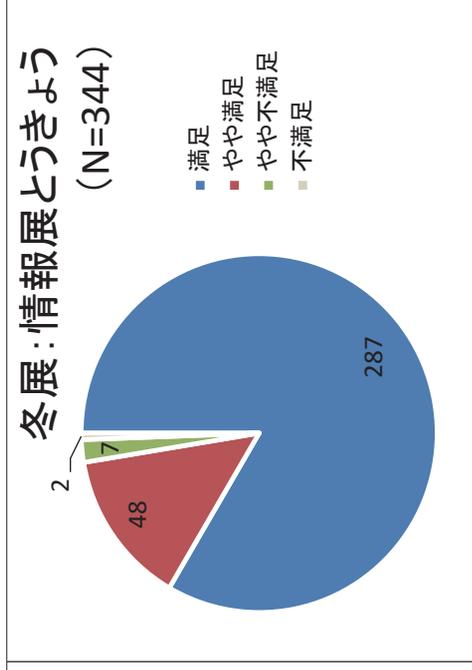
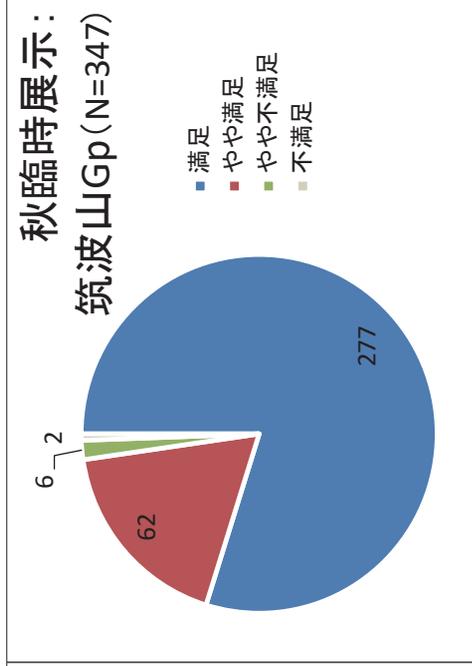
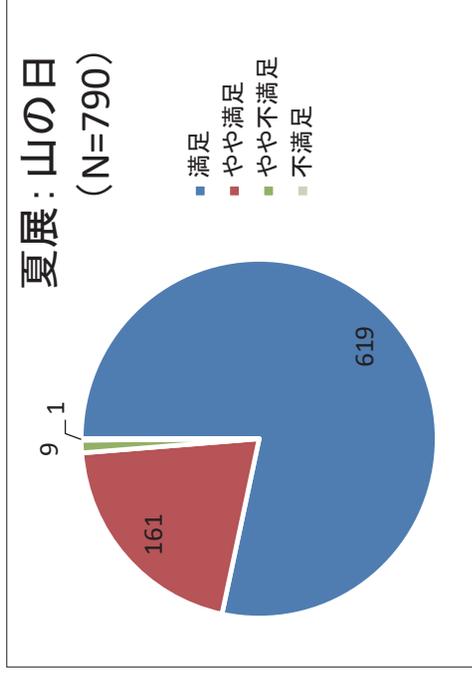
第47図 建物やサービスについて（空調温度）（期間ごと）



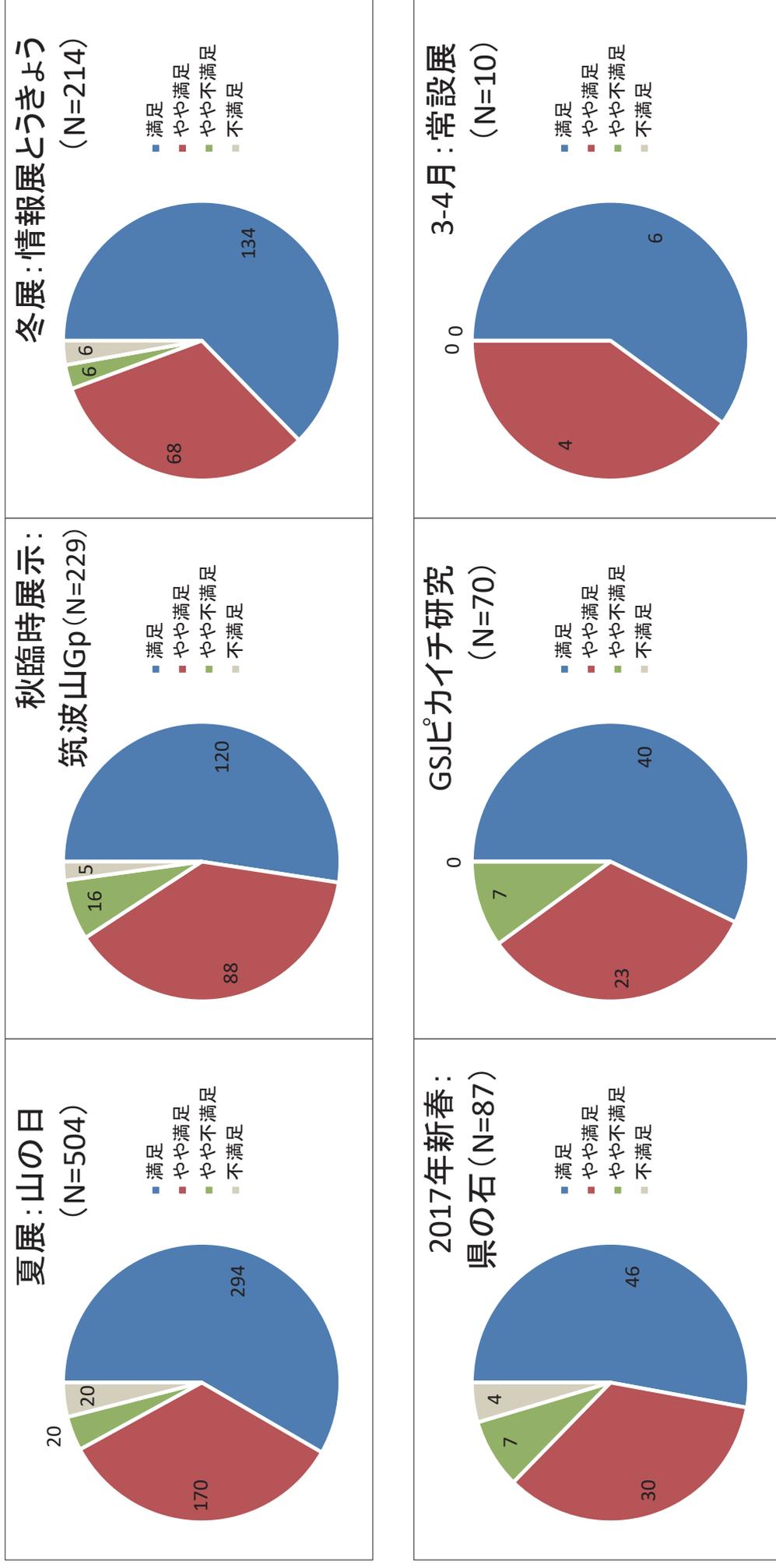
第48図 建物やサービスについて（清掃）（期間ごと）



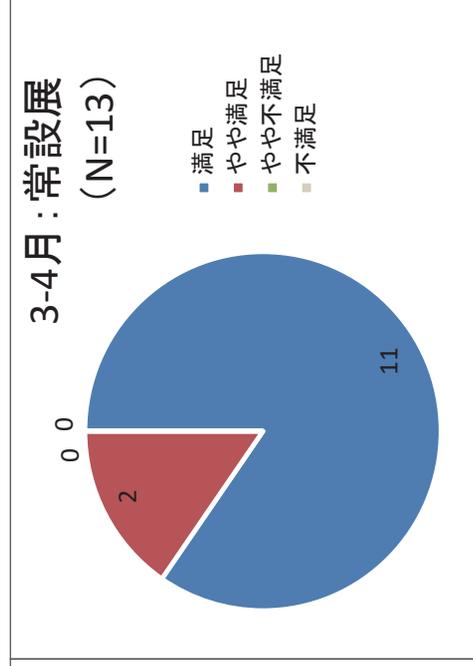
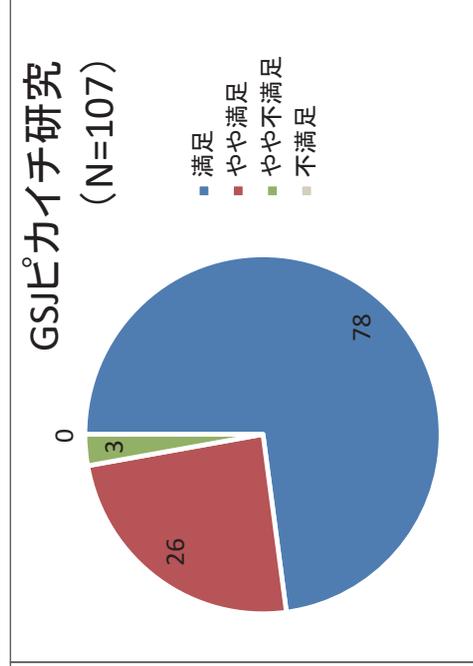
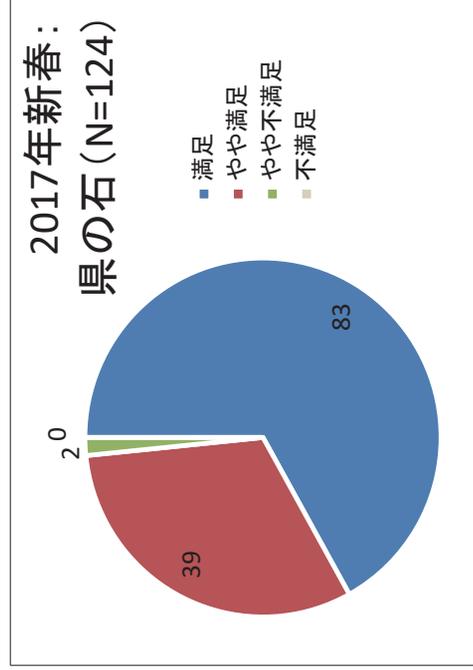
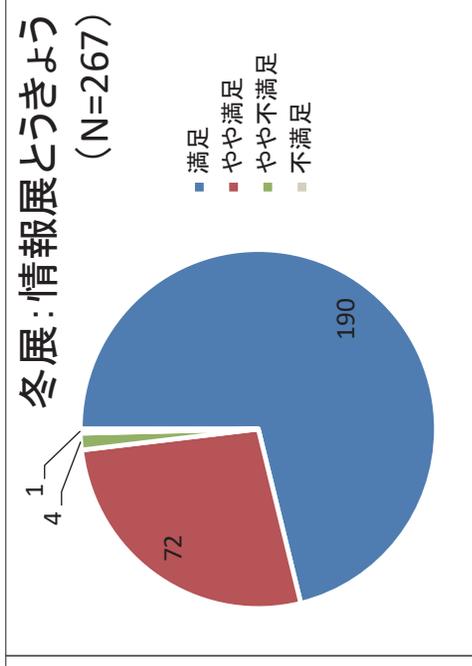
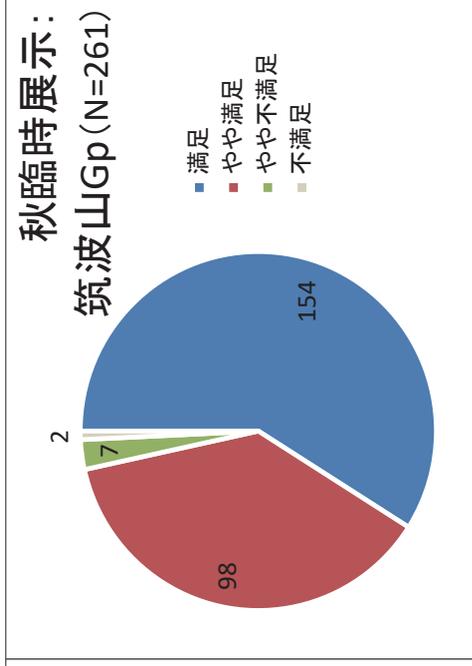
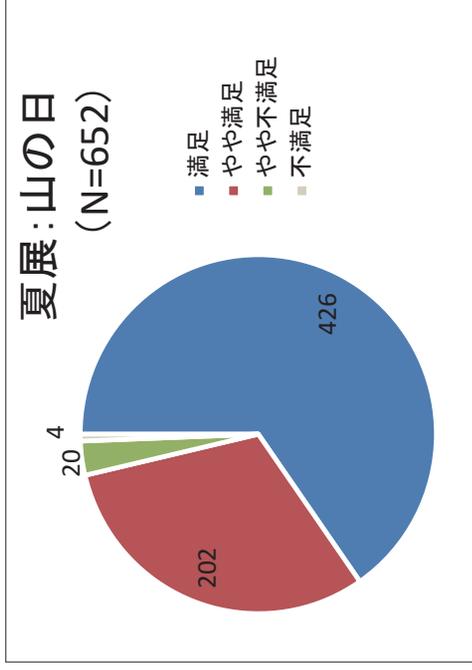
第49図 解説サービスについて（解説案内）（期間ごと）



第50図 解説サービスについて（QRコード解説）（期間ごと）



第51図 解説サービスについて（館内クイズ）（期間ごと）



地質調査総合センター技術資料集 8

# 地質標本館の来場者 アンケート分析

(2016 年度)

2017 年 10 月

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター 地質情報基盤センター  
〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 中央第 7

【執筆・集計担当】 辻野 匠・森尻理恵・朝川暢子・谷島清一・下川浩一・佐藤隆司  
高橋 誠・常木俊宏・中山 淳・小賀野功・川鈴木宏  
利光誠一・藤原 治

【レイアウト担当】 朝川暢子

【問い合わせ】 <https://www.gsj.jp/inquiries.html>

本報告書は産業技術総合研究所地質調査総合センターの組織著作物です。

「政府標準利用規約（第 2.0 版）」準拠





国立研究開発法人  
**産業技術総合研究所**



産業技術総合研究所 地質調査総合センター  
〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 中央第7  
<https://www.gsj.jp/>

AIST 15-G00002-8